

堆積土は褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

IV群（第54・58図） E260・S50～60、E300・S40～50グリッドで検出した南北方向の遺構群で、2条の小溝で構成されている。方向はN-2°-E～N-2°-Wで、検出長は1.10～5.05m、幅15～30cm、深さ2～10cmである。堆積土はにぶい黄褐色シルト・暗褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

5) ピット（第54・55図）

347基のピット（P4402～4552、4554～4576、4581～4703、4705～4734、4737～4753、4756、5249、5259～5261）を検出した。調査区中央から東側のE290～310・N210グリッドに分布している。遺物は縄文土器、内面黒色処理の土師器環や須恵器環の小片、土師器片などが少量出土した。

（4）遺構外出土の遺物（第59図～61図、図版18）

遺構外遺物として須恵器環1点、縄文時代の石器5点、古代以降の石製品1点を示した。第59図1は須恵器環で、回転糸切り調整の製品である。時期は9世紀前半と考えられる。第60図1は石匙である。表面に自然面を残す剥片を素材とし、その縁辺部を中心に二次加工を加えてつまみ部と刃部を作出している。つまみ部は器体の上部と右側縁の2ヶ所に作り出されており、一般的な石匙とは異なる。上部のつまみ部を主体として横型と考えた。第60図2～4は磨石である。やや扁平な円錐の平坦面の片面あるいは表裏両面に研磨痕が観察されるが、2は凹みが正面2ヶ所と裏面3ヶ所、3は敲打痕が正面に3ヶ所、古い敲打痕や凹みが残されている。4では凹みが正面6ヶ所と裏面1ヶ所の他に上下面と両側面に敲打痕が認められる。第61図1は凹石である。やや扁平な円錐の正面に4ヶ所の凹みが認められるが、器体の表裏両面には凹みよりも古いと考えられる研磨面が観察される。2は凝灰岩を素材とした砥石である。正面の研磨面は大きく磨り減っており、使用頻度の高さが窺われる。また、右側縁には刻み状の深い擦痕も認められる。

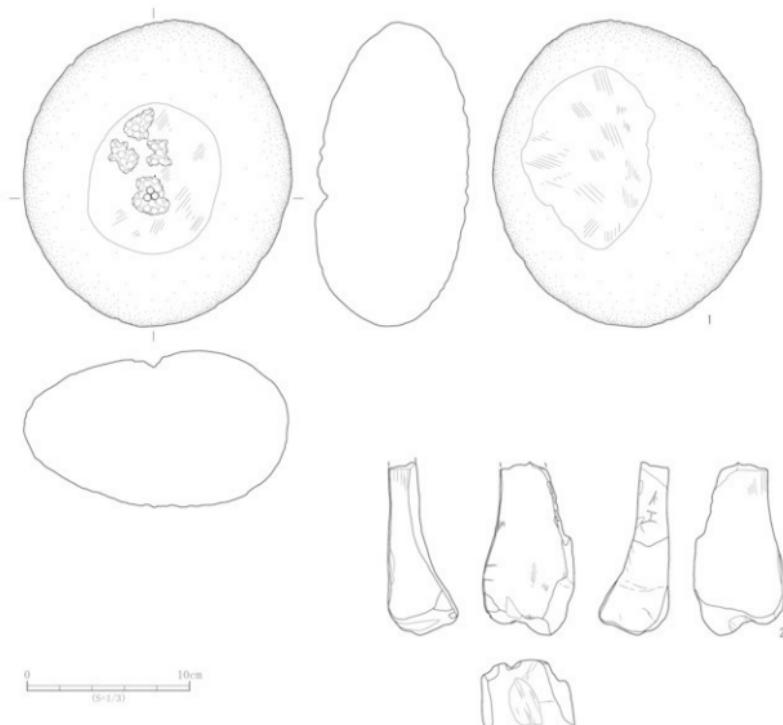


第59図 遺構外出土遺物（1）



No.	登録番号	規. 号	遺構・グリッド	種別	部	材	石 材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	Kr-a2-1	B	S0421(東部)下層	石製石器	石瓶	石瓶	安山岩	1.4×5.8×1.1	165	楕型、つまみ部2ヶ所あり。	18-10
2	Kr-a2-2	-	-	複石器	磨石	安山岩	[10.6]×[8.3]×5.5	[572.0]	側1+1、底2+3、左側縁部欠損。	18-11	
3	Kr-a3-3	V	-	複石器	磨石	安山岩	15.1×13.6×4.2	953.0	側1+0、底3+0。	18-12	
4	Kr-a4-4	B	S0421(東部)下層	複石器	磨石	安山岩	12.9×11.3×6.6	1295.0	側0+1、底0+1、底上1+0+2。	18-13	

第60図 遺構外出土遺物（2）



第61図 遺構外出土遺物（3）

8. 8B区の調査

8B区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑1基、小溝状遺構群2群、ピット3基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

(1) V層検出の遺構と遺物（第62図、図版9）

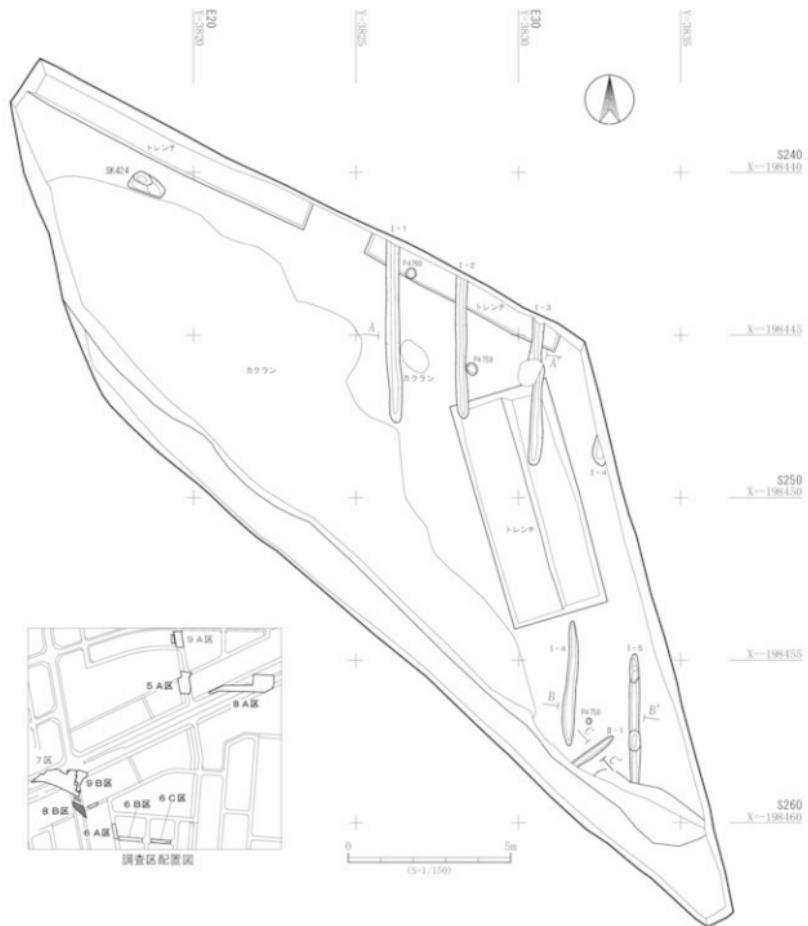
1) 土 坑

SK424土坑（第63図）E10・S240グリッドで検出した。平面形は隅丸長方形に近似し、長軸方向はN-67°-Wである。規模は長軸110cm、短軸55cm、深さ20～30cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形である。底面はほぼ平坦で、北東隅にピット状の窪みがある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

2) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向からI・II群に分けられる。

I群（第62・65図）E20～30・S240～250グリッドで検出した。南北方向の遺構群で、5条の小溝で構成され



第62図 大野田古墳群 8B区 V層造構配置図

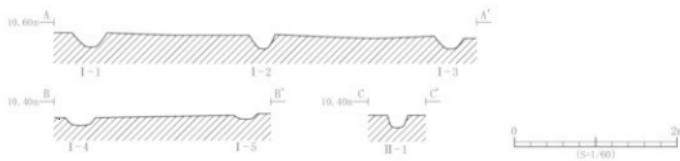
第5節 大野田古墳群9A区の調査



第63図 SK424土坑平面図・断面図

ている。方向はN-1°-W-N-2-6°-Eである。検出長は4.00~9.60m、幅20~45cm、深さ6~30cm、小溝の間隔は1.60m程である。堆積土は褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

II群（第62・64図） E30・S250グリッドで検出した。北東から南西方向の遺構群で、1条のみの検出であるが、調査区外に展開することを想定して群として扱った。方向はN-50°-Eで、検出長は1.50m、幅18~25cm、深さ3~14cmである。堆積土は暗褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。



第64図 小溝状遺構群断面図

3) ピット（第62図）

調査区の南側で、3基のピット（P4758~4760）を検出した。遺物は出土していない。

9. 9A区の調査

9A区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、掘立柱建物跡1棟、木棺墓2基、土坑10基、性格不明遺構6基、溝跡2条、小溝状遺構群5群、ピット245基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピット群については遺構配置図にのみ表示している。

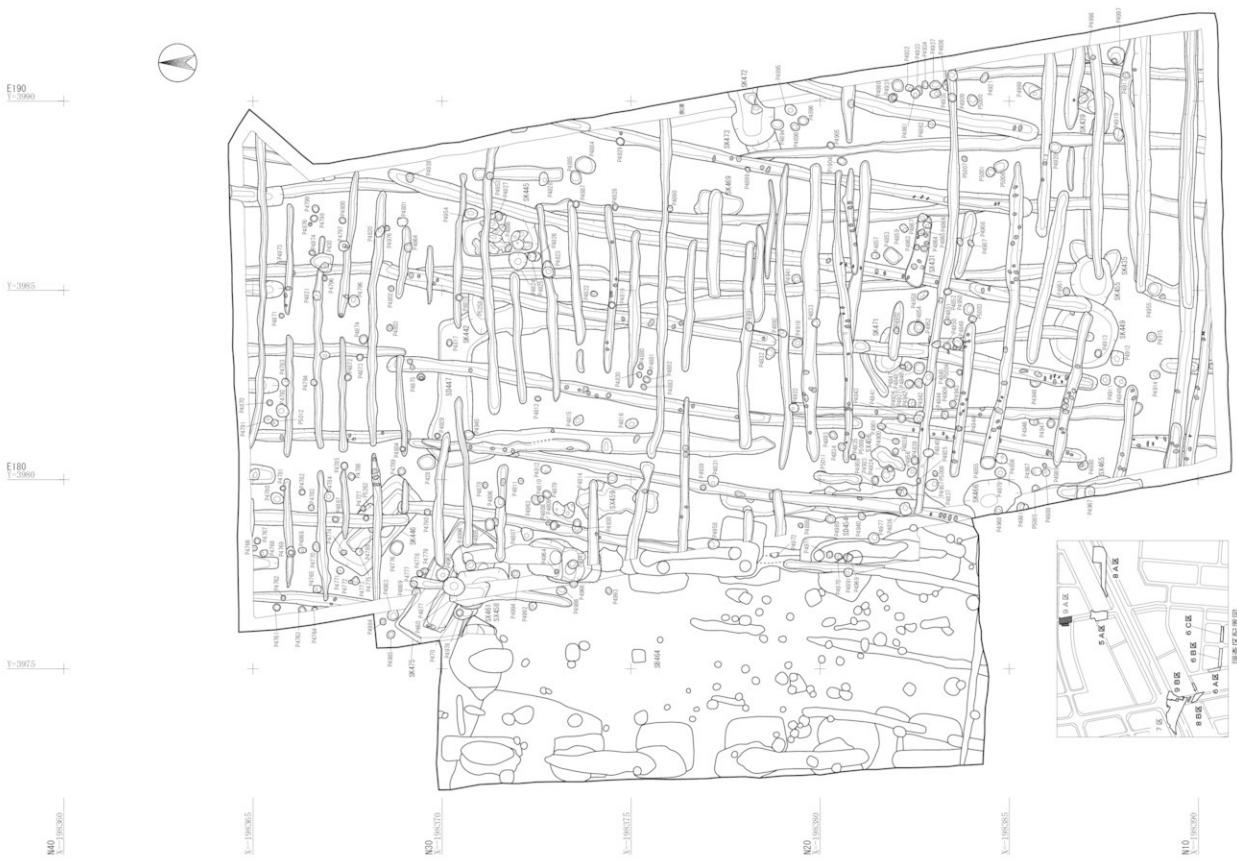
（1）V層検出の遺構と遺物（第65図、図版10）

1) 掘立柱建物跡

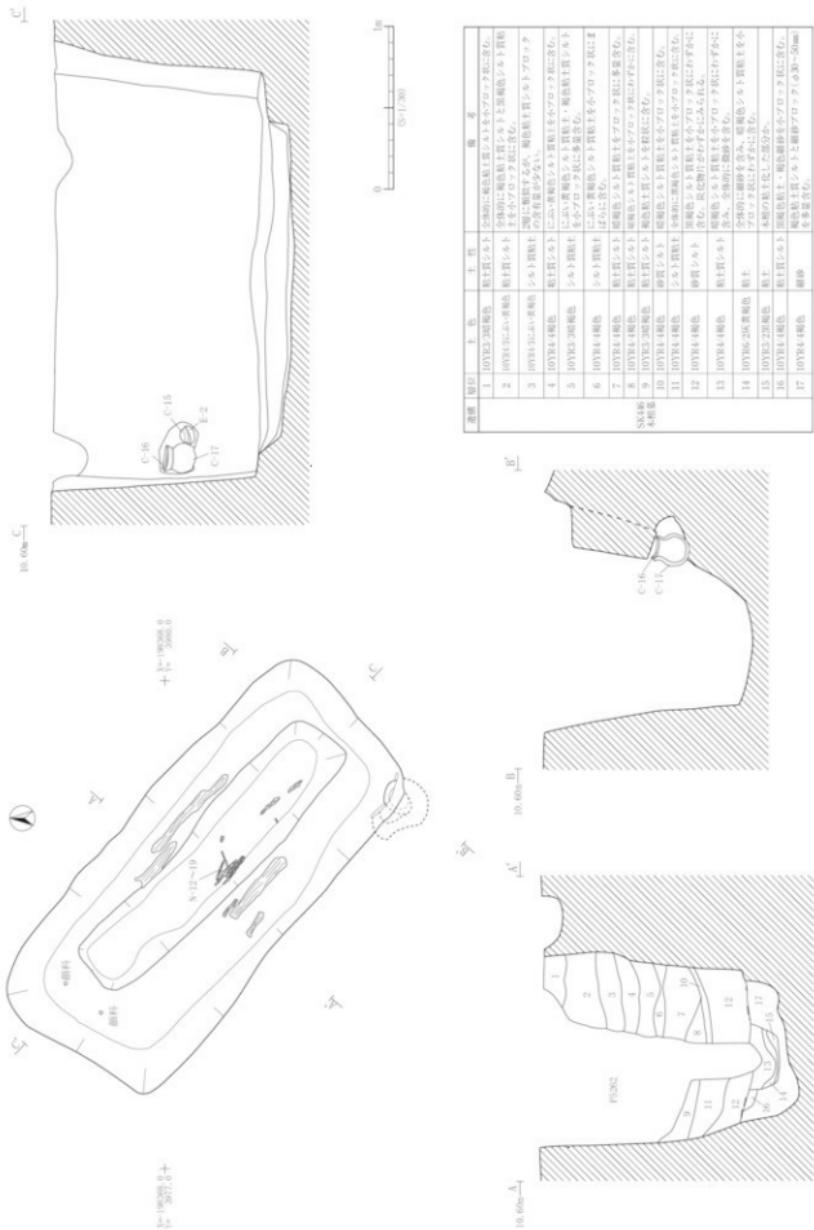
SB464掘立柱建物跡 大野田官衙遺跡の遺構であることから、詳細は第8節を参照されたい。

2) 木棺墓

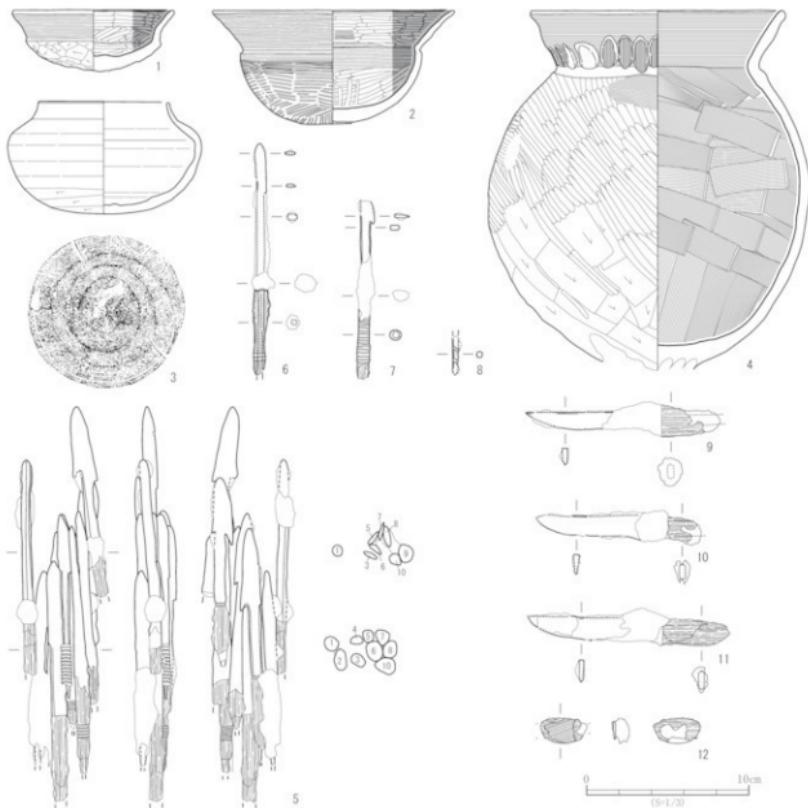
SK446木棺墓（第66図、図版10・11） E170~180・N40グリッドで検出した。小溝状構造I-4~6、II-4、IV-1、P4727・4774・4775・4789・5262と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-48°-Wである。掘り方の規模は長軸256~272cm、短軸108~125cm、深さ128~146cmで、断面形は逆台形である。深さ130cmほど位置で長軸205cm、短軸40~48cm、深さ18cmの木棺の痕跡を検出した。木棺の木質部はわずかに残存し、大半は黒褐色粘土に土壤化していた。木棺内から刀子2点と鉄釘11点の副葬品が出土した。また、墓壙の南隅壁面には底面から高さ40cmの位置に縦22cm、横32cm、奥行き27cmの「袋状掘り込み」が穿たれていた。中に土師器壺（C-16）を蓋として正位で重ねた土師器壺（C-17）と、土師器壺（C-15）を蓋として逆位で重ねた須恵器短頭壺（E-2）が納められていた。堆積土は17層に分層され、1~13層が埋土、14~15層が木棺が土壤化した堆積土、16~17層が墓壙掘り方関連の埋土である。



第65図 大野田古墳群9A区V層墓配位置図

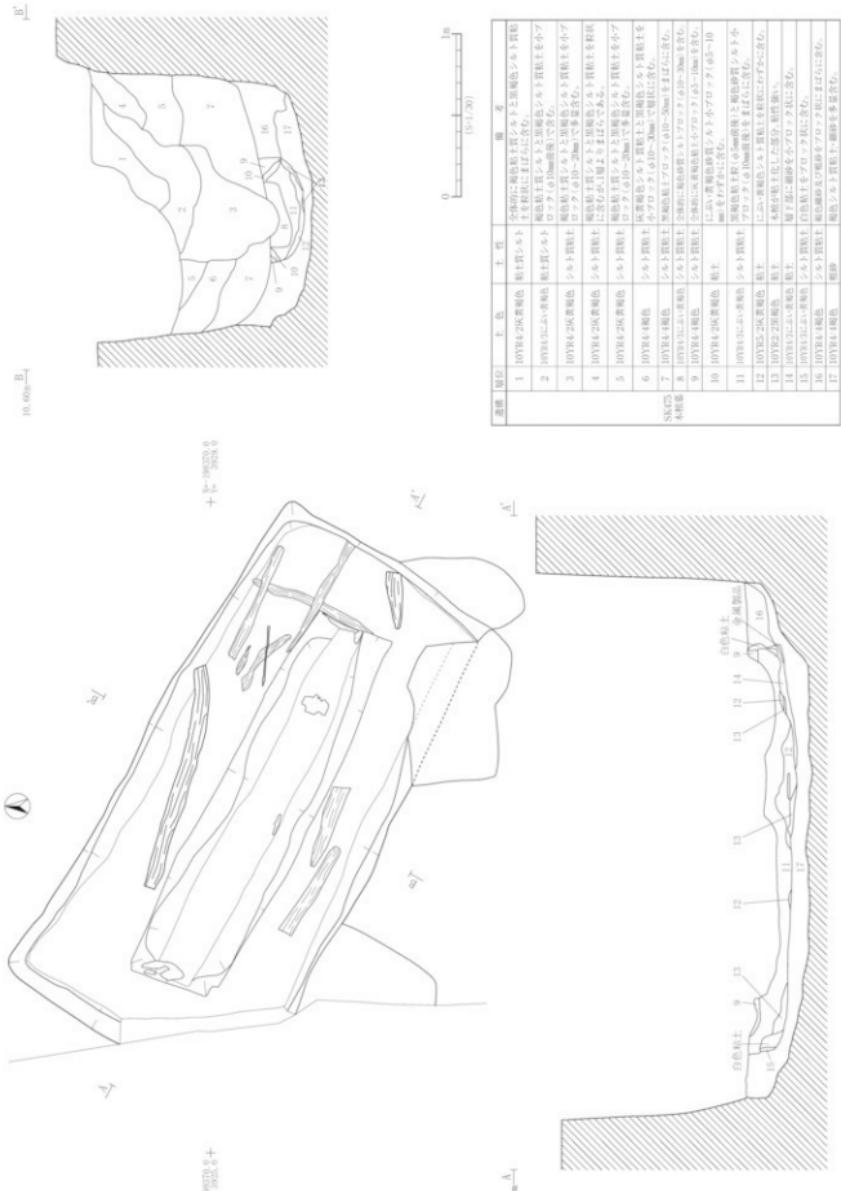


第66図 SK446木杭臺平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺物	層	位	種	別	器	種	法 長(cm)	外側調整	内側調整	備 考	写真図版	
1	C-15	SK446	-	上部器	件				9.8××3.7	ヨコナタ・ヘラケズリ	ハラミギキ・黑色處理	19-1		
2	C-16	SK446	-	上部器	件				15.0××7.0	ヘラナダ・ナゲ・ハケメ	ハラミギキ・ナゲ・黑色處理	19-2		
3	E-2	SK446	-	組合意	件				8.0×3.4×7.2	ログラナダ・底面削除・ヘラケズリ	ヨコナタ・ログラナダ	19-3		
4	C-17	SK446	-	上部器	要				15.6××規22.0	ヨコナタ・脚ナサニ・ヘラミギ キ・ヘラケズリ	ヨコナタ・ヘラナダ	19-4		
N-1	SK446	-	出土遺物	層	位	種	別	器	種	長さ×幅×厚さ(cm)	周部形状	備 考	写真図版	
5-1	SK446	-	遺物品	鉢						規13.2×0.6×0.7	片刃	小明(縫開か?)	側底丸き。	19-5
5-2	SK446	-	遺物品	鉢						規11.9×0.7×0.8	脇扶長・三角形	小明(縫開か?)	側底丸き。	
5-3	SK446	-	遺物品	鉢						規14.3×0.8×0.8	脇扶長・三角形	小明(縫開か?)	側底丸き。	
5-4	SK446	-	遺物品	鉢						規14.8×0.9×0.8	脇扶長・三角形	小明(縫開か?)	側底丸き。	
5-5	SK446	-	遺物品	鉢						規11.4×0.5×0.7	脇扶長・三角形	小明(縫開か?)	側底丸き。	
5-6	SK446	-	遺物品	鉢						規13.3×0.8×0.8	脇扶長・三角形	小明(縫開か?)	側底丸き。	19-5
5-7	SK446	-	遺物品	鉢						規15.2×0.7×0.7	片刃?	小明(縫開か?)	側底丸き。	
5-8	SK446	-	遺物品	鉢						規11.9×0.5×1.0	片刃?	小明(縫開か?)	側底丸き。	
5-9	SK446	-	遺物品	鉢						規11.7×0.6×0.7	脇扶長・三角形	小明(縫開か?)	側底丸き。	
5-10	SK446	-	遺物品	鉢						規11.5×0.6×0.7	脇扶長・三角形	小明(縫開か?)	側底丸き。	
6	N-13	SK446	-	遺物品	鉢					規14.3×0.7×0.6	片刃?	小明(縫開か?)	側底丸き。	19-6
7	N-14	SK446	-	遺物品	鉢					規11.3×0.6×0.4	片刃?	小明(縫開か?)	側底丸き。	19-7
8	N-15	SK446	-	遺物品	鉢					規23×0.3×0.8		小明(縫開か?)	底の丸。	19-8
N-16	SK446	-	出土遺物	層	位	種	別	器		長さ×幅×厚さ(cm)		備 考	写真図版	
9	SK446	-	遺物品	刀子						12.0×1.0×0.4		直角。	19-9	
10	SK446	-	遺物品	刀子						10.2×1.2×0.4		直角。	19-10	
11	SK446	-	遺物品	刀子						12.3×1.4×0.3		直角。	19-11	
12	SK446	-	遺物品	刀子						-		直角のル。	19-12	

第67図 SK446木棺墓出土遺物



遺物は、土師器壺・坏、須恵器短頸壺、鉄鏃、鹿角装刀子などが出土し、土師器坏2点、土師器壺1点、須恵器短頸壺1点、鉄鏃13点、鹿角装刀子4点を第67図に図示した。1・2は土師器坏である。1は小型の製品で、口縁部と底部の境に明瞭な稜をもち、丸底の底部に外反する口縁部が接続する。2は身の深い器形で、1に比べて器厚がやや薄く、口縁部は大きく外傾している。3は須恵器短頸壺で、体部最大径がやや上位にあり、口径が比較的大きい特徴がある。底部及び体部下半は回転ヘラケズりがなされている。胎土は精良で焼成も堅緻である。田辺編年のTK10型式に比定される（田辺 1966・1981）。4は土師器壺で、外面口縁下部に指オサエの痕跡が残る。1・2・4の土師器は住社式古段階（仙台市教育委員会 2010）に位置付けられ、3の須恵器とともに、それらの年代は6世紀中葉と推定される。5～8は鉄鏃である。5は鉄鏃10本が固まっていたものである。鉄鏃はすべて長頸鏃で、刃部は脇抜長三角形と片刃の2種類である。鋤化のため関部の形状は不明であるが、鍛造の可能性が考えられる。茎部には樹皮巻きが確認できる。8は鉄鏃の茎部片である。9～12は刀子である。このうち9～11は大きさ・形状ともほぼ同一で、鹿角装の格えとなっている。12は鹿角の残片であるが、9～11とは接合しなかった。なお、表面には繊維質が付着している。糸に撚りがなく目が粗いことから、成目の平綱が付着しているものと考えられる。

木棺墓の年代については、袋状の掘り込みから出土した土師器と須恵器短頸壺から、6世紀中葉と考えられる。

SK475木棺墓（第68図、図版10～12） E170・N30～40グリッドで検出し、SK446木棺墓の南西で検出された。SB464、SX458・461、小溝状遺構 I-8～10、II-3、P460・470・4779・4869・4877・4962・4978・4996と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-62°-Wである。掘り方の規模は長軸343cm、短軸165cm、深さ160cmで、断面形は逆台形である。深さ130cmほどの位置で長軸244cm、短軸61cm、深さ25cmの割り竹形木棺の痕跡を検出した。木棺の木質部はわずかに残存し、大半は黒褐色粘土に土壌化していた。また、木棺木口に貼られていたと思われる白色粘土が部分的に残存していた。「袋状掘り込み」についてはSK446で検出した部分がSB464の柱穴により削平されているため、その有無は不明である。堆積土は17層に分層され、1～7層が人為的な埋土、10～14層が木棺が土壌化した堆積土、16・17層が墓壙掘り方関連の堆積土である。遺物は、土師器壺小片、副葬品として木棺内から刀子1点、不明鉄製品1点が出土した。

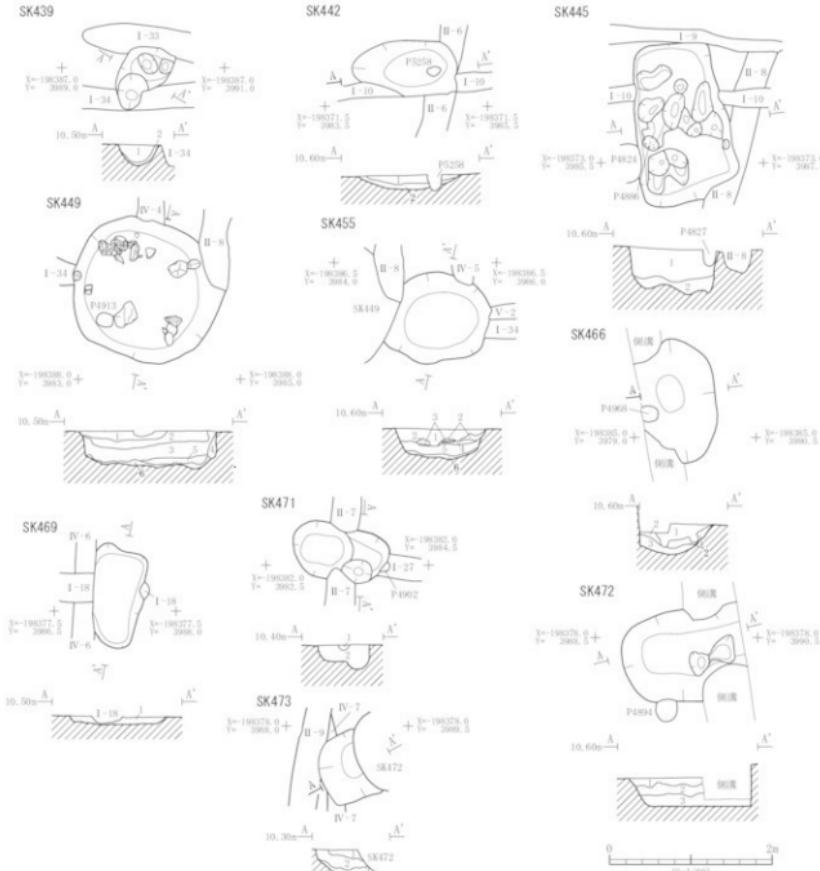
3) 土 坑

SK439土坑（第69図） E180～190・N20グリッドで検出した。小溝状遺構 I-33・34と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整梢円形と思われ、長軸方向はN-32°-Eである。検出規模は長軸方向で86cm、短軸58cm、深さ25～54cmである。断面形はU字形で、底面にはピット状の掘り込みが3ヶ所検出された。堆積土は2層に分層される。遺物は、土師器の小片が出土した。

SK442土坑（第69図） E180・N30グリッドで検出した。SD447、小溝状遺構 I-10、II-7、P5258と重複関係にあり、SD447より新しく、他の遺構よりも古い。平面形は梢円形と思われ、長軸方向はN-88°-Eである。検出規模は長軸105cm、短軸45cm、深さ17cmで、壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は2層に分層される。遺物は、内面黒色処理された土師器坏や高台付坏、須恵器壺・蓋の小片などが出土地しており、そのうち1点を第70図に図示した。1は土師器高台付坏の高台部分である。

SK445土坑（第69図、図版12） E180・N30グリッドで検出した。小溝状遺構 I-9・10、II-8、P4824・4827・4886と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-9°-Wである。規模は長軸198cm、短軸115cm、深さ42～55cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK449土坑（第69図、図版12） E180・N20グリッドで検出した。SK455、小溝状遺構 I-34、II-8、IV-4、P4913と重複関係にあり、SK455より新しく、他の遺構よりも古い。平面形はほぼ円形である。規模は長軸182cm、短軸165cm、深さ40～47cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積



造体	短毛	土色	オ性	備 名	造体	短毛	土色	オ性	備 名
SK439	1	10YR4/28 黄褐色	シルト質粘土	マツダ旗を含む、褐色粘土(シルト)を粒状に含む。	SK455	1	BYR3/3暗褐色	シルト質粘土	全般的に黒褐色で、シルト質粘土を粒状に含む。
	2	10YR4/28 黄褐色	シルト質粘土	褐色粘土(シルト)を小プロック状に含む。		2	BYR3/3-4.5 黄褐色	粘土質土	褐色粘土(シルト)を粒状に含む。概ね(3-5mm)の砂を含む。
SK442	1	10YR3/25 暗褐色	シルト質粘土	全般的に炭化物質・塊状を含み、褐色粘土質粘土をワッフル状に含む。	SK456	1	BYR2/2 黑褐色	シルト質粘土	褐色粘土(シルト)を粒状に含む。
	2	10YR4/28 黄褐色	粘土	褐色シルト質粘土を小プロック状に含む。		2	10YR3/28 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土をワッフル状に含む。
SK445	1	10YR3/25 暗褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土と褐色粘土(シルト)をワッフル状に含む。	SK457	1	10YR3/28 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土の他に炭化物質を含む。
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土と褐色粘土(シルト)をワッフル状に含む。		2	BYR4/4 黑褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土をワッフル状に含む。
SK449	1	10YR3/25 暗褐色	シルト質粘土	全般的に炭化物質(4-5mm)と、褐色シルト(シルト)を含む。	SK469	1	BYR4/4 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土をワッフル状に含む。
	2	10YR3/25 暗褐色	シルト質粘土	赤土(2-5mm)を多量含む。全般に炭化物質を含む。		2	BYR3/3 暗褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土を粒状に含む。
SK449	3	10YR3/30 暗褐色	粘土	褐色シルト(シルト)をワッフル状に含む。	SK471	2	BYR4/25 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土をワッフル状に含む。
	4	10YR3/30 暗褐色	粘土	炭化物質(5mm)を含む。褐色シルト質粘土をワッフル状に含む。		3	BYR4/25 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土を粒状に含む。
SK453	5	10YR3/25 暗褐色	粘土	褐色シルト(シルト)をワッフル状に含む。	SK472	4	BYR3/4-5 黑褐色	シルト質粘土	褐色シルト(シルト)をワッフル状に含む。
	6	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト(シルト)をワッフル状に含む。		5	BYR4/4 黑褐色	シルト質粘土	褐色シルト(シルト)を粒状に含む。
SK466	1	10YR3/30 暗褐色	シルト質粘土	褐色シルト(シルト)をワッフル状に含む。	SK473	1	BYR4/25 黄褐色	粘土	褐色化鉄錆・マンガン斑を含む。
	2	10YR4/31-32 黑褐色	シルト質粘土	褐色シルト(シルト)をワッフル状に含む。		2	BYR3/4-5 黑褐色	粘土	褐色化鉄錆・マンガン斑を含む。層下部に褐色シルトを含む。
SK466	3	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト(シルト)を粒状に含む。		3	BYR4/4 黄褐色	シルト質粘土	に付い褐色地軸粘土を粒状にまばらに含む。

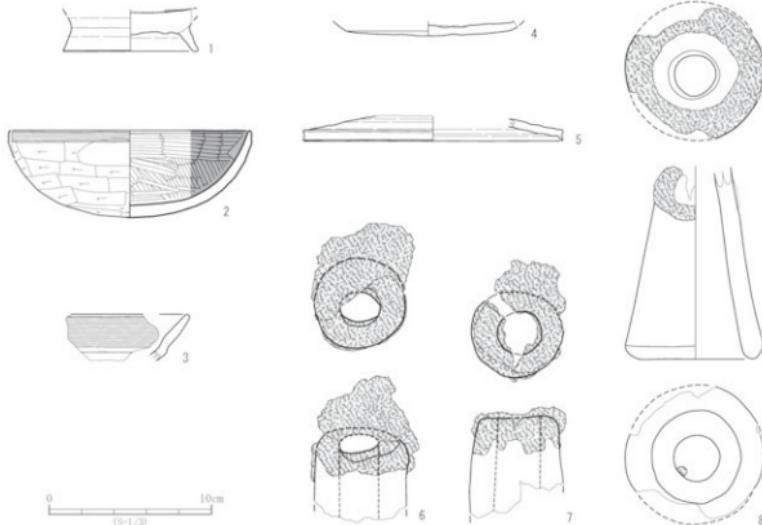
第69圖 SK439・442・445・449・455・466・469・471～473土坑平面圖・断面圖

土は6層に分層され、焼土や炭化物が多量に含まれている。遺物は、土師器片、須恵器片、繩羽口片、鉄滓（570g）などが出土しており、このうち第70図2～8に7点を図示した。2は丸底の土師器片である。3は有段丸底杯の小片である。4は須恵器片の底部片で、ヘラ切り後に回転ケラケズリ調整される。5は須恵器蓋である。6～8は土製の繩羽口で、8は根元端部が遺存している。長さは15cm前後と思われ、やや小型である。先端部は欠損しているものの、割れ口にも溶解物が付着していることから現状の形でも使用されていた可能性がある。6・7は先端部の破片である。本土坑の年代は5の須恵器蓋から、8世紀初頭以降と考えられる。

SK455土坑（第69図、図版12） E180・N20グリッドで検出し、西側が一部擾乱されている。SK449、小溝状構Ⅰ-34、Ⅱ-8、Ⅳ-5、Ⅴ-2、P435・5257と重複関係にあり、P435・5257より新しく、他の遺構より古い。平面形は梢円形と思われ、長軸方向はN-85°-Eである。検出規模は長軸132cm、短軸110cm、深さ37cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は6層に分層される。遺物は出土していない。

SK466土坑（第69図） E170・N20グリッドで検出し、西側の調査区外へ延びる。P4968と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整梢円形と思われ、長軸方向はN-11°-Eである。検出規模は南北155cm、東西90cm、深さ38cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK469土坑（第69図） E180・N30グリッドで検出した。小溝状構Ⅰ-18、Ⅳ-6と重複関係にあり、本遺構



No.	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	寸法径×底径×高さ(cm)	外周調整	内周調整	施考	写真図集
1	D-7	SK442	-	土師器	両台付片	φ7.6cm × 高2.1	ロクロナデ・底端斜板削り	ロクロナデ・黑色処理	16-16	
2	C-18	SK449	-	土師器	片	φ15.0cm × × 5.0	ロコナデ・ハラケズリ	ハラミガキ・黑色処理	16-17	
3	C-19	SK449	-	土師器	片	φ× × × 2.8	ロコナデ・ハラケズリ?	ロコナデ	-	
4	E-3	SK449	-	須恵器	片	φ× × × 1.1	回転ハラケズリ	ロクロナデ	-	
5	E-8	SK449	-	須恵器	蓋	φ15.8cm × × 1.6	ロクロナデ	ロクロナデ	-	
6	P-1	SK449	-	土製品	縁(目)	5.6cm × × 5.1	-	-	溶解物付着	16-18
7	P-2	SK449	-	土製品	縁(目)	5.2cm × × 6.9	-	-	溶解物付着	16-19
8	P-3	SK449	-	土製品	縁(目)	5.2cm × 8.9 × 11.9	-	-	溶解物付着	16-20

第70図 SK442・449土坑出土遺物

が古い。平面形は概ね隅丸長方形で、長軸方向はN-8°-Eである。規模は長軸128cm、短軸50~62cm、深さ7cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は、土師器の小片が出土した。

SK471土坑（第69図） E180・N20グリッドで検出した。小溝状造構I-27、II-7、P4902と重複関係にあり、本造構が古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-79°-Wである。規模は長軸120cm、短軸70cm、深さ20~32cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はU字形で、底面には段差があり、ピット状の掘り込みも検出されている。堆積土は2層に分層される。遺物は、混入遺物として縄文土器片が出土した。

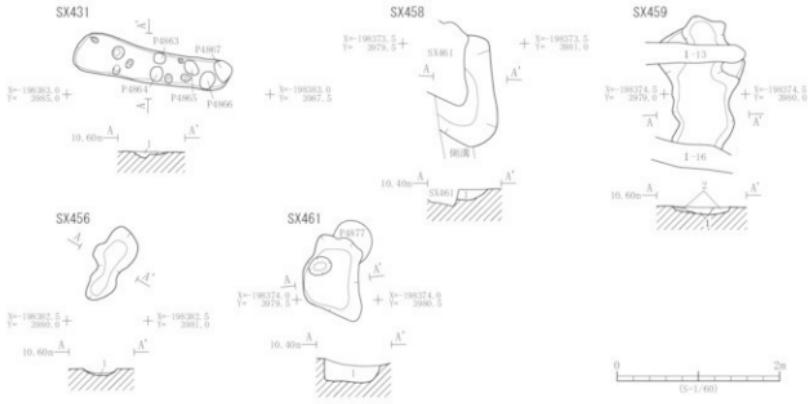
SK472土坑（第69図） E180~190・N30グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。SK473、P4894と重複関係にあり、SK473より新しく、他の造構より古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-79°-Eである。検出規模は長軸方向で153cm、短軸115cm、深さ5~36cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は逆台形で、底面の南側にはピット状の掘り込みが2ヶ所で検出された。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK473土坑（第69図） E180・N30グリッドで検出した。SK472、小溝状造構II-9、IV-7と重複関係にあり、本造構が古い。平面形は不整円形で、規模は径85cm前後、深さは35cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形はU字形で、底面には凸凹がある。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

3) 性格不明造構

SX431性格不明造構（第71図） E180・N20グリッドで検出した。小溝状造構II-8、IV-5・6、P4863~4867と重複関係にあり、小溝状造構より新しく、他の造構より古い。平面形は溝状で、長軸方向はN-79°-Wである。規模は長軸200cm、短軸44cm、深さ3~8cmである。断面形は皿状で、底面にはピット状の掘り込みが7ヶ所で検出された。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SX456性格不明造構（第71図） E180・N20グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-32°-Eである。規模は長軸98cm、短軸26~50cm、深さ3~13cmで、断面形は皿状である。堆積土は単層である。遺物は出土



造構	層位	土色	土性	標名	造構	層位	土色	土性	標名
SX431	1	10YR4/28M黄褐色	粘土質シート	楕円形シートをブロック状に含む。底面は凸凹で、ピット状の掘り込み部分があり、そこにはシート質粘土が入っている。	SX459	1	10YR3-2/20M褐色	シート質粘土	に多い褐色色シート質粘土ブロックを多量含む。
SX456	1	10YR4/28M黄褐色	シート質粘土	褐色シート質粘土ブロックを少量含む。	SX458	2	10YR4/3C-4M灰褐色	シート質粘土	に褐色色シート質粘土ブロックを少量含む。
SX461	1	10YR3-2/20M褐色	シート質粘土	全体的に褐色シート質粘土を小ブロック状もしろは粒状に含む。	SX456	1	10YR3/20M褐色	シート質粘土	

第71図 SX431・456・458・459・461性格不明造構平面図・断面図

していない。

SX458性格不明遺構（第71図） E170・N30グリッドで検出した。SB464、SX461、小溝状遺構群II-3、P460・470と重複関係にあり、SX461、P460より古く、他の遺構よりも新しい。平面形は重複により不明であるが、規模は南北方向で135cm、東西方向で75cm、深さ15~21cmである。壁面はやや開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状である。底面には凹凸がある。堆積土は单層である。遺物は、土師器の小片が出土した。

SX459性格不明遺構（第71図） E170・N30グリッドで検出した。小溝状遺構I-13・16と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はN-4°-Eである。規模は長軸方向で160cm、短軸は67~105cm、深さ5~13cmで、断面形は皿状である。堆積土は2層に分層される。遺物は、土師器の小片が出土した。

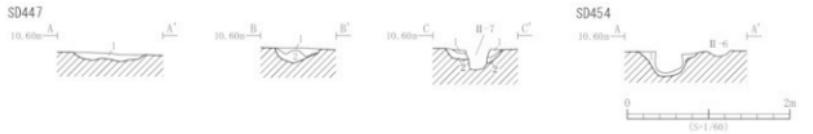
SX461性格不明遺構（第71図） E170・N30グリッドで検出した。SB464、SX458、小溝状遺構II-3、P460・470・4877と重複関係にあり、P460・4877より古く、他の遺構よりも新しい。平面形は不整方形で、長軸方向はN-3°-Eである。規模は長軸100cm、短軸62cm、深さ20~25cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は单層である。遺物は、土師器の小片が出土した。

SX465性格不明遺構（第65・72図） E170・N20グリッドで検出した。西側の調査区外へ延び、ごく一部の検出のため遺構配置図のみに示した。SX467、小溝状遺構群IV-1、P5005と重複関係にあり、P5005よりも新しく、他の遺構より古い。平面形は不明で、南北210cm、東西15cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

4) 溝跡

SD447溝跡（第65・72図） E180・N30~40グリッドで検出した。SK442、小溝状遺構I-8~19、II-5~7、P4817・4819・4929・4945と重複関係にあり、本遺構が古い。「コ」字形に構築され、長軸方向はN-2°-Wである。検出長は19.10m、幅35~115cm、深さ5~18cmである。断面形は逆台形もしくは皿状で、堆積土は2層に分層される。遺物は、須恵器甕の小片が出土した。

SD454溝跡（第63・72図） E170・N20~30グリッドで検出した。小溝状遺構I-19・22・28、II-5、P4836・4837・4940・4960・4989と重複関係にあり、本遺構が古い。南北方向の溝跡で、主軸方向はN-2°-E、検出長は5.10m、幅65~88cm、深さ30cmである。断面形はU字形で、堆積土は单層である。遺物は出土していない。



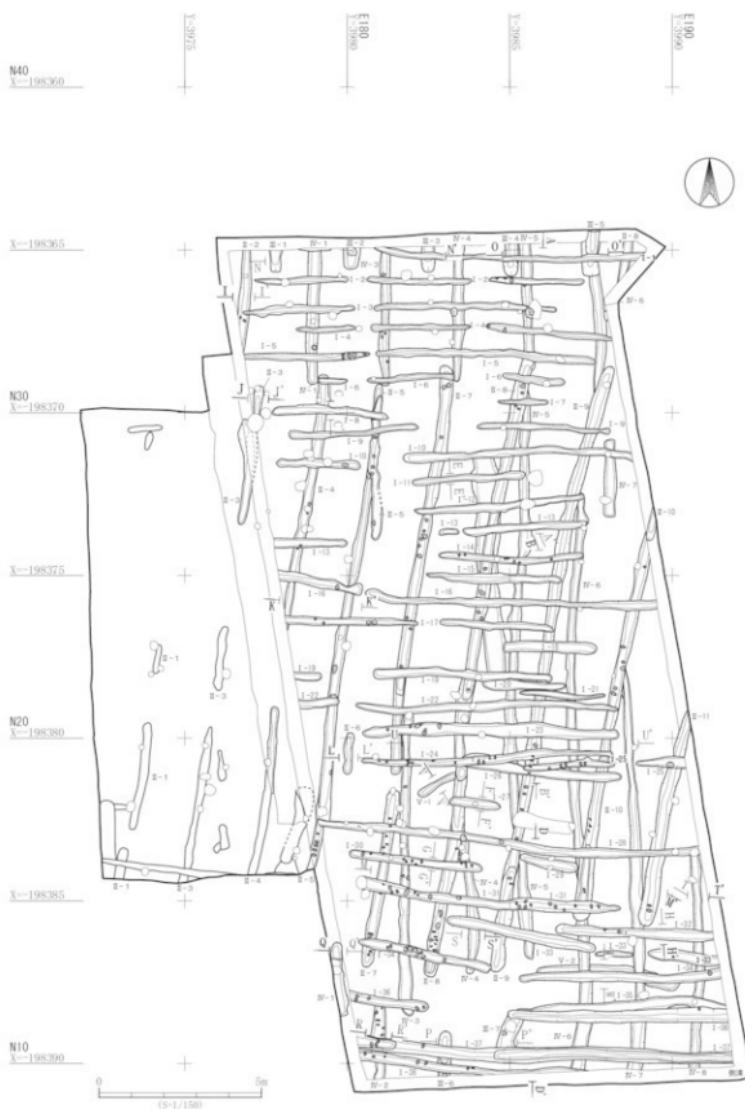
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SD447	1	IOYR3-2 黒褐色	シルト質粘土	褐色粘土質シルトを小ブロック状に多量含む。	SD454	1	IOYR3-2 黒褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土をブロック状に多量含む。
	2	IOYR4-4 黄褐色	シルト質粘土	全体的に黒褐色シルト質粘土を軽井目に含み、黒褐色シルト質粘土を小ブロック状にわずかに含む。					

第72図 SD447・454溝跡断面図

5) 小溝状遺構群

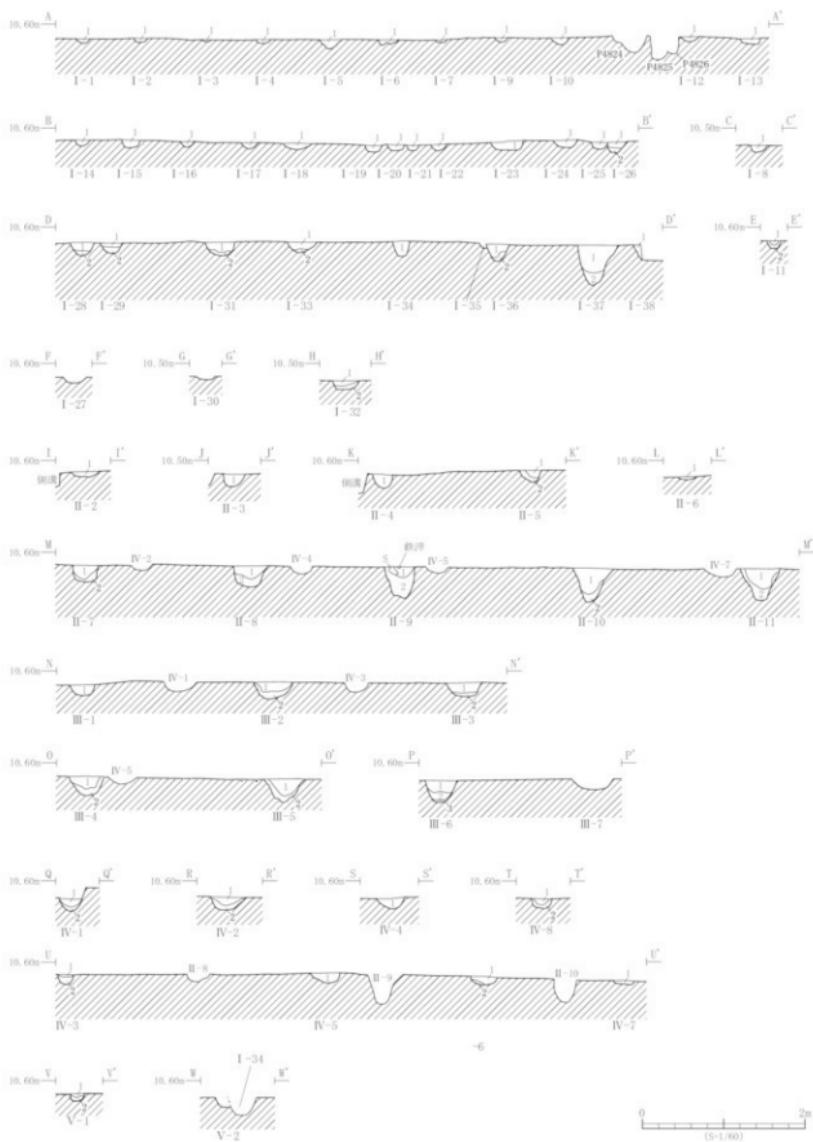
畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係からI~V群に分けられる。重複関係からV群→IV群→III群→II群→I群の変遷が考えられる。また、鉄滓や輪の羽口片が出土している。小溝状遺構群から出土した鉄滓は計19.7kgである。

I群（第73・74図） E170~190・N10~40グリッドで検出した東西方向の遺構群で、38条の小溝で構成される。方向はN-78~89°-Wで、検出長は1.55~11.85m、幅10~48cm、深さ2~50cmである。小溝の間隔は接するものから0.80mまである。堆積土は黒褐色粘土質シルト、褐色砂質シルト、黒褐色シルト質粘土、暗褐色粘土質シルト、褐色シルト質粘土を主体とする。遺物は、土師器・須恵器の小片及び鉄滓が出土した。



第73图 小溝狀遺構群平面圖

第5節 大野古墳群9A区の調査



第74図 小溝状遺構群断面図

II群(第73・74図) E170~190・N20~40グリッドで検出した南北方向の遺構群で、11条の小溝で構成される。方向はN-5~12°-Eで、検出長は1.25~23.00m、幅15~60cm、深さ5~49cmであるが、II-1とII-3の大半は確認調査のため深さは不明である。小溝の間隔は接している溝を除けば0.40~1.80cmである。堆積土は黒褐色粘土質シルト・褐色砂質シルト・黒褐色シルト質粘土・暗褐色粘土質シルト・褐色シルト質粘土を主体とする。遺物は、土師器小片や鉄滓が出土した。

Ⅲ群(第73・74図) E170~180・N40、E180・N10~20グリッドで検出した南北方向の遺構群で、7条の小溝で構成される。方向はN-1~13°Eで、検出長は0.65~1.05m、幅30~60cm、深さ13~39cmで、小溝の間隔は1.40~1.90mである。堆積土は黒褐色粘土質シルト、灰黃褐色シルト質粘土、褐色シルト質粘土、シルト質粘土を主体とする。遺物は、鉄滓が出土した。

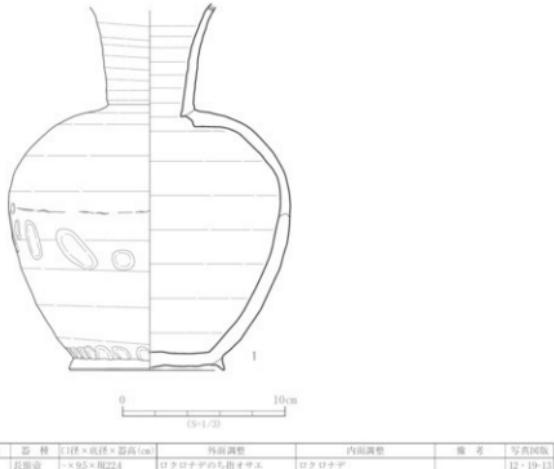
N群(第73・74図) E170~190・N10~40グリッドで検出した南北方向の遺構群で、8条の小溝で構成される。方向はN-1°~3°-WからN-1°-Eである。検出長は2.25~2450m、幅15~50cm、深さ3~35cmである。小溝の間隔は0.60~2.00mである。堆積土は褐色シルト質粘土、灰黄褐色シルト質粘土、黒褐色粘土質シルト、灰黄褐色粘土質シルト、黒褐色シルト質粘土である。遺物は、土師器、内面黒色処理された土師器坏、須恵器蓋小片、鉄滓などが出出土した。

V群(第73・74図) E180・N20グリッドで検出した東西方向の遺構群で、2条の小溝で構成される。方向はN-1°～87°-WとN-63°-Eである。検出長は1.30mと4.40m、幅20～45cm、深さ5～12cm、小溝の間隔は6.00m程度で、堆積土は黒褐色粘土質シルト、褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は、鉄滓が出土した。

小溝狀邊緣群土層註記

6) ピット（第63図）

245基のピット（P428・460・470・4761～4786・4789～4888・4890～4902・4904～4909・4911～4915・4917～4943・4945～4974・4976～4989・4991～4994・4996～5009・5010～5012）をE290～310・N210グリッドで検出した。遺物は、土師器小片や須恵器長頸壺、鉄滓などが出土した。調査区北側のP428（E180、N40）の底面から須恵器長頸壺が出土しており、第75図に図示した。口縁部を欠くが全体がほぼ分かる資料である。概ね9世紀代の時期と考えられる。



第75図 P428ピット出土遺物

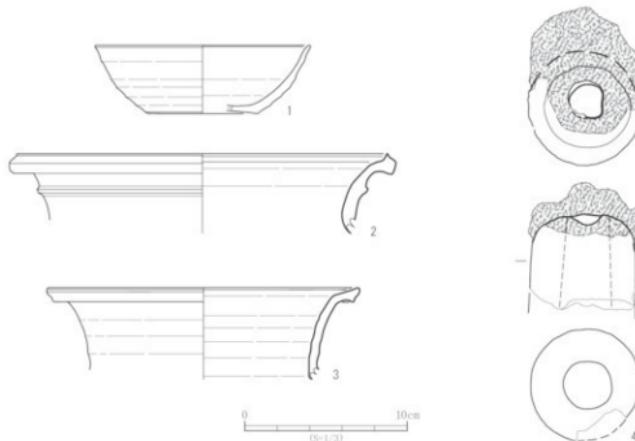
(2) 遺構外出土の遺物（第76～79図、図版20）

9A区の遺構外出土遺物として、縄文時代の土器、石器、土師器壺、内面黒色処理された土師器壺、ロクロ土師器壺、須恵器壺、同蓋、同壺、轆の羽口、近世陶器などの破片が出土した。そのうち縄文時代の石器5点と古代の須恵器3点、轆の羽口1点、近世陶器2点を図示した。

第76図1は須恵器壺の破片で、底部外面には糸切り痕が残る。2・3は須恵器壺の口縁部である。4は轆の羽口で、溶解物が先端部を中心に大きく付着している。

第77図1は施釉陶器皿である。灰釉が施釉された大堀相馬産である。2は在地産捏鉢で、内外面に鉄釉が施釉される。各々19世紀前半の製品と思われる。

第78図1・2は台石である。1は正面の頂頭部付近に敲打痕と深い凹みが観察され、裏面にも小さな凹みが認められる。2は平坦面に凹み状の敲打痕が認められる。右側縁を欠くが、重量が3kg近くであり、手持ちの凹石ではなく台石としたものである。第78図3と第79図2・3は石皿である。大形の礫を用いて平坦面や浅い皿状の凹面に研磨痕が観察される。3の研磨面には研磨以前の浅い敲打痕が観察される。

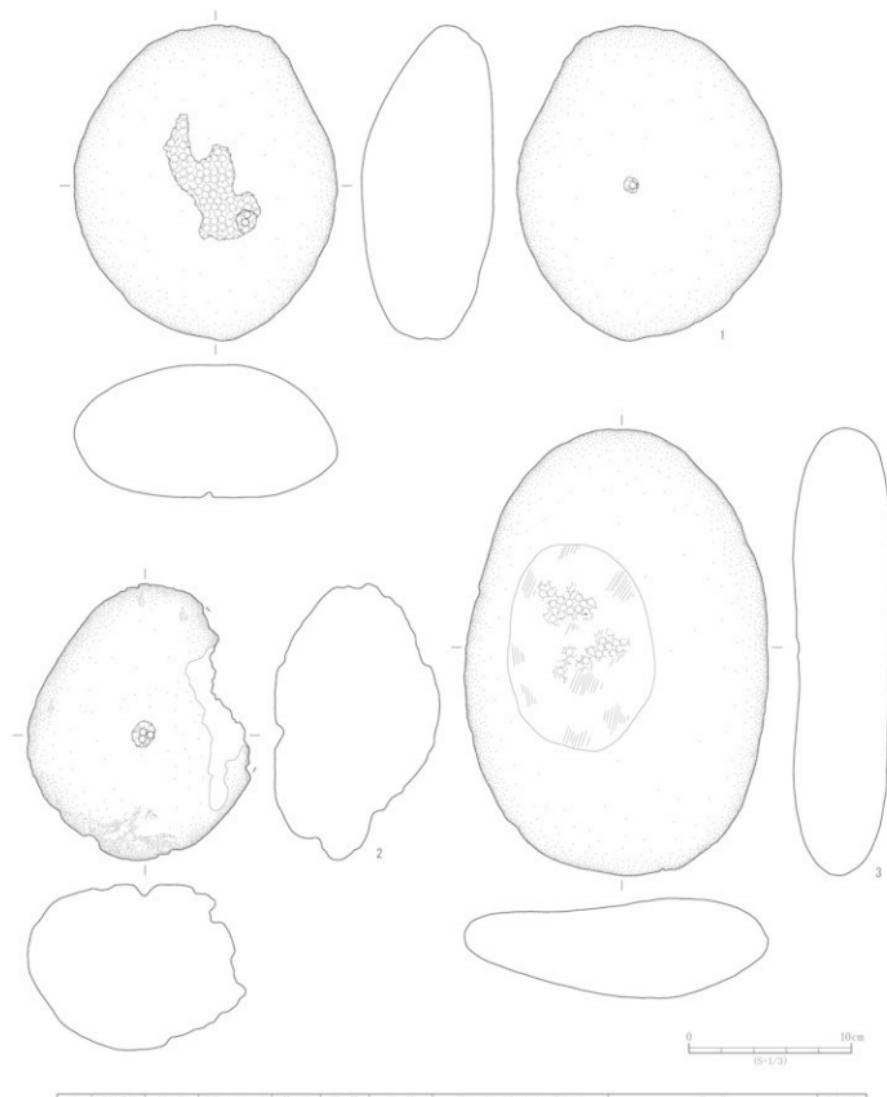


No.	分類番号	規 格	遺構・グリッド	種 別	部 位	寸法径×底径×器高(cm)	外周測量	内面測量	施 号	写真回数
1	E-5	-	横表面	環	環	13.2×6.8×4.2	ロクロナヂ・丸皿同板条切り	ロクロナヂ	20-1	
2	E-6	-	横表面	環	環	22.0×××底2	ロクロナヂ	ロクロナヂ	20-2	
3	E-7	-	横表面	環	環	19.2×××底2.6	ロクロナヂ	ロクロナヂ	20-3	
4	P-4	-	横表面	土製品	輪(別1)	6.1×××底2.2			溶解物付系	20-4

第76図 遺構外出土遺物（1）

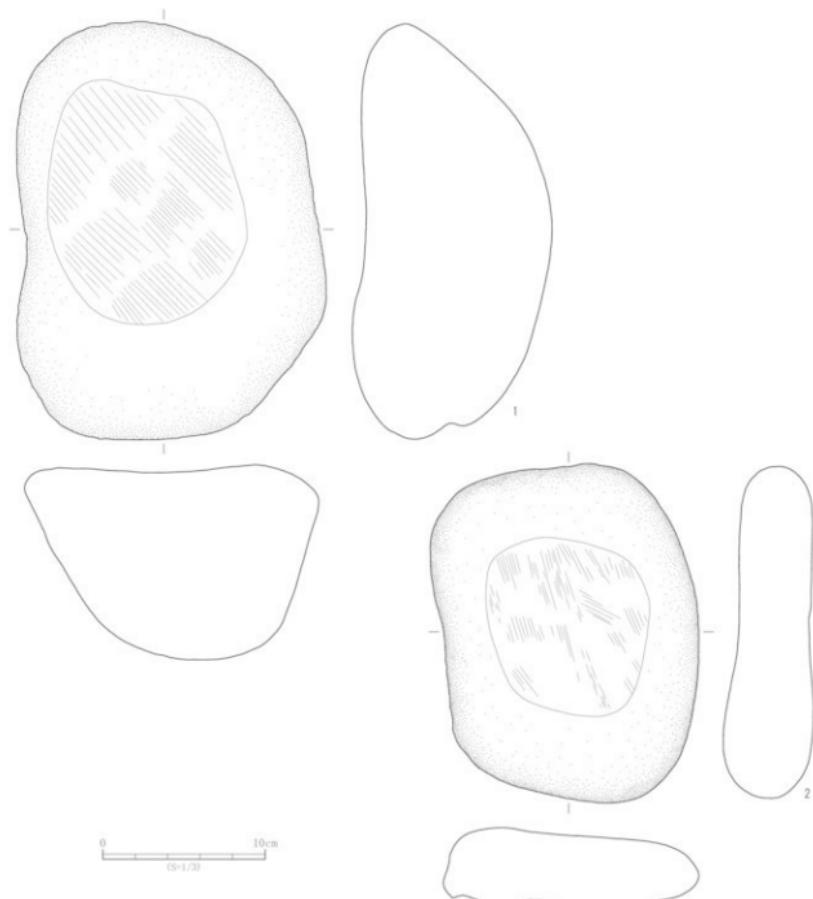
No.	分類番号	規 格	遺構・グリッド	種 别	部 位	寸法径×底径×器高(cm)	前 面	背 面	時 期	写真回数
1	I-12	V	-	埴輪瓦	瓦	~5.8×現1.1	口テテ 足込み・透明釉・黄釉	大船相馬 19年度前半	20-5	
2	I-13	V	-	埴輪瓦	瓦跡	(15.2)××3.1	口テテ 黄釉	在地 19年度前半	20-6	

第77図 遺構外出土遺物（2）



第78図 遺構外出土遺物（3）

No.	登録番号	規 模	地質・グリット	種 別	器 物	石 材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	Keg-1	V	-	離石器	台石	安山岩	19.3×16.2×8.1	3,600.0	盤1+0, 四1+1。	20-7
2	Keg-2	V	-	離石器	台石	安山岩	17.0×13.8×10.2	2,740.0	盤1+0, 石舞面風化欠損。	20-8
3	Keg-d-1	V	-	離石器	石盤	安山岩	27.4×18.8×6.1	3,640.0	盤1+0, 表面に古い敲打痕あり。	20-9



第79図 遺構外出土遺物（4）

10. 9B区の調査

9B区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、古墳1基、土坑11基、河川跡1条、性格不明遺構1基、溝跡5条、小溝状遺構群2群、ピット76基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

(1) V層検出の遺構と遺物 (第80図、図版13・14)

1) 古 墳

大野田28号墳 (第80図) 本古墳は7区V層で報告した。

2) 土 坑

SK478土坑 (第81図、図版14) E20・S190グリッドで検出した。SD477と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-68°-Wである。規模は長軸175cm、短軸132cm、深さ22~34cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がみられる。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK479土坑 (第81図) E20・S190グリッドで検出した。小溝状遺構I-2、II-7と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径110cm、深さ21cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK481土坑 (第81図) E20・S200グリッドで検出した。小溝状遺構I-2と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-35°-Eである。規模は長軸85cm、短軸70cm、深さ22cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形はU字形で、底面は擂鉢状である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK489土坑 (第81図) E20・S190グリッドで検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-10°-Eである。規模は長軸195cm、短軸148cm、深さ30cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、中央に浅い窪みがある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK498土坑 (第81図) E20・S190グリッドで検出した。小溝状遺構II-8と重複関係にあり、本遺構が古い。遺構の南側は小溝状遺構により壊されているが、平面形は楕円形とみられる。規模は東西62cm、南北58cm、深さ8~11cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、北側に浅い窪みがある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK500土坑 (第81図、図版14) E20・S200グリッドで検出した。小溝状遺構II-10と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸方形で、長軸方向はN-10°-Wである。規模は長軸62cm、短軸48cm、深さ17cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

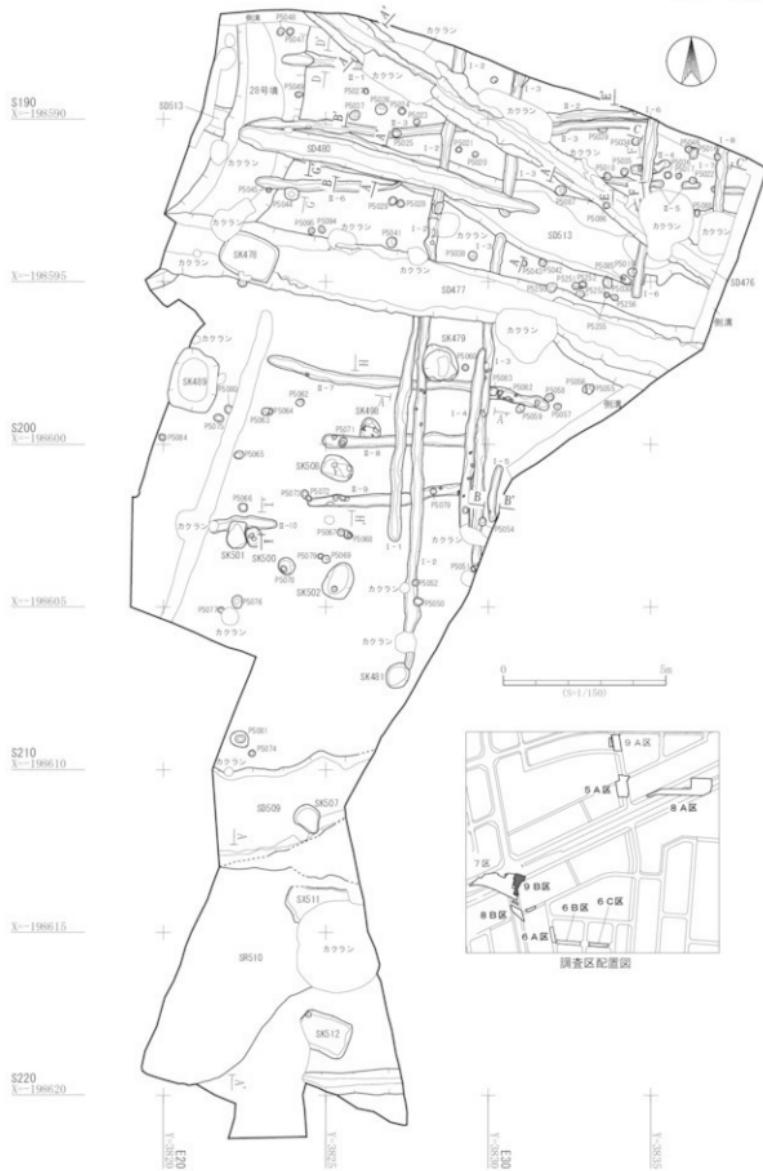
SK501土坑 (第81図、図版14) E20・S200グリッドで検出した。小溝状遺構II-10と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は概ね隅丸長方形で、長軸方向はN-8°-Eである。規模は長軸82cm、短軸62cm、深さ36cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK502土坑 (第81図、図版14) E20・S200グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-24°-Eである。規模は長軸115cm、短軸83cm、深さ25~32cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面の南側にはピット状の窪みがある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK507土坑 (第81図) E20・S210グリッドで検出した。SD509と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-25°-Wである。規模は長軸95cm、短軸82cm、深さ7cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

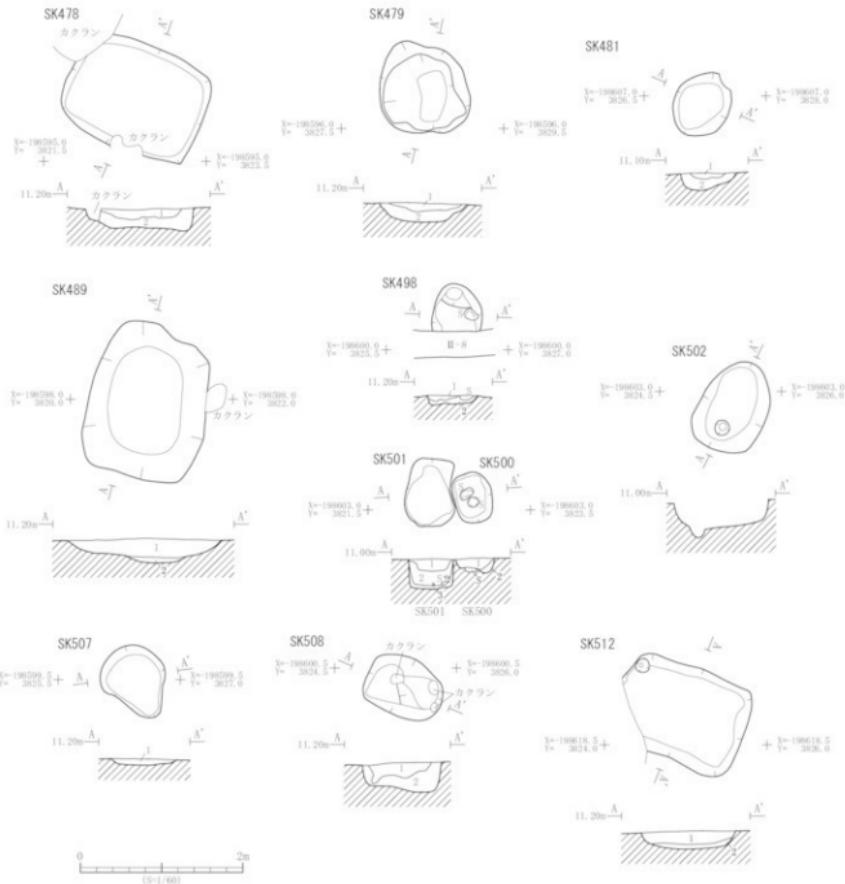
SK508土坑 (第81図) E20・S200グリッドで検出したが部分的に搅乱を受けている。平面形は楕円形で、長軸方向はN-68°-Wである。規模は長軸98cm、短軸72cm、深さ23~37cmである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形で、底面にはわずかに段差がある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK512土坑 (第81図、図版14) E20・S210グリッドで検出したが、西側が搅乱で削平されている。平面形は隅



第80図 大野田古墳群 9B区 V層遺構配置図

第5節 大野田古墳群 9B区の調査



遺構	層位	土 色	土 性	備考
SK478	1	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	黒褐色シルト質粘土をブロック状に含む。
	2	HYR4-1褐色	シルト質粘土	にない 黄褐色粘土質シルトを含む。
SK479	1	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	暗褐色シルト質粘土をブロック状に含む。無化鉄を微量含む。
	2	HYR4-4褐色	シルト質粘土	黄褐色を含む。
SK481	1	HYR4-2B 黄褐色	砂質シルト	無化鉄を軽量に含む。
	2	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	無化鉄を含む。
SK489	1	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	黒褐色シルト質粘土をブロック状に含む。
	2	HYR4-4褐色	シルト質粘土	無化鉄を含む。
SK498	1	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	無化鉄を微量含む。
	2	HYR4-4褐色	シルト質粘土	無化鉄を含む。
SK502	1	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	無化鉄を微量含む。
	2	HYR4-4褐色	シルト質粘土	無化鉄を含む。
SK507	1	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	無化鉄を微量含む。
	2	HYR4-4褐色	シルト質粘土	無化鉄を微量含む。
SK508	1	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	無化鉄を微量含む。
	2	HYR4-4褐色	シルト質粘土	無化鉄を微量含む。
SK512	1	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	無化鉄を微量含む。
	2	HYR4-4褐色	シルト質粘土	無化鉄を微量含む。

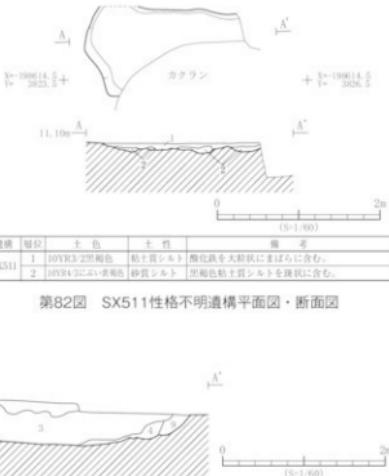
遺構	層位	土 色	土 性	備考
SK507	1	HYR4-2B 黄褐色	シルト質粘土	無化鉄を微量含む。黒褐色シルト質粘土をプロック状に含む。
	2	HYR3-2H 褐色	シルト質粘土	マンガン鉄を少量含む。
SK508	1	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	無化鉄を微量に含む。褐灰色砂質シルトをプロック状に含む。
	2	HYR4-4褐色	シルト質粘土	無化鉄を多量含む。粘土を小プロック状に含む。
SK512	1	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	粘土を小プロック状に含む。無化鉄をまばらに含む。
	2	HYR4-3C-45-1 黄褐色	シルト質粘土	無化鉄をまばらに含む。

第81図 SK478・479・481・489・498・500~502・507・508・512土坑平面図、断面図

丸長方形で、長軸方向はN-67°-Wである。規模は長軸165cm、短軸115cm、深さ22cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面は平坦であるが北側に窪みがある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

3) 河川跡

SR510河川跡（第80・83図） E10~20・S210グリッドで検出した。東側の一部は搅乱で削平されている。SX511と重複関係にあり、本遺構が古い。主軸方向は概ねN-75°-Eである。検出規模は長さ約8.0m、幅4.50~6.70mである。調査では深さ78cmである。堆積土は9層に分層される。遺物は、瓦の小片が出土した。



第82図 SX511性格不明構造平面図・断面図



第83図 SR510河川跡断面図

4) 性格不明遺構

SX511性格不明遺構（第82図） E20・S210グリッドで検出し、南側を搅乱で削平されている。SR510と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形と思われ、検出規模は東西198cm、南北110cm、深さ8~13cmである。断面形は皿状で、堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

5) 溝跡

SD476溝跡（第80・84図） E20~30・S180~190グリッドで検出した。搅乱で部分的に削平されている。28号墳周溝、小溝状遺構I-2・3・6、II-1・3・5、P5086と重複関係にあり、P5086より古く、他の遺構より新しい。北西~南東方向の溝跡で、主軸方向は概ねN-56°-Wである。検出長は約15.10m、幅72~120cm、深さ20~30cmである。断面形は逆台形で、堆積土は2層に分層される。遺物は、瓦の小片が出土した。

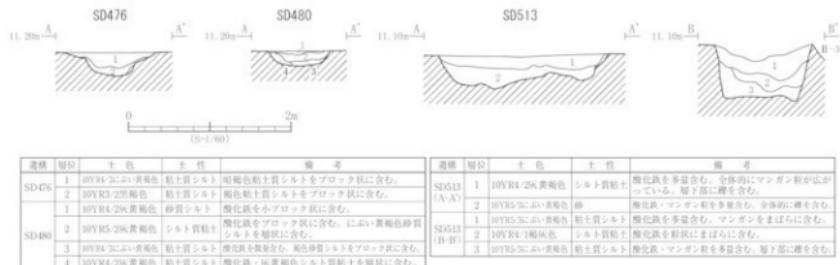
SD477溝跡（第80図） E20~30・S190グリッドで検出した7区IV層検出のSD339と同一遺構である。

SD480溝跡（第80・84図） E20~30・S190グリッドで検出した。大野田28号墳周溝、小溝状遺構I-2・3、II-3・6と重複関係にあり、本遺構が新しい。主軸方向はN-76°-Wである。規模は長さ9.55m、幅20~83cm、深さ4~20cmで、断面形は逆台形である。堆積土は4層に分層される。遺物は、混入遺物として石斧の小片が出土した。

SD509溝跡（第80図） E20・S200~210グリッドで検出した7区IV層検出のSD313と同一遺構である。

SD513溝跡（第80・84図） E20・S210グリッドで検出した。東西方向の溝跡で、主軸方向はN-88°-Eである。検出長は3.00m、幅65~80cm、深さ20~46cmである。断面形は逆台形であるが、底面は凸凹が激しい。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

第5節 大野田古墳群9B区の調査



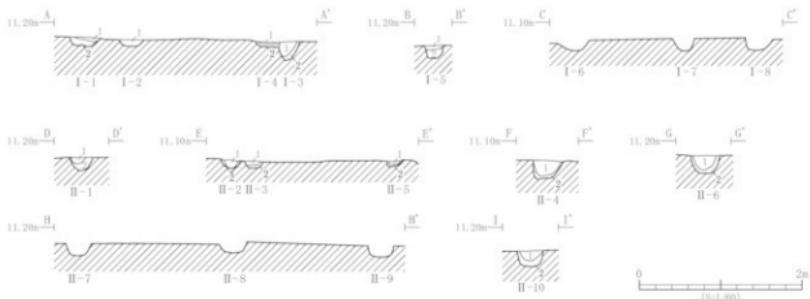
第84図 SD476・480・513溝跡断面図

6) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向と重複関係からI・II群に分けられ、II群からI群への変遷が考えられる。

I群（第80・85図、図版14）E20~30・S180~200グリッドで検出した南北方向の遺構群で、8条の小溝で構成されている。方向はN-5°~8°-Eで、検出長は0.35~19.20m、幅18~50cm、深さ4~36cm、小溝の間隔は接するものから4.10mのものまである。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルト・にぶい黄褐色シルト質粘土・褐色粘土質シルト・褐色シルト質粘土を主体とする。遺物は、小溝I-4から土師器壺が1点出土し、第86図に図示した。薄く精緻なつくりである。5世紀前半から中頃のものと考えられる。

II群（第80・85図、図版14）E20~30・S180~200グリッドで検出した東西方向の遺構群で、10条の小溝で構成されるが、SD477を挟んで南北の2グループに分かれる可能性もある。方向はN-1°~9°-W、N-81°~86°-Wで



第85図 小溝状遺構群断面図

遺構	層位	土色	土性	備考
B-2	1	10YR 4/2-4/1 黄褐色	シルト質粘土	灰褐色シルト質粘土をブロック状に含む。その周りを褐色化鉄が覆う。
B-2	2	10YR 4/4 黄褐色	粘土	褐色化鉄を粒状に含む。
B-3	1	10YR 4/2-4/1 黄褐色	シルト質粘土	褐色粘土をブロック状に含む。褐色化鉄を含む。
B-3	2	10YR 4/4 黄褐色	粘土	にぶい黄褐色を粒状に含む。
B-4	1	10YR 4/2-4/1 黄褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土を粒状に含む。
B-4	2	10YR 4/4 黄褐色	粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をブロック状に含む。
B-5	1	10YR 4/2-4/1 黄褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をブロック状に含む。
B-5	2	10YR 4/4 黄褐色	粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土をブロック状に含む。
B-6	1	10YR 4/2-4/1 黄褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色シルト質粘土を小プロック状に含む。
B-6	2	10YR 4/4 黄褐色	粘土質シルト	褐色化鉄と質粘土を斑状に含む。
B-6	3	10YR 4/2-4/1 黄褐色	シルト質粘土	マンガン粉をわずかに含む。
B-10	2	10YR 4/2-4/1 黄褐色	シルト質粘土	褐色化鉄を少量含む。

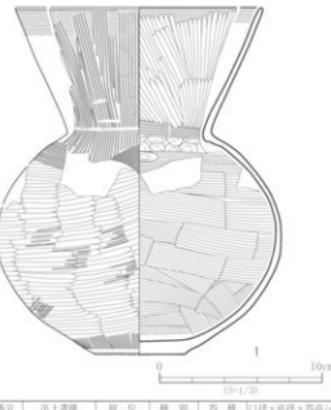
ある。検出長は125~1245m、幅15~50cm、深さ3~26cmである。小溝の間隔はSD447を挟む区域を除外すると、幅150~200cmである。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色シルト質粘土、暗褐色粘土質シルト、褐色粘土、褐色粘土質シルト、黒褐色シルト質粘土を主体とする。遺物は出土していない。

7) ピット（第80図）

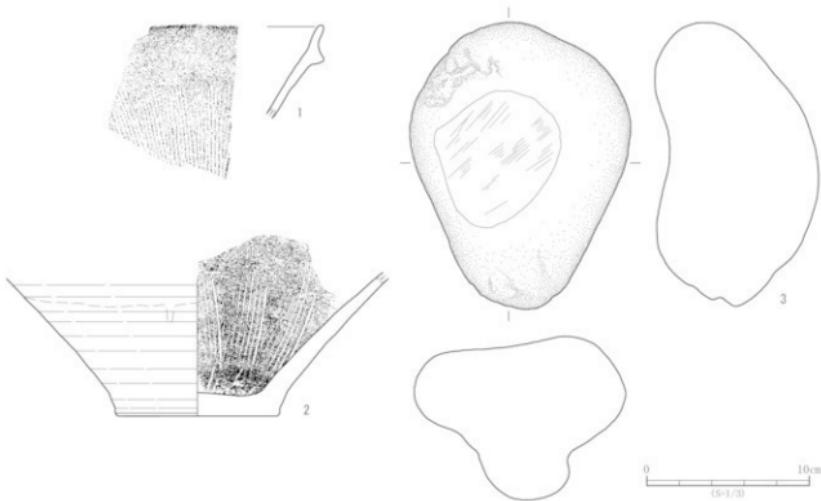
75基のピット（P5016~5095）をE20~30・S180~200グリッドで検出した。調査区中央から北側に分布している。遺物は、土師器の小片が出土した。

(2) 遺構外出土の遺物（第87図、図版20）

9B区の遺構外からは近世の遺物が出土し、そのうち3点を国示した。第87図1・2は在地産の擂鉢で、内外面に鉄軸が施され、擂目は内面全面に巡る。19世紀前半の製品と思われる。3は砥石で、礫のやや窪んだ面に砥面が認められる。



第86図 小溝状遺構 I-4出土遺物



第87図 遺構外出土遺物

No.	考古番号	型	遺構・グリッド	横幅	縦幅	高さ	(口幅×底幅×厚さ) (cm)	特徴	產地	時期	写真図版
1	1-14	-	-	扁輪陶器	擂鉢	-	- × - × 高5.2	ロクロ 内外面-鉄軸、擂目単位7-8本	在地	19世紀前半	-
2	1-15	-	-	扁輪陶器	擂鉢	-	- × 9.8 × 8.4	ロクロ 鉄軸 全面擂目	在地	19世紀前半	20-13
3	Kd-a-4	-	-	砾石器	砾石	石	17.6 × 13.0 × 10.2	重さ (g)	特考	写真図版	20-14

(3) 自然科学分析－大野田古墳群7区におけるテフラ分析

株式会社古環境研究所

1)はじめに

東北地方中部の仙台市とその周辺には、蔵王、鳴子、十和田など東北地方に分布する火山のはか、北海道、関東、中部、中国、九州地方などの火山などから噴出したテフラ（tephra、火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く分布している。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの関係を求めるこにより、地層の堆積年代や土壤の形成年代のみならず、遺構や遺物の年代などについても知ることができるようになっている。そこで、火山灰層が認められた大野田古墳群7区においても、発掘調査担当者により採取された試料を対象に屈折率測定を行って、指標テフラとの同定を試みることになった。分析の対象となった試料は、7区のSR314堆積土層（A-A'）の6層から採取されたものである。

2) 屈折率測定

(1) 測定方法 7区のSR314堆積土層（A-A'）の6層から採取された試料について、日本列島とその周辺のテフラカタログ（町田・新井 1992）の作成にも利用された温度一定型屈折率測定法（新井 1972・1993）により、テフラ粒子の屈折率の測定を行った。

(2) 測定結果 屈折率測定の結果を第1表に示す。6層には、白色や無色透明の火山ガラス（最大径2.0mm）が多く含まれている。その屈折率（n）は、1.502-1.507である。重鉱物としては、斜方輝石や角閃石がごく少量含まれている。これらの屈折率の測定は、量が非常に少ないために困難であった。

3) 考察

試料に含まれる多くのテフラの起源としては、火山ガラスの形態や色調さらに屈折率などから、915年に十和田火山から噴出したと推定されている十和田a火山灰（To-a、大池 1972、町田ほか 1981）に由来すると考えられる。ただし、分析者が現地の土層を観察できなかつたので、採取された土層が、To-aの一次堆積層か否かについては言及できない。火山灰編年学（テフロクロノジー）では、テフラの一次堆積層を利用するのが基本であり、その認定には現地での地質調査が必要である。またより純度の良い試料の採取のためにも、分析者による現地での試料採取の実施が期待される。

なお、今回得られた火山ガラスの屈折率は、テフラ・カタログ（町田・新井 1992）に記載されているTo-aの値よりも若干高い傾向にある。この原因としては、To-aのユニット間に火山ガラスの屈折率の違いがある可能性が考えられる（町田ほか 1981）。また、カタログに記載された試料の採取地点が輪縫に近いために標準試料に含まれる火山ガラスが分厚く、さらにTo-aの噴出年代が新しいために十分水和が進んでいないこと、遠隔地ではその逆で水和が進んで屈折率に違いが生じてることに起因するとも考えられる（新井房夫群馬大学名誉教授談話）。より高精度の同定のためには、エレクトロニンプローブX線マイクロアナライザー（EPMA）による火山ガラスの主成分化学組成分析などが有効と考えられる。

第1表 7区SR314における屈折率測定結果

試料	火山ガラス			重鉱物	斜方輝石（γ）
	量	色調	屈折率（n）		
6層	+++	白、透明	1.502-1.507	(opx,ho)	-

屈折率測定は、温度一定型屈折率測定法（新井 1972・1993）による。
+++：とくに多い、+++:多い、++：中程度、+：少ない、-：認められない。
opx：斜方輝石、ho：角閃石、重鉱物の()は、量が少ないことを示す。

4) 小結

大野田古墳群7区において採取された火山灰試料を対象に、テフラ粒子の屈折率測定を行った。その結果、十和田a火山灰（To-a, 915年）に由来する可能性の高いテフラ粒子が多く含まれていることが明らかになった。

(2) 大野田古墳群7区における樹種同定

1)はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないとから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2) 試料

試料は、大野田古墳群7区において検出された古墳時代の住居跡（SI384）より出土した炭化材2点である。

3) 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4) 結果

結果を第2表に、主要な分類群の顕微鏡写真を図版1・2に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

ヤマグワ *Morus australis* Poiret クワ科

横断面：年輪のはじめに中型から大型の丸い道管が、単独あるいは2～3個複合して配列する環孔材である。孔隙部外の小道管は複合して円形の小塊をなす。道管の径は徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部の1～2細胞は直立細胞である。

接線断面：放射組織は上下の縁辺部が直立細胞からなる異性放射組織型で、1～6細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりヤマグワに同定される。ヤマグワは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ10～15m、径30～40cmである。材は堅硬、韌性に富み、建築などに用いられる。

5) 所見

大野田古墳群7区の住居跡から検出された炭化材2点はいずれもヤマグワ2点であった。ヤマグワは温帯に広く分布する落葉高木で、とくに水路沿いなどに多い。現在は建築材として用いられている。本遺跡の炭化材も建築材の可能性が考えられるが、弥生時代ないし古墳時代では類例が少なく珍しい。

第2表 大野田古墳群7区における樹種同定結果

試料No	出土地点		結果（学名／和名）
②	7区 SI384	床面	<i>Morus australis</i> Poiret ヤマグワ
③	7区 SI384	床面	<i>Morus australis</i> Poiret ヤマグワ



写真1 大野田古墳群7区の炭化材試料No.② ヤマグワ

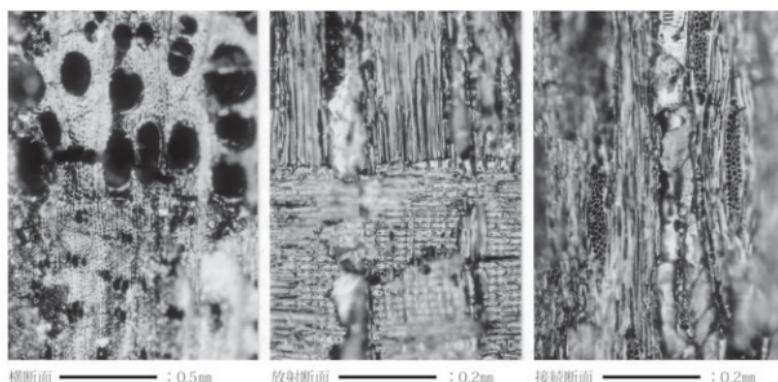


写真2 大野田古墳群7区の炭化材試料No.③ ヤマグワ

参考文献

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本国第四紀学会編「第四紀試料分析法2 - 研究対象別分析法」, p.138-149.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, p.562-569.
- 大池昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年. 第四紀研究, 11, p.232-233.
- 佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞. 木材の構造. 文永堂出版, p.20-48.
- 佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞. 木材の構造. 文永堂出版, p.49-100.
- 島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧. 雄山閣, 296p.

11. まとめ

大野田古墳群は仙台市太白区大野田字宮、宮脇、竹松、千刈田にあり、自然堤防上に立地する古墳時代～近世の遺跡である。平成12年度は5A区、平成13年度は6A区・6B区・6C区、平成14年度は7区、平成15年度は8A区・8B区、平成16年度は9A区・9B区の合計9地区で調査を行い、古墳時代～近世の遺構群を検出した。

(1) 遺構について

1) 古代～近世の遺構は基本層上面で検出した。

8A区-ピット列18列、溝跡1条、小溝状遺構群3群、ピット36基を検出している。

7区では、V層で遺構検出を行い調査したが、掘立柱建物跡2棟(SB382・341)、SD333、SK378・381は出土遺物から近世の遺構と考えられ、本来はⅢ層より掘り込まれた遺構と考えられる。

2) 古墳時代～古代(10世紀以前)の遺構・遺物は各区IV・V層上面より多数検している。以下、区別に記す。

5A区V層-土坑2基、溝跡1条、性格不明遺構1基、小溝状遺構群1群、横列2列、ピット256基

6A区V層-土坑1基、性格不明遺構1基、河川跡1条

6B区V層-土坑3基、性格不明遺構1基、溝跡1条、ピット23基

6C区V層-性格不明遺構4基、溝跡1条、小溝状遺構群2群、ピット10基

7区V層-古墳1基(28号墳)、堅穴住居跡3軒、掘立柱建物跡2棟、土坑25基、河川跡1条、性格不明遺構10基、溝跡19条、小溝状遺構群3群、ピット325基

8A区IV層-溝跡5条、ピット列17列、ピット65基

※ピット列については、小溝状遺構の底面の深い部分が残存したものとも考えられる。

8A区V層-古墳1基(29号墳)、土坑7基、溝跡3条、小溝状遺構群4群、ピット347基

8B区V層-土坑1基、小溝状遺構群2群、ピット3基

9A区V層-掘立柱建物跡1棟、木棺墓2基、土坑10基、性格不明遺構6基、溝跡2条、小溝状遺構群5群、ピット245基

※木棺墓SK446の壁面には袋状掘り込みが穿たれ、須恵器壺と土師器壺に土師器壺を蓋として重ねた状態で検出された。

※本調査区では大野田官衙遺跡の遺構であるSB464掘立柱建物跡が検出された他、SK449土坑から多量の鉄滓(570g)が出土した。また、小溝状遺構群や検出面からも鉄滓が出土し、総量として44.8kgである。周辺に鍛冶関連遺構の存在が伺われる。

9B区V層-古墳1基(28号墳)、土坑11基、河川跡1条、性格不明遺構1基、溝跡5条、小溝状遺構群2群、ピット76基

3) V層検出の平安時代以前(10世紀以前)の遺構と考えられる小溝状遺構群は、5A・6A～C区を除く各区で検出されており、本遺跡内には大規模な畠地が広がっていたものと考えられる。

(2) 遺物について

大野田古墳群(9地区)からの出土遺物は平箱36箱である。

1) 古墳前期

4世紀末～5世紀初の遺物として7区IV層SI380堅穴住居跡、SK361・369土坑から土師器壺・甕が出土している。

2) 古墳時代中期

7区V層大野田古墳28号墳周溝から朝顔形埴輪と土師器甕が出土している。5世紀後半～末に比定される。

3) 古墳時代後期

第5節 大野田古墳群

6世紀中頃の遺物として、9A区V層SK446木棺墓から副葬品として須恵器短頸壺と土師器壺に土師器壺が蓋として転用されている状態で出土した。また、同遺構から鉄鋤10本がまとった状態で出土している。

4) 古墳時代後期～奈良時代

9A区V層SK449土坑から鉄鋤とともに8世紀前半と思われる土師器壺が出土している。また、鉄鋤や輪の羽口片は9A区V層検出面や小溝状遺構群から広範囲に出土している。

5) 近世

7区のSD333や9A区の遺構外から19世紀前半を主に、肥前系染付磁器や大堀相馬産の陶器や在地産の擂鉢が出土している。組成として磁器は肥前系で占められるが、施釉陶器類は東北産の陶器類で占められており、瀬戸・美濃産などの広域流通陶器はない。7区のSB382のP13からかわらけが2枚合わせて出土し、そのうち1枚の見込みには「小豆」と墨書きされており、地鎮に関わる遺物の可能性が高い。また銭貨として寛永通宝が土坑から出土しており、六道錢を伴う墓壙と思われる。

第3表 遺構一覧表(1)

5A区V層 土坑					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	範 横(cm)	平面形・断面形	時期
SK254	E190・S30	N-34°-E	長軸135×短軸105×深510	楕円形・瓶状	
SK255	E180・S40	-	南北155×東西145×深563	不明・進白形	
地盤不明遺構					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	範 横(cm)	平面形・断面形	時期
SX256	E190-200・S50-60	N-20°-W	長軸350×短軸218×深515-79	多壁円形・楕ね進白形	
溝					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	範 横(cm)	平面形・断面形	時期
SD263	-	-	(大野田古墳跡の遺構を参照のこと)	-	
小溝状遺構群					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	範 横(cm)	平面形・断面形	時期
1-1	E180・S30	N-8°-W	長51.10×幅0.20-0.24×深5.007	直線・U字形	
1-2	E180・S30	N-3°-W	長51.170×幅0.18-0.40×深5.008	(直字U)・(U字形)	
1-3	E180-190・S20-30	N-7°-W	長5.35×幅0.20-0.45×深5.007	ほぼ直線・(U字形)	
1-4	E190・S30	N-4°-W	長5.440×幅0.15-0.40×深5.006	ほぼ直線・(U字形)	
1-5	E190・S30	N-6°-W	長5.20×幅0.35-0.48×深5.020	直線・U字形	
1-6	E190・S30	N-4°-W	長5.330×幅0.20-0.30×深5.012	ほぼ直線・U字形	
1-7	E190・S30	N-8°-W	長5.105×幅0.35-0.60×深5.010	直線・U字形	
1-8	E190・S30	N-7°-W	長5.065×幅0.40-0.50×深5.009	直線・(U字形)	
1-9	E190・S30	N-7°-W	長5.090×幅0.25-0.40×深5.008	直線・(U字形)	
1-10	E190・S30	N-2°-W	長5.045×幅0.20×深5.014	直線・U字形	
1-11	E190・S30	N-6°-W	長5.770×幅0.25-0.40×深5.004	(直字U)・(U字形)	
1-12	E200・S30	N-1°-W	長5.115×幅0.25-0.30×深5.005	直線・(U字形)	
1-13	E200・S30	N-4°-E	長5.075×幅0.25-0.30×深5.015	直線・U字形	
1-14	E190・S40	N-8°-E	長5.070×幅0.15-0.20×深5.012	むすびに屈曲・U字形	
1-15	E190・S40	N-45°-W	長5.075×幅0.25×深5.015	直線・U字形	
溝					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	範 横(cm)	平面形	時期
SA257	E180-200・S30	日付東西	長51.130・幅0.10-160	-	
SA258	E180-200・S30-40	日付東西	長51.15.10・幅0.10-180	-	

6A区V層 土坑					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	範 横(cm)	平面形・断面形	時期
SK4071	E80・S290	N-7°-W	長軸60×短軸45×深518	楕円形・U字形	
地盤不明遺構					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	範 横(cm)	平面形・断面形	時期
SX260	E80・S280	N-20°-E	北東-南西510×北西-南東285×深545-55	(楕丸長方形)・進白形	
河川跡					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	範 横(cm)	平面形・断面形	時期
SE259	E70-80・S270-280	-	長さ14.40×幅4.50×深5.40-1.30	不明	

6B区V層 土坑					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	範 横(cm)	平面形・断面形	時期
SK263	E110-120・S290-300	-	北東-南西255×北西-南東115×深550-55	不明・進白形	
SK265	E120・S290-300	N-50°-E	長軸125×短軸85×深52-43	多壁円形・進白形	
SK266	E110-120・S290	N-65°-E	長軸203×短軸65×深52-19	長軸円形・瓶状	
地盤不明遺構					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	範 横(cm)	平面形・断面形	時期
SX264	E120・S290	N-79°-E	長軸280×短軸220×深540-63	(小型楕円形)・U字形	

第4表 道構一覧表（2）

6区V層
地形

道構番号	位置(グリッド)	方向	面積(m ²)	平面形・断面形	時期
SD162	E110・S260	N-16°-W	長さ(395)×幅0.35×0.45×深さ0.10	注溝直線・U字形	

6区V層
熱帯山地帶

道構番号	位置(グリッド)	方向	面積(m ²)	平面形・断面形	時期
SX268	E150・S300	N-7°-W	長輪(225)×短輪105×深さ12	半整形・瓶状	
SX269	E160・S290-300	N-5°-E	長輪(350)×短輪20×深さ40-53	(円内形)・瓶状	
SX270	E160・S290-300	N-8°-E	長輪(270)×短輪250×深さ83-120	半整形内形・U字形	
SX271	E160・S300	-	東西270×南北(215)×深さ53-89	不明	

森林

道構番号	位置(グリッド)	方向	面積(m ²)	平面形・断面形	時期
SD167	E160・S300	N-40°-E	長さ(410)×幅1.35×1.90×深さ0.10	注溝直線・瓶状	

小林区連続群

道構番号	位置(グリッド)	方向	面積(m ²)	平面形・断面形	時期
I-1	E150・S290-300	N-7°-E	長さ(340)×幅0.22-0.30×深さ0.04-0.17	注溝直線・U字形	
I-2	E150・S290-300	N-6°-E	長さ(110)×幅0.25-0.30×深さ0.12	直輪・U字形	
I-3	E150-160・S290-300	N-11°-E	長さ(380)×幅0.30-0.35×深さ0.22	直輪・U字形	
I-4	E160・S300	N-3°-E	長さ(30)×幅0.15-0.20×深さ0.02	注溝直線・U字形	
I-5	E160・S290-300	N-9°-E	長さ(435)×幅0.25-0.30×深さ0.13-0.15	わざかに直輪・U字形	
I-6	E160・S290-300	N-27°-E	長さ(545)×幅0.25-0.30×深さ0.10	わざかに瓶形・U字形	
I-7	E160・S300	N-23°-E	長さ(290)×幅0.25-0.32×深さ0.06	直輪・U字形	
B-1	E140-150・S290	N-81°-W	長さ(6435)×幅0.20-0.30×深さ5.00	わざかに済輪・U字形	
B-2	E150・S290	N-63°-W	長さ(5115)×幅0.20-0.25×深さ5.00-0.10	はざ直線・U字形	
B-3	E140-150・S290-300	N-82°-W	長さ(5065)×幅0.25-0.30×深さ5.12-0.17	わざかに瓶形・U字形	
B-4	E140-150・S290-300	N-85°-W	長さ(1000)×幅0.25-0.30×深さ0.19-0.21	わざかに直輪・U字形	
B-5	E150・S300	N-85°-W	長さ(800)×幅0.30-0.44×深さ0.14-0.21	注溝直線・U字形	
B-6	E140-150・S300	N-86°-W	長さ(792)×幅0.36-0.35×深さ0.12-0.21	わざかに瓶形・U字形	

7区V層
地形

道構番号	位置(グリッド)	方向	面積(m ²)	平面形・断面形	時期
28号傍	W-0-E0-160・S200-190	-	津江37.00×雨濱輪(1.75-2.20)×別濱津(0.28-0.90)	円輪・圓渕造台形	5世紀後半

水六住筋跡

道構番号	位置(グリッド)	方向	面積(m ²)	カマド	時期
SJ266	W-30・S190	N-23°-E	長輪南北(2.80)×3.00×別輪東西(2.60-2.90)×要高0.20	不明	古墳
SJ280	W-40・S190-200	(N-22°-E)	南北(60)×東西(3.80)×要高0.21	不明	4世紀半-5世紀前半
SJ284	W-50-60・S200	(N-28°-W)	東西(65)×南北(3.1)×要高0.20	不明	5世紀前半

斜村壁跡群

道構番号	位置(グリッド)	土軸方角	柱間数	建物規模(m ²)	時期
SJ341	W-0-E0-160・S200-210	N-27°-E	軒行2間×梁行1間	軒行4.20-4.65×梁行3.30	
SJ342	W-0-E0-160・S200-210	N-27°-E	軒行2間×梁行2間	軒行12.90×梁行5.40-5.85	19世紀前半

土軸

道構番号	位置(グリッド)	長輪方向	面積(m ²)	平面形・断面形	時期
SK288	E10・S190	N-81°-E	長輪100×短輪25×深さ20-30	楕円形・U字形	
SK294	W-0-E0-160・S190	N-6°-W	長輪105×短輪80×深さ5.36	楕円形・進行形	
SK296	W-0-E0-5・S200	N-65°-W	長輪105×短輪90×深さ13	楕円形・瓶状	
SK303	W-0-E0-5・S200	-	津235×幅2-3×40	注溝直形・瓶状	19世紀前半
SK306	W-0-E0-5・S200	-	北西-南東(2.80)×東西(80)×深さ15	(楕円形)・瓶状	
SK311	W-0-E0-5・S200	N-30°-E	長輪75×短輪85×深さ17	楕円形・U字形	
SK326	W-0-E0-5・S200	N-68°-W	長輪2×幅0.60×深さ11	楕円形・瓶状	
SK327	W-0-E0-5・S200	N-84°-E	長輪105×短輪85×深さ5.8	不整形内形・瓶状	
SK331	W-10・S210	-	北西-南東(2.18)×北東-南西(2.73)×深さ318	[東丸方]×[西丸方]×[南北丸方]、楕状	
SK332	W-10・S200	N-67°-W	長輪124×短輪85×深さ5.64	楕円形・進行形	吉墳-古代
SK334	W-10・S190	N-59°-W	長輪62×幅42×深さ5.18	[圓形]・進行形	
SK336	W-10・S200	N-75°-W	長輪72×短輪40-70×深さ5.36	圓丸方形・U字形	
SK340	W-10・S190	N-43°-W	長輪114×短輪65×深さ28-50	長輪直形・瓶状	
SK341	W-0-E0-5・S200-210	N-60°-E	長輪253×短輪90×深さ17-25	[不整形]×[圓形]・瓶状	
SK345	E10・S210	N-21°-E	長輪15×短輪55×深さ10	楕輪丸方形・瓶状	
SK346	E10・S210	-	移64×深さ17	[注溝]×[圓形]・U字形	
SK361	W-30・S190	-	津60×深さ23	[注溝]×[圓形]・U字形	4世紀末
SK362	W-20・S190	N-61°-W	長輪215×短輪115×深さ2.62	不整輪丸方形・進行形	吉墳-古代
SK367	W-30・S190	N-62°-E	長輪282×短輪107×深さ3.30-40	楕輪内形・U字形	4世紀末
SK372	W-40・S190	N-42°-W	長輪105×短輪70×深さ6-13	[圓形]・瓶状	近世
SK378	W-40・S200	-	長輪106×短輪90×深さ3-45	楕輪内形・U字形	近世
SK381	W-40・S200	-	南北(115)×東西(60)×深さ5.47	不明・進行形	近世
SK389	W-20・S200	N-44°-W	長輪335×短輪100-130×深さ5.45	不整輪内形・U字形	
SK390	W-10-20・S190-200	N-73°-W	長輪395×短輪240-300×深さ5.40-5.52	不整輪丸方形・瓶状	
SK391	E30・S200-240	N-7°-E	長輪175×短輪80×深さ5.38-33	楕輪形・U字形	

河岸路

道構番号	位置(グリッド)	方向	面積(m ²)	平面形・断面形	時期
SJ314	W-10-E-20・S210-220	N-88°-E	長さ(24.50)×幅2.30-2.70×深さ(0.60)	不明	古墳後期-古代

第5表 遺構一覧表（3）

了付V層
竹林不規直線

遺構番号	位置（グリッド）	方向	幅・高さ（m）	平面形・断面形	時期
SX301	E10・S190	N-5° W	長軸302×短軸255-190×深5.23-34	半塑形、逆台形	
SX302	E10・S200	N-8° W	長軸1505×短軸255-250×深5.15-27	半塑形、楕円逆台形	
SX304	E10・S200	N-8° W	長軸290×短軸255-250×深5.15-27	半塑形、楕状	
SX305	W-0-E0・E10・S190-200	N-25° E	長軸380×短軸270-250×深5.12-28	半塑形、楕状	
SX307	E20・S220	N-62° W	長軸218×短軸190×深5.5-28	半塑形-直形、楕状	
SX308	E20・S220	N-28° E	長軸155×短軸95×深5.12	（楕・長方形）-楕状	
SX309	E20・S220	N-27° E	長軸150×短軸125×深5.12-17	楕円形、楕状	
SX310	E20・S220	N-36° E	長軸162×短軸120×深5.12	楕円形、楕状	
SX351	E10-20・S180	-	東西275×南北210×深5.85	（U）形	
SX365	W-20・S190	N-88° E	長軸290×短軸265×深5.72	半塑形、U字形	

7.2.2層
跡跡

遺構番号	位置（グリッド）	方向	幅・高さ（m）	平面形・断面形	時期
SD129	W-0-E0・S190	N-85° E	長さ160×幅0.45×深5.618	直縮、逆台形	
SD131	W-0-E0・E20・S200-210	N-85° E	長さ133.50×幅0.95-2.25×深5.005-0.31	（や）字形-（U）字形	古墳-古代
SD136	E10-20・S200-210	-	長さ14.30×幅0.65-0.95×深5.009-0.40	平行斜U字形	古墳-古代
SD139	W-10・S200	N-47° W	長さ3.460×幅0.60-1.25×深5.010-0.22	（は）直縮-（U）字形	古墳-古代
SD133	W-10-20・S180-230	N-13° E	長さ123.79×幅0.55-1.00×深5.006-0.62	（は）斜縮-（U）字形	19世紀前半
SD139	W-20-30・S180-190	N-89° W	長さ7.6760×幅1.170-2.80×深5.009-0.59	（は）直縮-（U）字形	古墳後期
SD106	W-20-30-40・S180-200	N-13° E	長さ123.50×幅0.48-0.82×深5.016-0.30	直縮、逆台形	
SD138	W-20-30-40・S180	N-3° E	長さ1.65×幅0.65-0.80×深5.023-0.35	（は）直縮、逆台形	
SD139	W-40-60-80-190-200	N-50° E	長さ1.980×幅0.60-2.95×深5.045	（わ）字形-（U）字形	古墳-古代
SD121	W-30-40-80-190	N-60° E	長さ15.07×幅0.55-0.75×深5.012-0.18	（は）直縮-（U）字形	
SD122	W-30-40-80-190	N-64° E	長さ20.20×幅0.70-1.15×深5.010	（は）直縮、楕状	
SD124	W-40・S190	N-21° E	長さ27.50×幅0.35-0.70×深5.034	（は）直縮-（U）字形	
SD125	W-40・S190	N-8° E	長さ1.45×幅0.40-0.60×深5.007	直縮、U字形	
SD126	W-40・S200	N-12° W	長さ2.15×幅0.30-0.40×深5.010-0.20	（は）直縮-（U）字形	
SD127	W-40・S190-200	N-9° E	長さ11.00×幅0.35-0.60×深5.015-0.27	U字形、U字形	
SD129	W-40・S190-200	N-8° E	長さ1.55×幅0.30-0.50×深5.005-0.17	（は）直縮-（U）字形	
SD132	W-50・S200	N-8° W	長さ1.35×幅0.35-0.70×深5.032-0.36	（わ）字形-（U）字形	
SD133	W-50・S200	N-8° E	長さ1.75×幅0.40-0.60×深5.012	（は）直縮-（U）字形	
SD136	W-0-E0-130・S180-190	N-76° W	長さ2.510×幅0.30-0.95×深5.021	（は）直縮-（U）字形	

小湊状遺構群

遺構番号	位置（グリッド）	方向	幅・高さ（m）	平面形・断面形	時期
1-1	W-10・S190	N-77° W	長さ1.50×幅0.20-0.25×深5.005	直縮、（U）字形	
1-2	W-0-E0・S190	N-86° W	長さ2.50×幅0.20-0.25×深5.010-0.12	（は）直縮-（U）字形	
1-3	W-0-E0・S190	N-88° W	長さ1.70×幅0.20-0.30×深5.021	直縮、U字形	
1-4	W-20-W-E0・S190	N-84° W	長さ20.60×幅0.20-0.50×深5.004-0.10	（わ）字形-（U）字形	
1-5	E10・S190	N-88° E	長さ11.50×幅0.35-0.50×深5.006	直縮、（U）字形	
1-6	W-0-E0-110・S190	N-82° W	長さ15.40×幅0.25-0.40×深5.011-0.25	（わ）字形-（U）字形	
1-7	W-0-E0-10-110・S190-200	N-87° W	長さ7.80×幅0.20-0.30×深5.004-0.11	（わ）字形-（U）字形	
1-8	W-20・S190	N-83° W	長さ6.65×幅0.20-0.28×深5.005-0.10	（わ）字形-（U）字形	
1-9	W-10・S200	N-69° W	長さ2.20×幅0.20-0.30×深5.010	直縮、U字形	
1-10	W-30-40・S200	N-89° W	長さ4.55×幅0.30-0.35×深5.003-0.08	（わ）字形-（U）字形	
1-11	E10・S200	N-84° W	長さ2.50×幅0.30-0.35×深5.008	（は）直縮、（U）字形	
1-12	W-30-10-120・S200	N-85° W	長さ3.80×幅0.20-0.35×深5.002-0.16	（は）直縮-（U）字形	
1-13	E-10-20-120・S200	N-85° W	長さ2.00×幅0.20-0.30×深5.005-0.08	直縮、（U）字形	
1-14	W-20-150-200	N-13° E	長さ10.35×幅0.25-0.40×深5.003-0.14	（は）直縮-（U）字形	
1-2	W-20-30-200	N-11° E	長さ1.065×幅0.25-0.35×深5.000	直縮、（U）字形	
1-3	W-20-30-200	N-19° E	長さ10.20×幅0.25-0.30×深5.002-0.07	（は）直縮-（U）字形	
1-4	W-10-20-30-200-210	N-22° E	長さ11.25×幅0.20-0.40×深5.006-0.09	（は）直縮-（U）字形	
B-5	W-20-510	N-18° E	長さ5.080×幅0.25×深5.006	直縮、（U）字形	
B-6	W-10-190	N-12° E	長さ2.50×幅0.32-0.40×深5.010	（は）直縮-（U）字形	
B-7	E-40・S240	N-1° E	長さ1.200×幅0.25-0.38×深5.007-0.09	（は）直縮-（U）字形	
B-8	E-40・S240	N-4° W	長さ1.375×幅0.30-0.50×深5.021-0.22	（は）直縮-（U）字形	
B-9	E-40・S240	N-7° W	長さ1.365×幅0.30-0.40×深5.018-0.24	（は）直縮-（U）字形	
B-10	E-40・S240	N-2° W	長さ1.370×幅0.25-0.38×深5.017-0.19	（は）直縮-（U）字形	
B-11	E-40・S240	N-1° E	長さ1.195×幅0.28-0.40×深5.022	（は）直縮-（U）字形	
B-12	E-40・S240	南北	長さ1.445×幅0.35×深5.027	（は）直縮-（U）字形	
B-13	E-40・S240	N-11° E	長さ1.110×幅0.35×深5.013	（わ）字形-（U）字形	
B-14	E-40・S240	N-1° E	長さ1.240×幅0.30-0.50×深5.023	（は）直縮-（U）字形	

B区直層
2メートル

遺構番号	位置（グリッド）	E-W方位	ピット数	幅・高さ（m）	時期
31号	E240・S60	N-7° E	3基	長さ1.45	
32号	E240・S50-60	N-3° E	8基	長さ5.05	
33号	E240・S50	N-12° W	7基	長さ4.50	
34号	E240・S50	N-6° W	5基	長さ5.90	
35号	E240・S50	N-31° E	4基	長さ2.84	
36号	E290-300・S50	N-45° E	5基	長さ3.45	
37号	E300・S50-60	N-75° W	5基	長さ3.25	
38号	E300-310・S50	N-78° E	16基	長さ11.80	
39号	E300・S50	N-80° W	12基	長さ2.70	
40号	E300・S40-50	N-85° W	8基	長さ5.45	
41号	E310・S40-60	N-12° E	23基	長さ15.70	

第6表 遺構一覧表(4)

B区区層 ピット列		遺構番号	位置(グリッド)	方向	上輪方位	ピット数	幅・高(m)	時間
		42号	E310~S30	N~90°~W		5基	長9.28	
		48号	E220~S30~40	N~90°~W		9基	長9.62	
		49号	E320~S30	N~27°~W		7基	長9.66	
		50号	E320~S30~S30	N~79°~W		4基	長9.65	
		51号	E310~S30~S30	N~71°~W		10基	長9.28	
		52号	E320~S30~40	N~8°~E		4基	長9.24	
		53号	E310~S30~S30	N~21°~E		6基	長9.45	

遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方向	幅・高(m)	平面形・断面形	時間
SD402	E330~S30~30	N~21°~E	長き18.30 × 幅1.20~1.80 × 高さ0.44~0.55	(直角)・楕円・複合形	

小遺構遺構群

遺構番号	位置(グリッド)	方向	幅・高(m)	平面形・断面形	時間
1-1	E250~S60~S50	N~0°	長9.17~20 × 幅0.18~0.30 × 高さ0.02~0.05	(直角)・U字形	
1-2	E270~S50	N~8°~W	長9.07~10 × 幅0.15~0.18 × 高さ0.02	むすびかに楕円・(U字形)	
1-3	E290~S50	N~83°~W	長5.34~5 × 幅0.10~0.21 × 高さ0.02	(直角)・(U字形)	
1-4	E310~S50	N~64°~W	長5.22~2.5 × 幅0.12~0.20 × 高さ0.03~0.14	(直角)・(U字形)	
1-5	E220~S60~S60	N~75°~W	長5.08~5.5 × 幅0.15~0.20 × 高さ0.04	(直角)・(U字形)	
1-6	E220~S60	N~73°~W	長5.07~5.5 × 幅0.25 × 高さ0.03~0.05	直角・(U字形)	
B-1	E270~S50	N~8°~E	長5.02~5.5 × 幅0.20~0.25 × 高さ0.03	直角・(U字形)	
B-2	E270~S50	N~8°~E	長5.05~5 × 幅0.28 × 高さ0.03	はね直角・(U字形)	
B-3	E270~S50	N~13°~E	長5.08~5 × 幅0.22~0.30 × 高さ0.04	(直角)・(U字形)	
B-4	E270~S50	N~12°~E	長5.11~10 × 幅0.15~0.32 × 高さ0.02~0.07	むすびかに複数・(U字形)	
B-5	E270~S50	N~15°~E	長5.15~5 × 幅0.20~0.32 × 高さ0.04~0.08	(直角)・(U字形)	
B-6	E270~S50	N~8°~E	長5.15~5 × 幅0.28~0.35 × 高さ0.03~0.14	(直角)・(U字形)	
B-7	E280~S50~60	N~16°~W	長5.12~5.5 × 幅0.20~0.40 × 高さ0.20~0.34	(直角)・(U字形)	
B-8	E280~S50~60	N~2°~W	長5.14~5.5 × 幅0.25~0.37 × 高さ0.21~0.34	(直角)・(U字形)	
B-9	E280~S50~60	N~4°~W	長5.19~5.5 × 幅0.27~0.37 × 高さ0.26~0.34	(直角)・(U字形)	
B-10	E280~S50~60	N~4°~E	長5.12~6.5 × 幅0.25~0.35 × 高さ0.17~0.30	(直角)・(U字形)	
B-11	E280~S50~60	N~10°~E	長5.20~5.5 × 幅0.30~0.40 × 高さ0.18~0.20	(直角)・(U字形)	
B-12	E280~S50~60	N~13°~E	長5.33~5.5 × 幅0.28~0.36 × 高さ0.20~0.25	(直角)・(U字形)	
B-1	E280~S50~60	N~56°~W	長5.18~5.5 × 幅0.20~0.28 × 高さ0.13~0.27	(直角)・(U字形)	
B-2	E320~S50~60	N~19°~W	長5.10~20 × 幅0.23~0.28 × 高さ0.04~0.11	(直角)・(U字形)	
B-3	E320~S40~60	N~18°~W	長5.10~20 × 幅0.20~0.30 × 高さ0.02~0.10	(直角)・(U字形)	
B-4	E320~S40~60	N~18°~W	長5.10~25 × 幅0.15~0.25 × 高さ0.06~0.12	(直角)・(U字形)	

B区区層
跡跡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	幅・高(m)	平面形・断面形	時間
SD403	E320~S30~S50	N~23°~E	長き19.60 × 幅0.80~1.10 × 高さ0.07~0.16	(直角)・直状	
SD404	E320~S30~S40~50	N~18°~E	長5.12~50 × 幅0.53~1.32 × 高さ0.04~0.23	(直角)・直状	
SD405	E320~S30~S40~50	N~16°~E	長5.12~50 × 幅0.50~1.35 × 高さ0.05~0.26	はね直角・連台形	
SD406	E330~S30~40	N~6°~E	長5.11~30 × 幅0.35~0.70 × 高さ0.04~0.18	むすびかに複数・U字形	
SD418	E330~S30~40	N~10°~E	長5.11~50 × 幅0.30~1.50 × 高さ0.03~0.08	U字直角・直状	

ピット列

遺構番号	位置(グリッド)	方向	上輪方位	ピット数	幅・高(m)	時間
43号	E310~S30~S40~50	N~75°~E		15基	長9.60	
45号	E310~S30~S40~50	N~75°~W		10基	長9.70	
47号	E310~S30~S50~60	N~78°~W		24基	長5.16~75	
54号	E300~S30~S30~80	N~0°~N~52°~W		57基	長5.28~20	
55号	E310~S30~S30	N~68°~W		7基	長5.48	
56号	E310~S30~S30	N~61°~E		20基	長5.12~05	
57号	E310~S30~S30	N~67°~W		23基	長5.14~40	
58号	E310~S30~S30	N~77°~E		5基	長5.21~10	
59号	E310~S30~S30~90	N~83°~W		8基	長5.50~90	
60号	E320~S30~S30	N~73°~E		3基	長5.18~62	
61号	E310~S30~S30~80	N~45°~87°~W		23基	長5.18~00	
62号	E320~S30~S30	N~18°~W		6基	長5.40~05	
63号	E320~S30~S30	N~75°~E		8基	長5.50~00	
64号	E320~S30~S30	N~20°~W		7基	長5.56~65	
65号	E320~S30~S30	N~75°~W		6基	長5.59~95	
66号	E300~S30~S30	N~6~E		18基	長5.15~20	
67号	E320~S30~S40	N~89°~W		9基	長5.17~80	

B区区層
凸角

遺構番号	位置(グリッド)	方向	幅・高(m)	平面形・断面形	時間
29号項	E230~240~S50~60	-	幅12.20 × 同溝幅2.08~2.70 × 同溝深さ0.62~0.82	円墳・楕円連台形	50紀後半

坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	幅・高(m)	平面形・断面形	時間
SK407	E250~S50	N~86°~E	長軸122 × 短軸72 × 深さ2.2	短軸形・連台形	
SK408	E250~S50	N~38°~E	長軸175 × 短軸80 × 深さ2.14	短軸形・直状	
SK410	E310~S30~S50	N~19°~E	長軸190 × 短軸58~66 × 深さ2.67	調丸長方形・連台形	
SK417	E310~S40	N~4°~W	長軸95 × 短軸40~85 × 深さ2.27~2.46	調丸長方形・斜傾状	
SK420	E330~S30	N~19°~E	長軸102 × 短軸60 × 深さ2.25	調丸長方形・連台形	

第7表 遺構一覧表（5）

B区Ⅴ層
遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方向	範囲(m)	平面形・断面形	時期
SD411	E280・S50	N-30°W	長さ5.40×幅0.30-0.70×深5.006	やや凸曲・瓶状	
SD419	E320・S30	N-61°W	長さ3.50×幅0.34-0.54×深2.07-0.21	やや凸曲・U字形	
SD421			(大野田古墳群の遺構番号のこと)		

小塗状遺構群

遺構番号	位置(グリッド)	方向	範囲(m)	平面形・断面形	時期
I-1	E290・S50-60	N-18°E	長さ2.55×幅0.29-0.40×深2.005	ほぼ直線・U字形	
I-2	E290・S50	N-12°E	長さ2.10×幅0.15-0.22×深5.005-0.08	ほぼ直線・U字形	
I-3	E290・S50-60	N-19°E	長さ2.55×幅0.18-0.25×深2.03-0.10	ほぼ直線・U字形	
I-4	E290-300・S50-60	N-18°E	長さ3.65×幅0.20-0.40×深2.008-0.32	ほぼ直線・U字形	
I-5	E300・S50-60	N-23°E	長さ2.14×幅0.25-0.45×深5.008-0.14	ほぼ直線・U字形	
I-6	E300・S50-60	N-23°E	長さ2.14×幅0.25-0.30×深5.004-0.19	直線・U字形	
I-7	E300・S50-60	N-19°E	長さ2.25×幅0.25-0.30×深5.006-0.23	直線・U字形	
I-8	E300-310・S50-60	N-15°E	長さ2.81×幅0.25-0.30×深5.007-0.20	ほぼ直線・U字形	
I-9	E310・S50-60	N-13°E	長さ2.84×幅0.25-0.32×深5.010-0.20	ほぼ直線・U字形	
I-10	E310・S50-60	N-20°E	長さ2.80×幅0.30-0.42×深7.012-0.39	ほぼ直線・U字形	
I-11	E310・S50-60	N-17°E	長さ2.87×幅0.25-0.38×深5.009-0.23	ほぼ直線・U字形	
I-12	E310-320・S50-60	N-18°E	長さ2.10×幅0.20-0.40×深7.007-0.19	ほぼ直線・U字形	
I-13	E320・S50-60	N-15°E	長さ2.10×幅0.25-0.40×深5.006-0.24	わずかに凸曲・U字形	
I-14	E320・S50-60	N-12°E	長さ2.10×幅0.30-0.35×深5.008-0.36	ほぼ直線・U字形	
I-15	E320・S50-60	N-12°E	長さ2.90×幅0.33-0.50×深5.017-0.35	わずかに凸曲・U字形	
I-16	E320・S50-60	N-13°E	長さ2.95×幅0.30-0.52×深5.010-0.14	直線・U字形	
I-17	E320-330・S50	N-22°E	長さ2.97×幅0.35-0.50×深5.019-0.27	ほぼ直線・U字形	
I-18	E330・S50	N-20°E	長さ2.10×幅0.40-0.50×深5.020-0.29	直線・U字形	
B-1	E300-320・S40	N-88°E	長さ14.00×幅0.28-0.46×深5.005-0.09	やや凸曲・U字形	
B-2	E250・S50	N-42°E	長さ2.50×幅0.15-0.20×深5.004-0.08	ほぼ直線・U字形	
B-3	E260・S50-60	N-2°E	長さ2.10×幅0.20-0.30×深5.004-0.07	直線・U字形	
B-4	E300・S40-50	N-2°W	長さ2.05×幅0.15-0.25×深5.002-0.10	ほぼ直線・U字形	

B区Ⅴ層
柱

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	範囲(m)	平面形・断面形	時期
SK424	E10・S240	N-67°W	長軸110×短軸55×深20-30	圓丸長方形・短柱	

小塗状遺構群

遺構番号	位置(グリッド)	方向	範囲(m)	平面形・断面形	時期
I-1	E20・S210	N-1°W	長さ5.60×幅0.20-0.45×深5.008-0.18	直線・U字形	
I-2	E20・S240	N-1°W	長さ4.40×幅0.20-0.35×深5.009-0.17	直線・U字形	
I-3	E30・S210	N-2°E	長さ2.55×幅0.25-0.40×深5.012-0.15	ほぼ直線・U字形	
I-4	E30・S210-230	N-6°E	長さ9.60×幅0.20-0.40×深5.007-0.13	ほぼ直線・U字形	
I-5	E30・S250	N-1°W	長さ4.00×幅0.25-0.35×深5.006-0.29	直線・U字形	
B-1	E30・S250	N-50°E	長さ1.50×幅0.18-0.25×深5.002-0.14	直線・U字形	

9区V層
柱と柱建物群

遺構番号	位置(グリッド)	主軸方位	柱間数	建物復元(m)	時期
SK464	E10・S240			(大野田古墳群の遺構番号のこと)	

本相手

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	範囲(m)	平面形・断面形	時期
SK446	E170-180・S40	N-48°W	長軸256-272×短軸108-125×深5.128-146	圓丸長方形・連台形	6世紀中期
SK475	E170・N20-40	N-62°W	長軸343×短軸165×深5.160	圓丸長方形・連台形	

柱

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	範囲(m)	平面形・断面形	時期
SK439	E180-190・N20	N-32°E	長軸1.86×短軸58×深2.55-2.54	(小)整円形・U字形	古墳-古代
SK442	E180・N20	N-48°E	長軸1.60×短軸45×深2.50-2.51	(小)円形・瓶状	9世紀中期以前
SK445	E180・N20	N-9°W	長軸1.98×短軸115×深2.42-2.55	圓丸長方形・連台形	
SK449	E180・N20	-	長軸1.82×短軸165×深2.40-2.47	(小)円形・連台形	8世紀初期
SK455	E180・N20	N-85°E	長軸1.32×短軸10×深3.37	(小)円形・連台形	
SK466	E170・N20	N-11°W	南北15.5×東西90×深5.28	(小)整円形・U字形	
SK469	E180・N20	N-8°E	長軸128×短軸50-62×深3.57	圓丸長方形・瓶状	古墳-古代
SK471	E180・N20	N-79°W	長軸120×短軸70×深5.20-3.32	瓶形円柱・U字形	
SK472	E180-190・N30	N-79°E	長軸153×短軸115×深5.5-36	(小)円形・連台形	
SK473	E180・N20	-	径85前面×深5.35	不整円形・U字形	

筋小石明鏡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	範囲(m)	平面形・断面形	時期
SX431	E180・N20	N-79°W	長軸200×短軸14×深5.3-8	横状・瓶状	
SX456	E180・N20	N-32°E	長軸98×短軸20-50×深5.3-13	不整形・瓶状	
SX458	E170・N20	-	南北135×東西75×深5.15-21	不整形・瓶状	
SX459	E170・N20	N-4°E	長軸160×短軸67-105×深5.5-13	不整形・瓶状	古墳-古代
SX461	E170・N20	N-3°E	長軸100×短軸62×深5.20-25	不整形・連台形	古墳-古代
SX465	E170・N20	-	南北210×東西15×深5.2不明	不整形	

鏡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	範囲(m)	平面形・断面形	時期
SD447	E180・N20-40	N-2°W	長2.19±0×幅0.35-1.15×深5.005-~0.38	少の字・連台形或瓶状	古墳-古代
SD454	E170・N20-30	N-2°E	長2.510×幅0.65-0.85×深5.0-3.0	はな直線・U字形	

第8表 遺構一覧表（6）

9区V層
小流域名
小流域番号

遺構番号	位置（グリッド）	方向	幅 高 (m)	平面形・断面形	時期
1-1	E180 - N40	N-87° W	長さ(8.35) × 幅0.10 - 0.25 × 高さ0.04 - 0.09	わざかに凸面、U字形	
1-2	E170 - N80 - N40	N-88° W	長さ10.15 × 幅0.15 - 0.25 × 高さ0.04 - 0.06	ほぼ直線、U字形	
1-3	E170 - N80 - N40	東西	長さ9.65 × 幅0.12 - 0.20 × 高さ0.03 - 0.16	ほぼ直線、U字形	
1-4	E170 - N80 - N40	N-89° W	長さ9.70 × 幅0.15 - 0.25 × 高さ0.06 - 0.26	ほぼ直線、U字形	
1-5	E170 - N80 - N40	N-89° W	長さ10.80 × 幅0.10 - 0.20 × 高さ0.05 - 0.12	ほぼ直線、U字形	
1-6	E170 - N80 - N40	東西	長さ7.60 × 幅0.15 - 0.25 × 高さ0.07 - 0.27	わざかに傾面、U字形	
1-7	E180 - N40	N-89° W	長さ1.55 × 幅0.10 - 0.20 × 高さ0.01	ほぼ直線、U字形	
1-8	E170 - N80 - N30 - 40	N-87° W	長さ2.60 × 幅0.20 - 0.30 × 高さ0.11 - 0.14	わざかに凸面、U字形	
1-9	E170 - N80 - N30	N-89° E	長さ9.90 × 幅0.10 - 0.25 × 高さ0.08 - 0.15	わざかに傾面、U字形	
1-10	E170 - N80 - N30	N-89° E	長さ10.90 × 幅0.15 - 0.30 × 高さ0.04 - 0.21	わざかに凸面、U字形	
1-11	E180 - N30	N-85° E	長さ3.50 × 幅0.18 - 0.28 × 高さ0.06 - 0.10	ほぼ直線、U字形	
1-12	E180 - N30	N-85° E	長さ3.50 × 幅0.18 - 0.28 × 高さ0.04 - 0.20	ほぼ直線、U字形	
1-13	E170 - N80 - N30	N-86° E	長さ9.65 × 幅0.18 - 0.20 × 高さ0.04 - 0.07	ほぼ直線、U字形	
1-14	E180 - N30	N-89° W	長さ4.45 × 幅0.18 - 0.25 × 高さ0.08 - 0.13	わざかに傾面、U字形	
1-15	E180 - N30	N-88° W	長さ4.45 × 幅0.10 - 0.25 × 高さ0.06 - 0.13	ほぼ直線、U字形	
1-16	E170 - N80 - N30	N-85° W	長さ11.70 × 幅0.13 - 0.35 × 高さ0.05 - 0.11	わざかに傾面、U字形	
1-17	E170 - N80 - N30	N-87° W	長さ3.85 × 幅0.12 - 0.28 × 高さ0.05 - 0.14	ほぼ直線、U字形	
1-18	E180 - N30	東西	長さ2.85 × 幅0.30 - 0.38 × 高さ0.06 - 0.08	ほぼ直線、U字形	
1-19	E170 - N80 - N30	東西	長さ7.95 × 幅0.20 - 0.30 × 高さ0.06 - 0.27	ほぼ直線、U字形	
1-20	E180 - N30	N-88° W	長さ2.55 × 幅0.15 - 0.25 × 高さ0.02 - 0.06	ほぼ直線、U字形	
1-21	E180 - N30	N-87° W	長さ2.60 × 幅0.10 - 0.25 × 高さ0.02	わざかに傾面、U字形	
1-22	E170 - N80 - N30	N-88° W	長さ3.95 × 幅0.15 - 0.25 × 高さ0.05 - 0.09	わざかに傾面、U字形	
1-23	E180 - N30 - 30	N-89° W	長さ7.90 × 幅0.25 - 0.40 × 高さ0.09 - 0.22	ほぼ直線、U字形	
1-24	E180 - N30	N-88° E	長さ7.75 × 幅0.10 - 0.28 × 高さ0.06 - 0.15	わざかに傾面、U字形	
1-25	E180 - N30 - 30	N-88° E	長さ2.45 × 幅0.15 - 0.30 × 高さ0.08 - 0.13	わざかに傾面、U字形	
1-26	E180 - N30	N-85° W	長さ4.95 × 幅0.25 - 0.45 × 高さ0.06 - 0.08	ほぼ直線、U字形	
1-27	E180 - N30	N-82° W	長さ3.10 × 幅0.30 - 0.40 × 高さ0.07 - 0.25	直線、U字形	
1-28	E170 - N90 - N20	N-85° W	長さ1.16 × 幅0.15 - 0.28 × 高さ0.11 - 0.36	わざかに傾面、U字形	
1-29	E180 - N20	N-78° W	長さ1.80 × 幅0.20 - 0.30 × 高さ0.12 - 0.13	ほぼ直線、U字形	
1-30	E180 - N20	N-84° W	長さ4.15 × 幅0.20 - 0.30 × 高さ0.10 - 0.22	直線、U字形	
1-31	E180 - N20	N-84° W	長さ5.70 × 幅0.18 - 0.30 × 高さ0.10 - 0.22	わざかに凸面、U字形	
1-32	E180 - N90 - N20	N-86° W	長さ5.45 × 幅0.25 - 0.38 × 高さ0.08 - 0.21	ほぼ直線、U字形	
1-33	E180 - N90 - N20	N-82° W	長さ5.45 × 幅0.15 - 0.37 × 高さ0.08 - 0.24	わざかに傾面、U字形	
1-34	E180 - N90 - N20	N-85° W	長さ1.15 × 幅0.20 - 0.30 × 高さ0.15 - 0.44	わざかに傾面、U字形	
1-35	E180 - N90 - N20	N-89° W	長さ6.45 × 幅0.25 - 0.35 × 高さ0.07 - 0.07	わざかに凸面、U字形	
1-36	E180 - N90 - N20	N-86° W	長さ1.15 × 幅0.20 - 0.43 × 高さ0.13 - 0.34	わざかに凸面、U字形	
1-37	E180 - N90 - N20	N-87° W	長さ11.60 × 幅0.30 - 0.48 × 高さ0.31 - 0.50	わざかに傾面、U字形	
1-38	E180 - N10 - 20	N-84° W	長さ1.70 × 幅0.20 - 0.25 × 高さ0.19	わざかに傾面、U字形	
B-1	E170 - N30 - 30	N-89° E	長さ7.35 × 幅0.15 - 0.25 × 高さ0.03 - 0.09	ほぼ直線、不明	
B-2	E170 - N40	N-6° E	長さ3.20 × 幅0.12 - 0.30 × 高さ0.09 - 0.10	ほぼ直線、U字形	
B-3	E170 - N20 - 40	N-9° E	長さ5.15 × 幅0.15 - 0.30 × 高さ0.16 - 0.25	ほぼ直線、U字形	
B-4	E170 - N20 - 40	N-8° E	長さ3.15 × 幅0.22 - 0.40 × 高さ0.07 - 0.19	ほぼ直線、U字形	
B-5	E170 - N20 - 40	N-8° E	長さ3.15 × 幅0.20 - 0.35 × 高さ0.11 - 0.22	ほぼ直線、U字形	
B-6	E170 - N20 - 40	N-6° E	長さ3.27 × 幅0.21 - 0.39 × 高さ0.04	ほぼ直線、U字形	
B-7	E180 - N20 - 40	N-8° E	長さ2.870 × 幅0.25 - 0.40 × 高さ0.11 - 0.30	わざかに傾面、U字形	
B-8	E180 - N20 - 40	N-9° E	長さ3.19 × 幅0.25 - 0.45 × 高さ0.12 - 0.43	わざかに傾面、U字形	
B-9	E180 - N20 - 40	N-10° E	長さ5.230 × 幅0.25 - 0.50 × 高さ0.11 - 0.41	ほぼ直線、U字形	
B-10	E180 - N20 - 30	N-10° E	長さ16.15 × 幅0.30 - 0.60 × 高さ0.11 - 0.49	ほぼ直線、U字形	
B-11	E180 - N10 - 30	N-12° E	長さ6.80 × 幅0.30 - 0.50 × 高さ0.08 - 0.36	ほぼ直線、U字形	
B-1	E170 - N40	N-2° W	長さ0.70 × 幅0.20 - 0.40 × 高さ0.07 - 0.19	直線、U字形	
B-2	E170 - N80 - N40	N-1° E	長さ0.65 × 幅0.40 - 0.50 × 高さ0.20 - 0.27	直線、U字形	
B-3	E180 - N10 - 40	N-1° E	長さ0.65 × 幅0.40 - 0.50 × 高さ0.15 - 0.21	直線、U字形	
B-4	E180 - N40	N-1° E	長さ1.00 × 幅0.45 × 高さ0.21 - 0.30	直線、U字形	
B-5	E180 - N40	N-1° E	長さ1.00 × 幅0.30 - 0.50 × 高さ0.29 - 0.39	直線、U字形	
B-6	E180 - N10 - 20	N-3° E	長さ1.40 × 幅0.40 × 高さ0.25 - 0.27	直線、U字形	
B-7	E180 - N20	N-13° E	長さ1.05 × 幅0.50 - 0.60 × 高さ0.13 - 0.19	ほぼ直線、U字形	
B-8	E170 - N20 - 40	N-2° W	長さ2.35 × 幅0.35 - 0.60 × 高さ0.11 - 0.13	ほぼ直線、U字形	
B-2	E180 - N10 - 20	N-2° W	長さ2.25 × 幅0.25 - 0.45 × 高さ0.10	ほぼ直線、U字形	
B-3	E180 - N20 - 40	N-2° W	長さ2.35 × 幅0.15 - 0.40 × 高さ0.01 - 0.13	ほぼ直線、U字形	
B-4	E180 - N20 - 40	N-2° W	長さ2.25 × 幅0.20 - 0.35 × 高さ0.05 - 0.14	ほぼ直線、U字形	
B-5	E180 - N20 - 40	N-1° W	長さ2.25 × 幅0.20 - 0.40 × 高さ0.08 - 0.35	わざかに傾面、U字形	
B-6	E180 - N10 - 40	N-1° E	長さ3.94 × 幅0.20 - 0.50 × 高さ0.06 - 0.22	わざかに傾面、U字形	
B-7	E180 - N10 - 30	N-3° W	長さ3.19 × 幅0.30 - 0.60 × 高さ0.01 - 0.12	直線、U字形	
B-8	E180 - N10 - 20	N-1° W	長さ2.650 × 幅0.25 - 0.30 × 高さ0.11 - 0.23	ほぼ直線、U字形	
V-1	E180 - N20	N-63° E	長さ1.30 × 幅0.20 - 0.25 × 高さ0.05 - 0.08	わざかに凸面、U字形	
V-2	E180 - N20	N-87° W	長さ2.440 × 幅0.45 × 高さ0.07 - 0.12	わざかに凸面、U字形	

9区V層
凸面

285項

遺構番号	位置（グリッド）	方向	幅 高 (m)	平面形・断面形	時期
W0 - E0 - 20 - S180 - 100	7区V層28号地と同一遺構				3世紀後半

第9表 遺構一覧表(7)

9B区層
下段

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	幅 高(m)	平面形・断面形	時期
SK476	E20・S190	N-68°-W	長軸175×短軸132×深さ22~34	調丸長方形、連台形	
SK479	E20・S190	-	坪110×深さ521	はざみ形、U字形	
SK481	E20・S200	N-35°-E	長軸95×短軸70×深さ22	相引形、U字形	
SK489	E20・S190	N-10°-E	長軸195×短軸148×深さ30	調丸長方形、扇状	
SK495	E20・S190	(N-2°-E)	東西62×南北158×深さ8~11	相引形、扇状	
SK500	E20・S200	N-10°-W	長軸62×短軸68×深さ17	調丸長方形、扇形	
SK501	E20・S200	N-8°-E	長軸62×短軸62×深さ26	調丸長方形、扇形	
SK502	E20・S200	N-24°-E	長軸115×短軸63×深さ25~32	相引形、連台形	
SK507	E20・S210	N-25°-W	長軸95×短軸65×深さ57	不整面形、扇状	
SK508	E20・S200	N-68°-W	長軸94×短軸72×深さ23~37	相引形、連台形	
SK512	E20・S210	N-67°-W	長軸165×短軸115×深さ22	調丸長方形、扇状	
河川跡					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	幅 高(m)	平面形・断面形	時期
SR510	E10-20・S230	N-75°-E	長さ約60×幅450-670×深さ0.78	不明	近世
自然不明遺構					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	幅 高(m)	平面形・断面形	時期
SX511	E20・S210	-	東西196×南北110×深さ5.8~13	不整形、扇状	
墓跡					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	幅 高(m)	平面形・断面形	時期
SD476	E20-30・S180-190	N-56°-W	長さ15.10×幅0.72~1.20×深さ0.20~0.30	はざみ形、連台形	近世
SD477	E20-30・S190	71X 番SI239と同一遺構(SD309を参照)	-	-	-
SD480	E20-30・S190	N-76°-W	長さ9.55×幅0.20~0.63×深さ0.04~0.20	はざみ形、連台形	
SD509	E20-200-210	71X 番SI233と同一遺構(SD313を参照)	-	-	-
SD513	E20・S210	N-88°-E	長さ1.00×幅0.05~0.80×深さ0.20~0.40	直線、連台形	
小方形状遺構					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	幅 高(m)	平面形・断面形	時期
I-1	E20・N190-200	N-6°-E	長さ6.95×幅0.18~0.60×深さ0.04~0.16	はざみ形、U字形	
I-2	E20・N180-200	N-5°-E	長さ19.20×幅0.20~0.50×深さ0.10~0.14	はざみ形、U字形	
I-3	E20-30・N180-200	N-5°-E	長さ15.25×幅0.18~0.50×深さ0.07~0.22	はざみ形、U字形	
I-4	E20・N190-200	N-6°-E	長さ5.50×幅0.20~0.50×深さ0.04~0.36	はざみ形、U字形	
I-5	E20・N200	N-8°-E	長さ17.5×幅0.30~0.50×深さ0.07~0.15	わざかに済曲、U字形	
I-6	E20-30-N180-190	N-6°-E	長さ5.50×幅0.25~0.40×深さ0.07~0.15	はざみ形、U字形	
I-7	E20・N190	N-6°-E	長さ3.05×幅0.25×深さ0.09~0.15	直線、U字形	
I-8	E20・N190	N-5°-E	長さ2.05×幅0.25~0.20×深さ0.12~0.21	はざみ形、U字形	
B-1	E20・N180	N-86°-W	長さ2.50×幅0.25~0.30×深さ0.07~0.21	はざみ形、U字形	
B-2	E20・N180-190	N-88°-E	長さ3.15×幅0.20~0.40×深さ0.12~0.30	はざみ形、U字形	
B-3	E20-30・N180-190	N-89°-E	長さ12.45×幅0.20~0.40×深さ0.06~0.15	わざかに施行、U字形	
B-4	E20・N190	N-81°-E	長さ12.5×幅0.20~0.35×深さ0.15~0.26	わざかに済曲、U字形	
B-5	E20・N190	N-85°-W	長さ1.450×幅0.20~0.30×深さ0.08~0.07	はざみ形、U字形	
B-6	E20・N190	N-89°-E	長さ4.55×幅0.15~0.40×深さ0.05~0.24	わざかに済曲、U字形	
B-7	E20-30・N190	N-81°-W	長さ8.80×幅0.25~0.40×深さ0.05~0.15	わざかに施行、U字形	
B-8	E20・N190-200	N-89°-E	長さ4.45×幅0.25~0.45×深さ0.11~0.13	はざみ直線、U字形	
B-9	E20・N200	N-84°-E	長さ4.75×幅0.30~0.40×深さ0.08~0.22	わざかに済曲、U字形	
B-10	E20・N200	N-87°-E	長さ2.00×幅0.35×深さ0.23	わざかに済曲、U字形	

大野田古墳群写真図版



5 A区V層全景（南より）



6 A区V層全景（南より）

写真団版1 大野田古墳群（1）



6B区V層全景（東より）

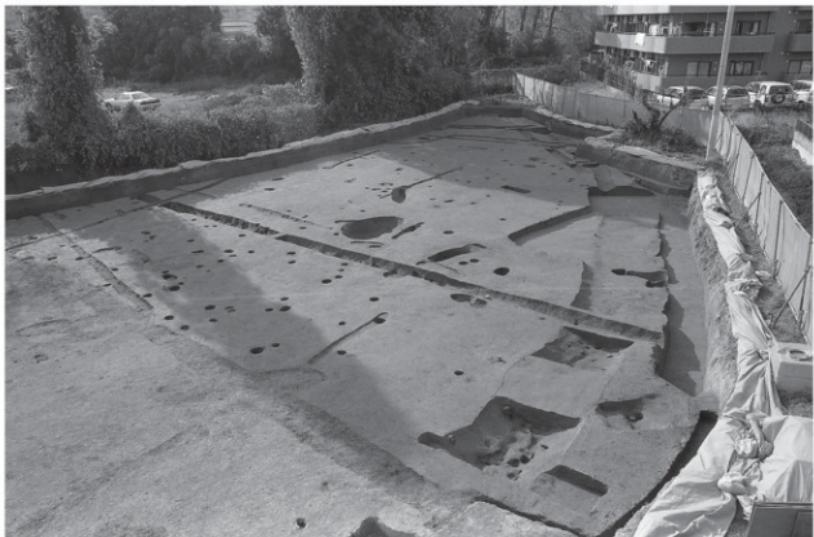


6B区V層SK263・265・266、SD262、SX264、ピット（北西より）

写真図版2 大野田古墳群（2）



6C区V層全景（西より）



7区V層西侧全景（東より）

写真団版3 大野田古墳群（3）



7区V層28号墳全景（北西より）



7区V層28号墳周溝内遺物出土状況（北より）



7区V層28号墳周溝内遺物出土状況（南より）



7区V層SI380（東より）



7区V層SI384（東より）

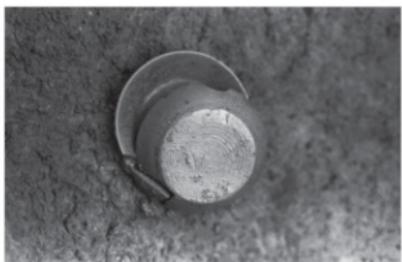
写真図版4 大野田古墳群（4）



7区V層東側全景・SB382遺景（北西より）



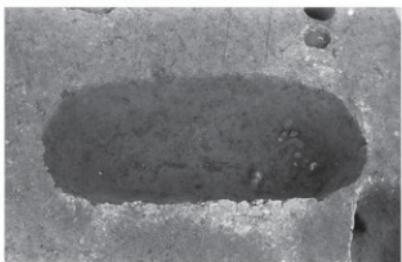
7区V層SB382（南より）



7区V層SB382 P13遺物出土状況（西より）



7区V層SK288（南より）

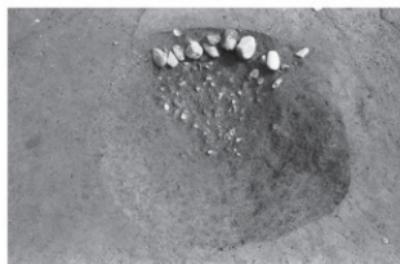


7区V層SK294（西より）

写真図版5 大野田古墳群（5）



7区V層SK296（南より）



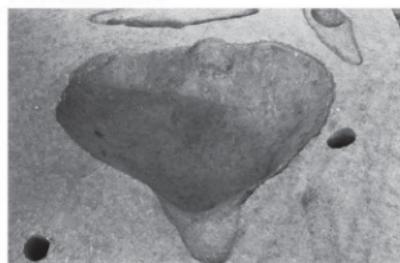
7区V層SK303（南西より）



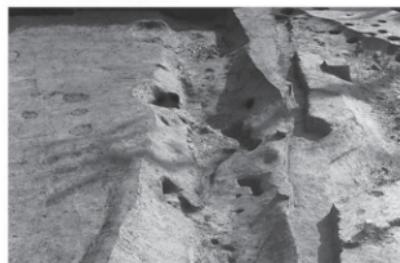
7区V層SX302（西より）



7区V層SX309（北西より）



7区V層SX365（南より）



7区V層SD376・377・379、SK378（北より）



7区V層埴張区SD339（西より）

写真図版6 大野田古墳群（6）



7区V層SD339・386（北西より）



8A区Ⅳ層・Ⅳ層南側全景（東より）

写真図版7 大野田古墳群（7）



8 A区Ⅲ層・Ⅳ層41・45・47号ピット列（南より）



8 A区Ⅳ層45号ピット列（南より）



8 A区Ⅳ層54～62・65・66号ピット列（東より）



8 A区Ⅲ層・Ⅳ層SD402～405（南より）



8 A区V層全景（東より）

写真図版 8 大野田古墳群（8）



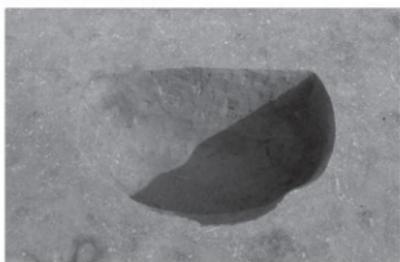
8A区V層SK407（東より）



8A区V層SK407（南より）



8A区V層SK408（北東より）



8A区V層SK420（西より）

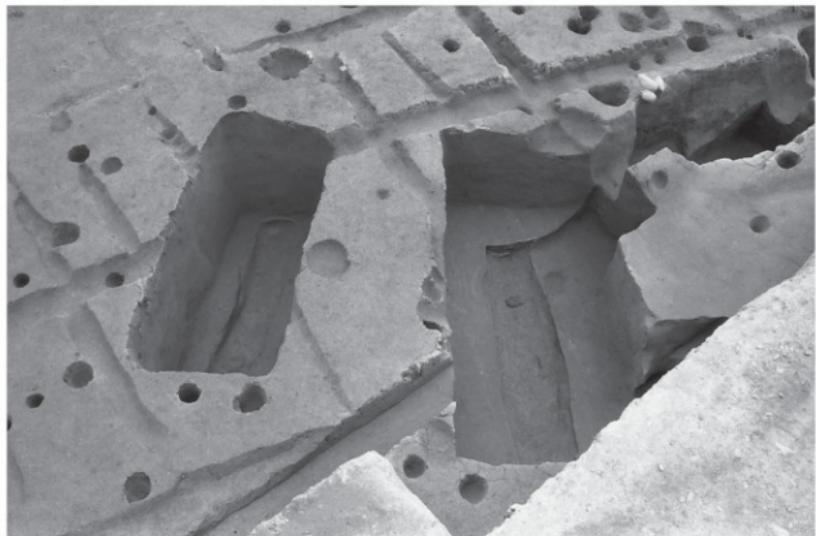


8B区V層SK409（南東より）

写真図版9 大野田古墳群（9）



9A区V層全景（南東より）



9A区V層SK446・475木棺墓（北西より）

写真図版10 大野田古墳群（10）



9 A区V層SK446木棺基（北東より）



9 A区V層SK446木棺基壺状握り込み遺物出土状況（北より）



9 A区V層SK446木棺基掘り方（北東より）

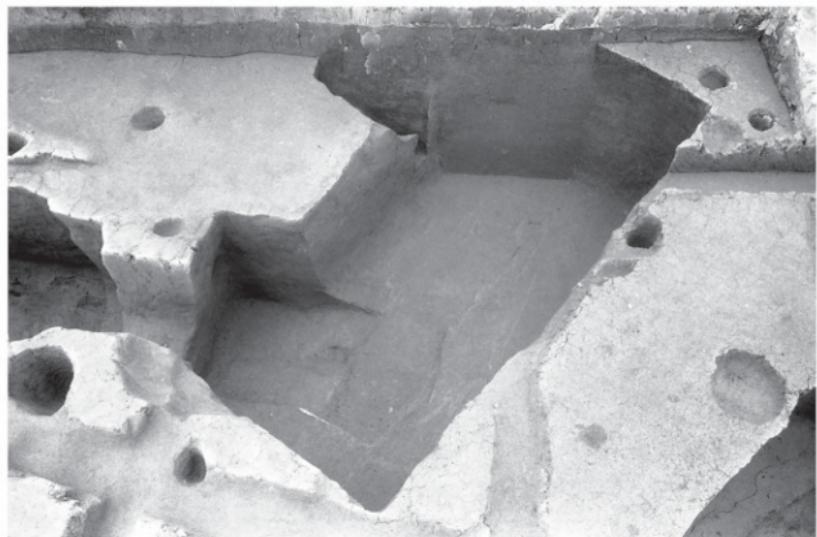


9 A区V層SK475木棺基棺底検出状況（南東より）

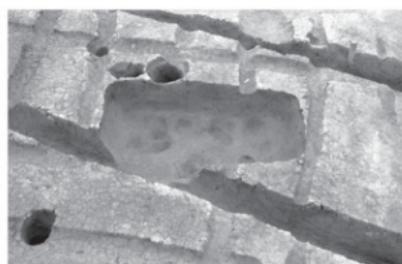


9 A区V層SK475木棺基白色粘土分布状況（西より）

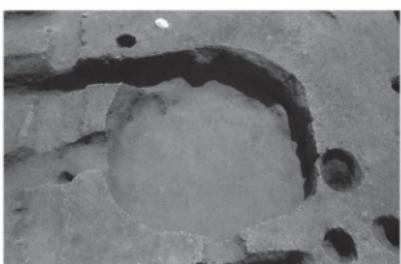
写真図版11 大野田古墳群（11）



9 A区V層SK475木棺基木棺痕跡棲出状況（東より）



9 A区V層SK445（東より）



9 A区V層SK449（西より）



9 A区V層SK455（北より）



9 A区V層P428遺物出土状況（北東より）

写真図版12 大野田古墳群（12）



9B区V層南側全景（西より）



9B区V層南側全景（北西より）

写真図版13 大野田古墳群（13）



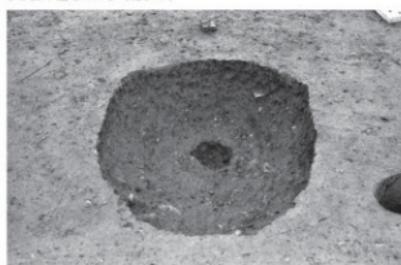
9B区V層調査区中央小溝状遺構群（西より）



9B区V層SK478（北より）



9B区V層SK500・501（南より）

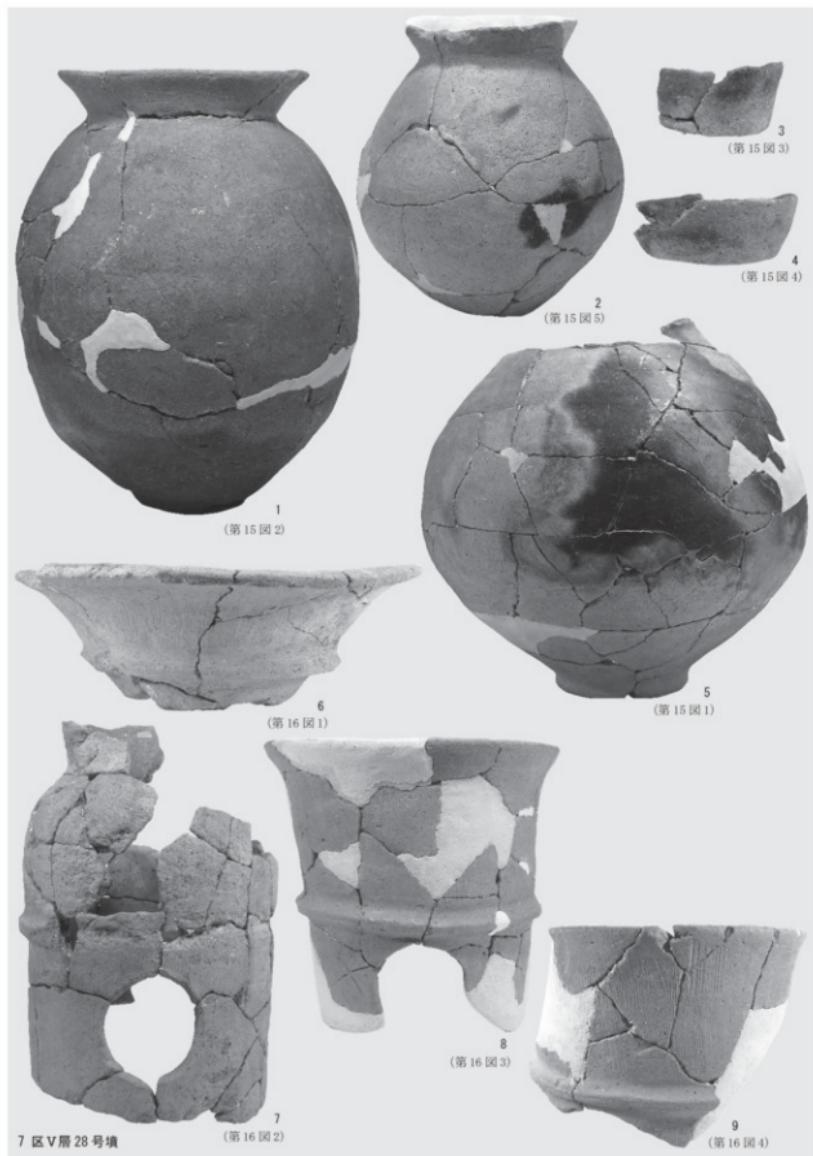


9B区V層SK502（東より）

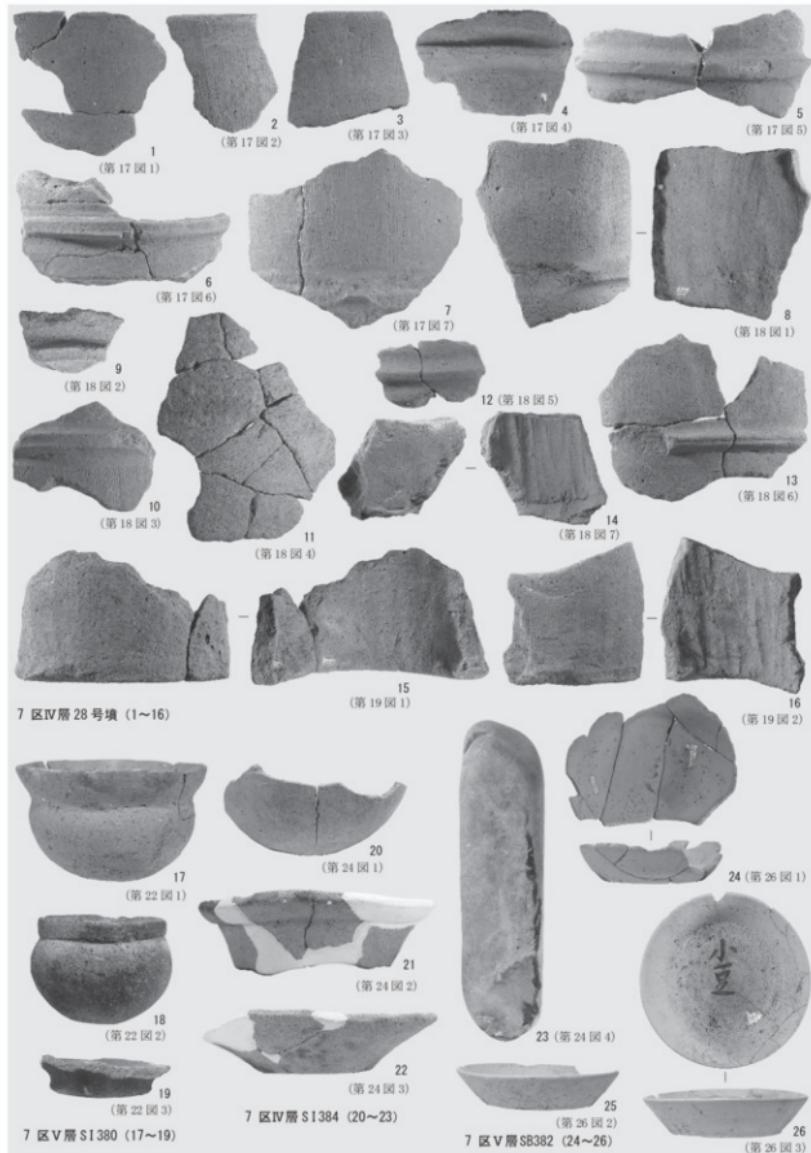


9B区V層SK512（西より）

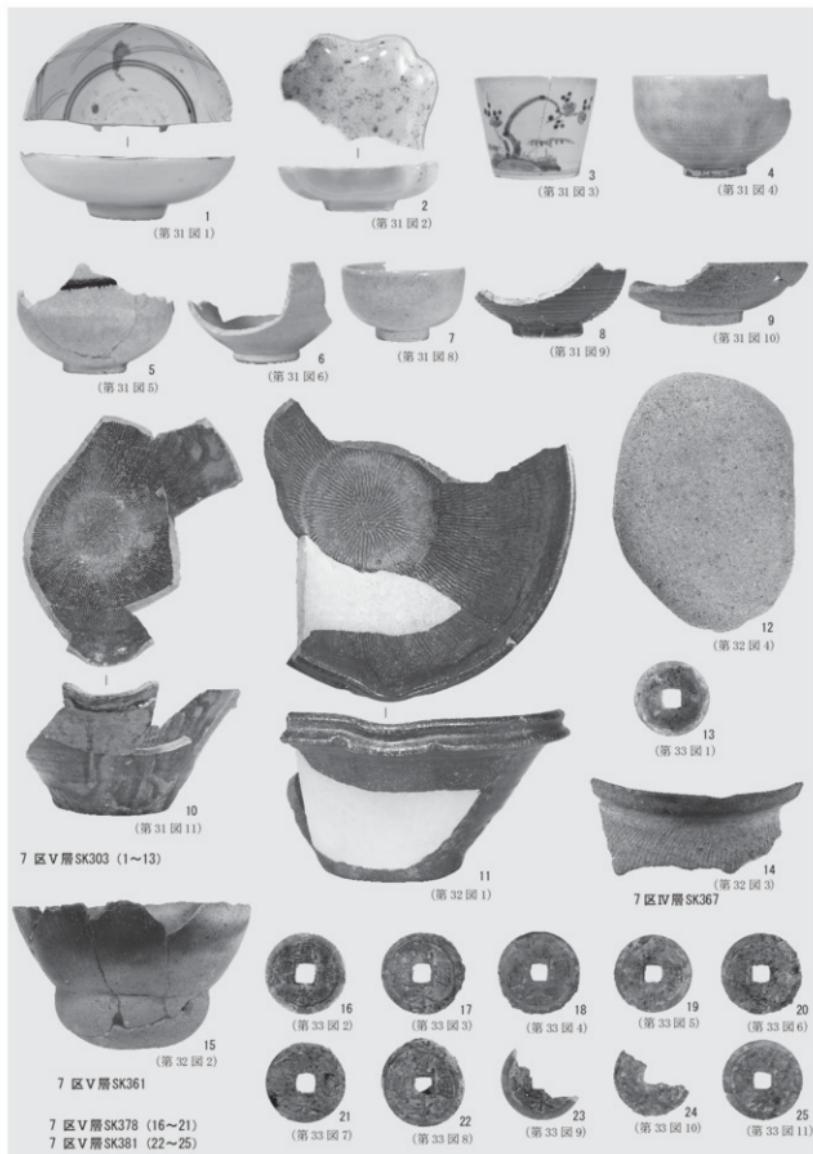
写真図版14 大野田古墳群（14）



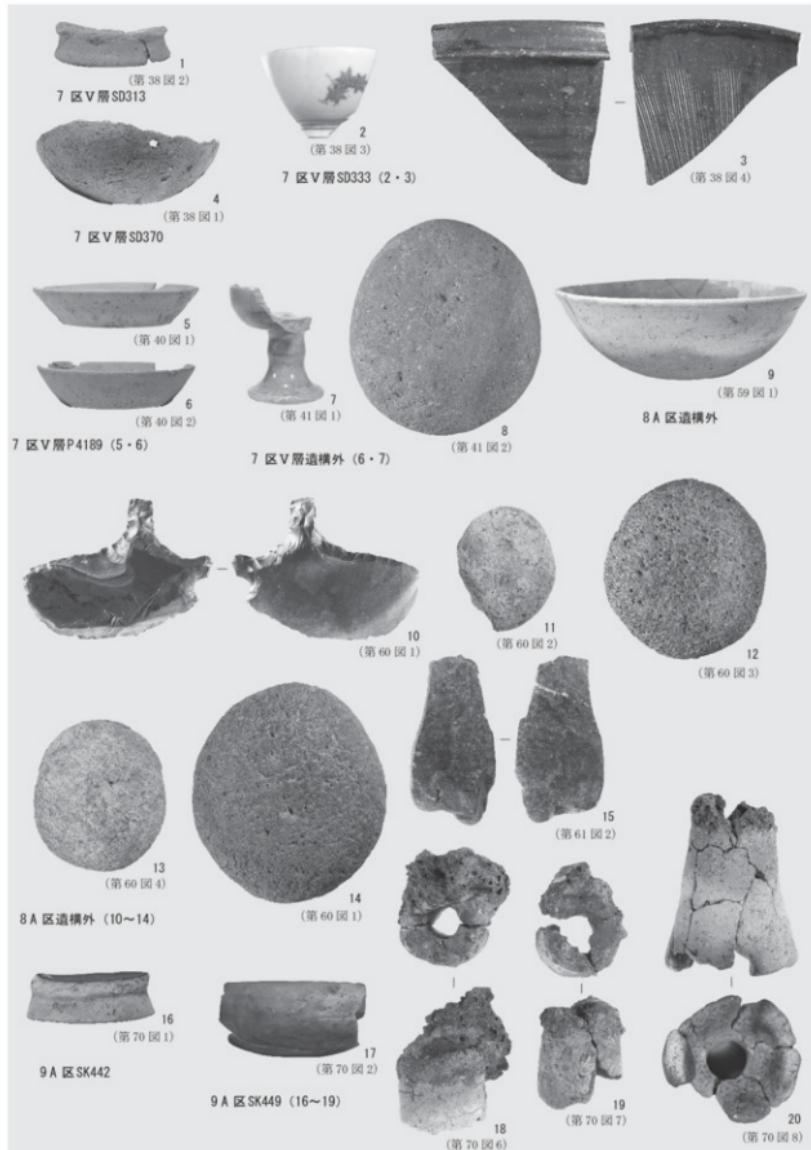
写真図版15 大野田古墳群出土遺物（1）



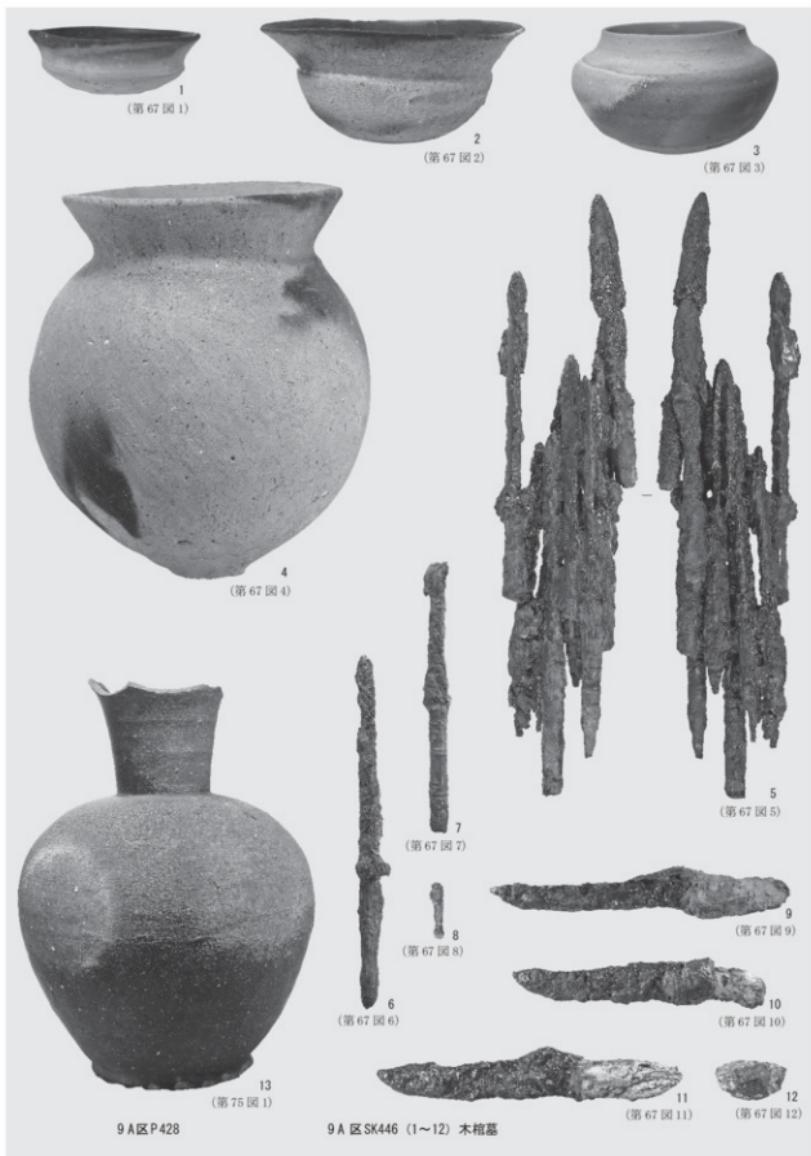
写真図版16 大野田古墳群出土遺物 (2)



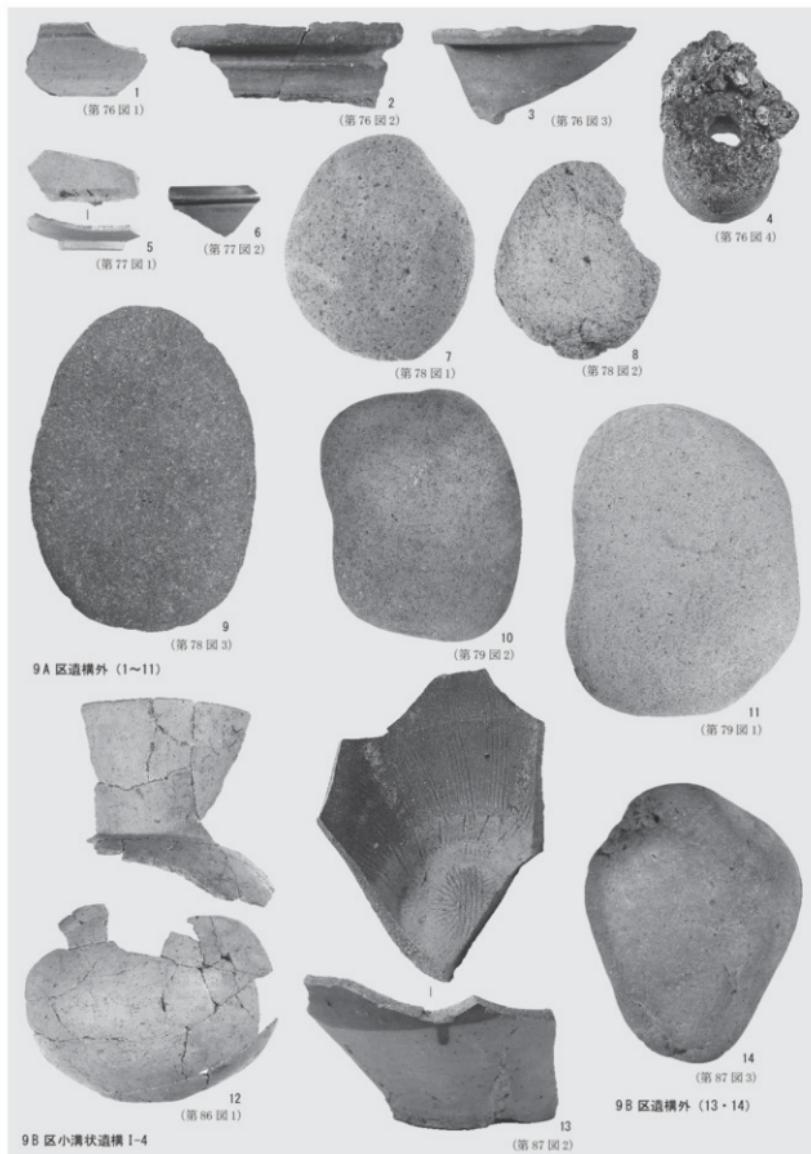
写真図版17 大野田古墳群出土遺物（3）



写真図版 18 大野田古墳群出土遺物 (4)



写真図版19 大野田古墳群出土遺物（5）



写真図版20 大野田古墳群出土遺物（6）

第6節 王ノ壇古墳

1. 調査要項

- (1) 遺跡名：王ノ壇古墳（宮城県遺跡登録番号01321）
- (2) 所在地：仙台市太白区大野田字王ノ壇
- (3) 調査面積：約485m²
- (4) 調査主体：仙台市教育委員会
- (5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員：佐藤淳・松本顯嗣
- (7) 調査期間
 - （野外調査）・平成15年6月19日～8月6日
 - （整理作業）調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で一括最終整理を実施した。
 - ・平成22年6月18日～平成23年3月31日

2. 王ノ壇古墳の調査

王ノ壇古墳及び西に隣接する大野田古墳群では平成16年度までに、古墳時代中期の古墳32基が確認されている。これらの古墳のうち墳丘が遺存していた古墳は、春日社古墳と本節で詳細を報告する王ノ壇古墳である。調査前の状況は墳丘とその周辺には雜木や雜草が生い茂り、古墳東側には盛り土が厚く置かれていた。平成元年度には王ノ壇古墳の東半が調査され、周溝内からは円筒埴輪・朝顔形埴輪片956点が出土している（仙台市教育委員会 2000）。

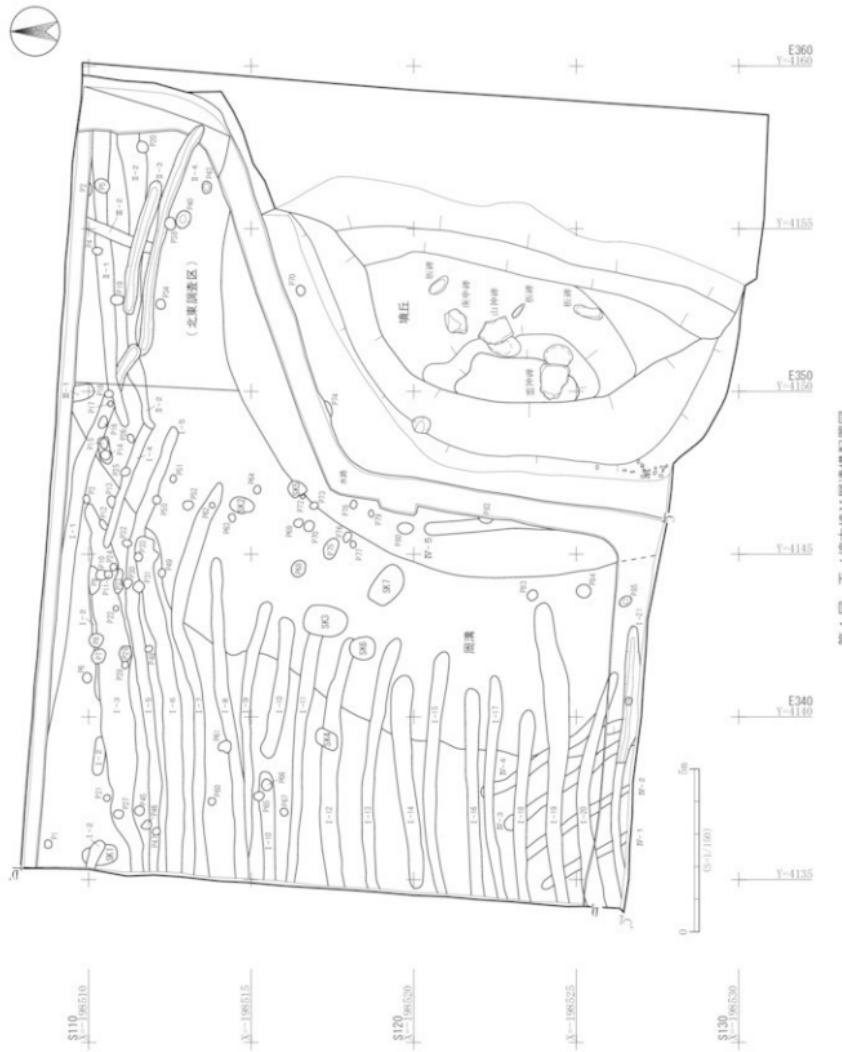
今回報告する平成15年度の調査区は公園として整備される予定で、古墳の墳丘及び古墳周辺の一部を除き工事の影響を受けないことから、遺構の検出と記録にとどめる確認調査を基本としたが、水道の施設が埋設される予定の北東部の一部（北東調査区）と調査区南側の水路の一部については遺構の精査を行った。したがって、精査を行った地点以外で検出した遺構の規模などについては確認面のデータである。また、墳丘については除草を行い、現況の測量図を作成した。墳丘には中世の石碑5基（仙台市史編さん委員会 1998）が置かれており、調査時の墳丘残存規模は南北12.00m、東西8.00m、現地表面からの高さ1.50mである。

確認調査はⅢ層・一部Ⅳ層とV層で行った。Ⅲ層・Ⅳ層では遺構は検出されなかったため、人力でⅢ・Ⅳ層を除去してV層で遺構確認を行った。その結果、古墳周溝、土坑7基、小溝状遺構群4群、ピット85基が検出された。また、北東部調査区（5×8m）では、古墳周溝の底面まで調査を行った。以下、確認された各遺構について報告する。

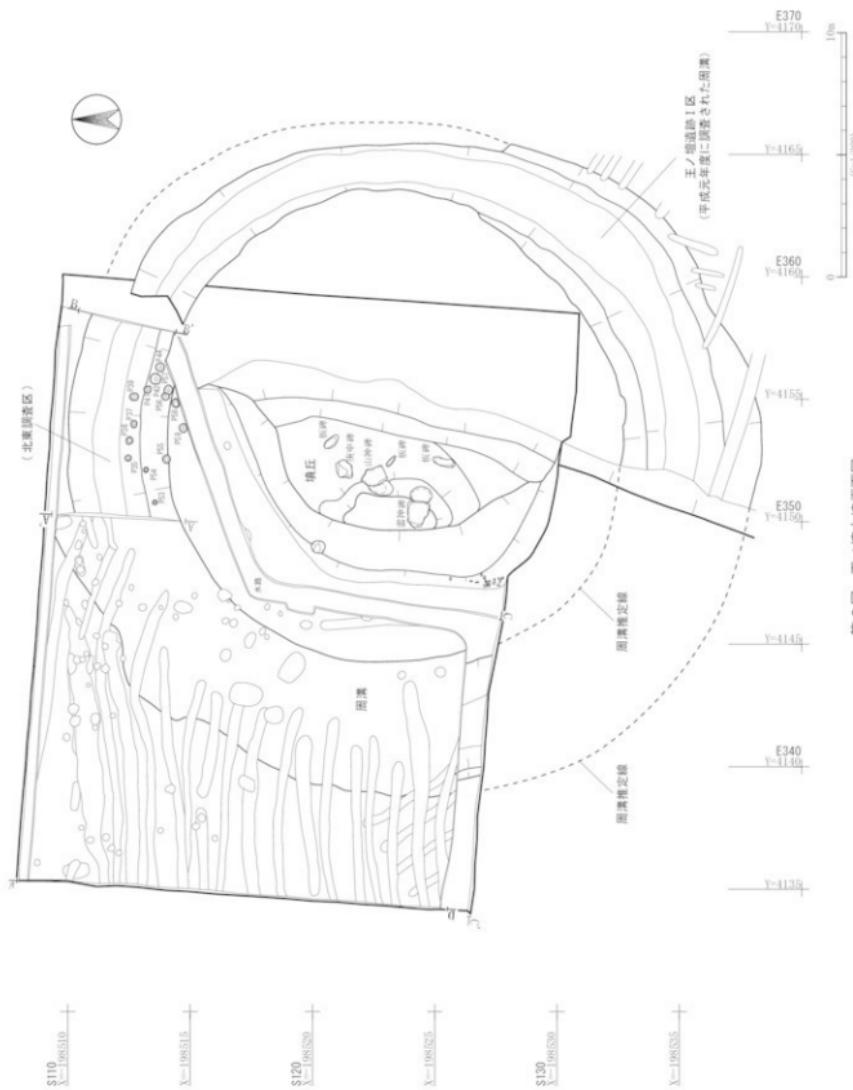
（1）V層検出の遺構と遺物（第1図）

- 1) 王ノ壇古墳周溝（第1～3図、図版1・2）
 - E330～350・S100～130グリッドで検出したもので、古墳周溝全体の北から西の約1/4程度が確認された。SK 2・3・6・7土坑、ピットP 2・4・5・14～19・20・25・26・34・38・40・43・49～52・62～64・68～70・72・73・75～77・83・84、小溝状遺構I-1～5・7～21、II-1～4、III-1・2、IV-3・4と重複し、周溝が古い。また、北東調査区では周溝を底面まで調査したが、その際に新旧関係が不明なピットP35～37・39・41・42・53～59が検出された。

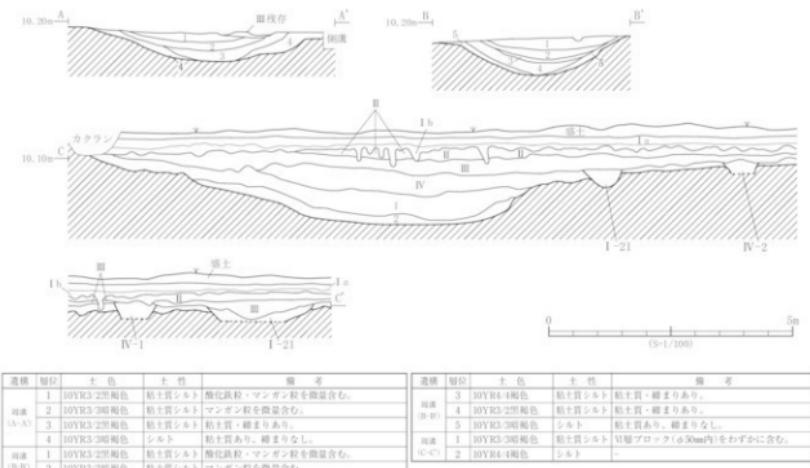
北東調査区で検出した周溝の規模は幅5.00m前後、深さ80cm前後で、断面形は皿状である。平成元年度の調査での規模は周溝幅2.00～5.70m、深さ10～90cmであり、削平の影響により幅が2.00m前後と狭くなっている部分を除



第1図 王ノ塙古墳V層道構造配置図



第2圖 王ノ壇古墳平面圖



第3図 王ノ塙古墳周溝断面図

けば、本調査区で確認した周溝規模もほぼ同じ5.00m前後である。両調査区を合わせて（第2図・仙台市文化財調査報告書第249集「王ノ塙跡」第125図と合成）古墳規模を計測すると、周溝内径は19.00m、外縁径は26.80～28.50mの円墳である。周溝検出面や周溝内堆積土及び底面から埴輪破片が出土しており、そのうち7点を第5図に図示した。また、時期違いではあるが、埋没の年代を示す遺物として須恵器片1点、瓦片1点を国示した。1・2は朝顔形埴輪の口縁部片である。外面タテハケメ、内面ナデで、作りが非常に薄い。3～5は凸帯部片である。外面タテハケメ、内面ナデである。6・7は基部破片である。外面タテハケメ、内面指ナデ・指オサエである。1～7ともに5世紀後葉～6世紀前葉の所産と考えられる。8は須恵器蓋で、9は布目平瓦である。大略8世紀前半ごろのものと考えられる。

2) 土 坑

SK 1 土坑（第1図） E340・S100～110グリッドで検出した。小溝状遺構I-2と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は梢円形で、長軸方向は南北正方位である。規模は長軸108cm、短軸60cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK 2 土坑（第1図） E340・S110グリッドで検出した。古墳周溝と重複し、本遺構が新しい。平面形は梢円形で、長軸方向はN-10°-Eである。規模は長軸76cm、短軸50cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK 3 土坑（第1図） W340・S110グリッドで検出した。古墳周溝、小溝状遺構I-11と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は梢円形で、長軸方向は南北正方位である。規模は長軸135cm、短軸95cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK 4 土坑（第1図） E330・S110グリッドで検出した。小溝状遺構I-12と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は梢円形で、長軸方向はN-30°-Eである。規模は長軸66cm、短軸55cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK 5 土坑（第1図） E340・S110グリッドで検出した。古墳周溝と重複し、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、規模は径58cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK 6 土坑（第1図） E340・S110グリッドで検出した。小溝状遺構群I-12と重複し、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は南北正方位である。規模は長軸80cm、短軸70cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

SK 7 土坑（第1図） E340・S110グリッドで検出した。古墳周溝と重複し、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-57°-Wである。規模は長軸130cm、短軸80cm、深さは不明である。遺物は出土していない。

3) 小溝状遺構群

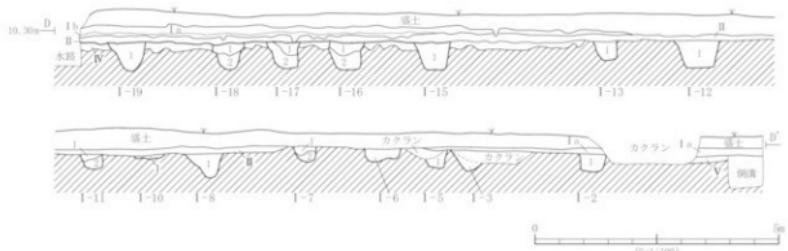
畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、方向と重複関係からI～IV群に分けられ、II・IV群からI・III群への変遷が考えられる。また、これらの小溝状遺構群は古墳周溝半ば付近で途切れていることも特徴的である。

I群（第1・4図） E330～350・S100～120グリッドで検出した。東西方向の遺構群で、21条の小溝で構成されている。方向はN-70°-W～N-82°-Eで、検出長は3.95～13.80m、幅20～80cm、深さは5～32cm、小溝の間隔は0.20～0.80m程度である。遺物は出土していない。

II群（第1図） E340～350・S110グリッドで検出した。東西方向の遺構群で、4条の小溝で構成されている。方向はN-75°-W～N-85°-Eで、検出長は4.20～9.10m、幅20～80cm、深さは13～37cm、小溝の間隔は隣接している溝を除けば40cm程度である。遺物は出土していない。

III群（第1図） E340～350・S100～110グリッドで検出した。南北方向の遺構群で、2条の小溝で構成されている。方向はN-8°-W～N-20°-Eで、検出長は0.70～2.40m、幅40～50cm、深さは不明である。小溝の間隔は5.00m程度である。遺物は出土していない。

IV群（第1図） E330～340・S120グリッドで検出した。東西方向の遺構群で、5条の小溝で構成されている。方向はN-5°～35°-Wで、検出長は3.10～4.70m、幅30～40cmで、深さは不明である。小溝の間隔はIV-4からIV-5間が7.0mと離れている他は概ね200m程度である。遺物は出土していない。

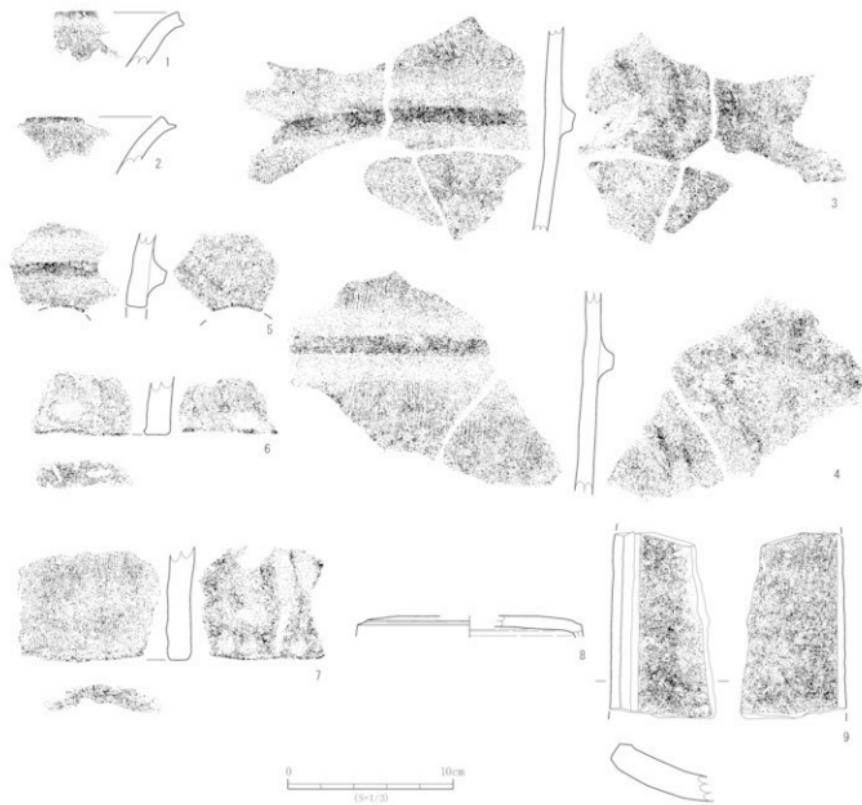


遺構	層段	土 色	土 性	備 考	遺構	層段	土 色	土 性	備 考
I-2	1	10YR3.2明褐色	粘土質シルト	マンガン鉄を多量含む。酸化鉄を微量含む。	I-13	1	10YR3.3明褐色	粘土質シルト	マンガン鉄を少量含む。
I-5	1	10YR4.4褐色	粘土質シルト	マンガン鉄を多量含む。	I-15	1	10YR3.3明褐色	粘土質シルト	粘土質・礫まりあり。
I-7	1	10YR3.4明褐色	粘土質シルト	マンガン鉄を多量含む。	I-16	1	10YR3.3明褐色	粘土質シルト	マンガニ・鉄・酸化鉄を微量含む。
	2	10YR3.3暗褐色	粘土質シルト	マンガン鉄を少量含む。	2	10YR3.3明褐色	粘土質シルト	粘土質・礫まりややあり。	
I-8	1	10YR3.2明褐色	粘土質シルト	マンガン鉄を多量含む。酸化鉄を微量含む。	I-17	1	10YR3.3明褐色	粘土質シルト	マンガン鉄を含む。
I-10	1	10YR4.4褐色	シルト	マンガン鉄を多量含む。	2	10YR3.3明褐色	粘土質シルト	粘土質・礫まりあり。	
I-11	1	10YR3.4明褐色	粘土質シルト	マンガン鉄を多量含む。	I-18	1	10YR3.3暗褐色	粘土質シルト	マンガニ・鉄を含む。
	2	10YR3.3暗褐色	粘土質シルト	マンガン鉄を少量含む。	2	10YR3.3明褐色	粘土質シルト	粘土質・礫まりあり。	
I-12	1	10YR3.3明褐色	粘土質シルト	マンガン鉄を少量含む。	I-19	1	10YR3.3明褐色	粘土質シルト	マンガニ・鉄を含む。

第4図 小溝状遺構群断面図

4) ピット（第1・2図）

85基のピット（P1～85）を検出した。調査区中央から中央北側に多く分布している。遺物は、P1～3・5・8・10・14・17から埴輪の小破片が出土している。



No.	登録番号	出土遺物	規 格	種 别	器 形	法 量(cm)	外面調整	内面調整	備 考	写真図版
1	S-1	陶器	-	埴輪	朝顔	-	タテハナメ・ヨコナギ	ナデ	口縁小片。	2-1
2	S-2	陶器	-	埴輪	朝顔	-	タテハナメ・ヨコナギ	ナデ	口縁小片。	2-2
3	S-3	陶器	-	埴輪	円筒	内径幅1.12T27、高3.09	タテハナメ・ヨコナギ	ナデ		2-3
4	S-4	陶器	-	埴輪	円筒	内径幅1.09T36、高3.08	タテハナメ・ヨコナギ	ナデ		2-4
5	S-5	陶器	-	埴輪	円筒	内径幅1.07T31、高3.11	タテハナメ・ヨコナギ	ナデ	透し円孔。	2-5
6	S-6	陶器	-	埴輪	円筒	-	タテハナメ	ロナデ・崩オサエ	基部。	2-7
7	S-7	陶器	-	埴輪	円筒	-	タテハナメ	ロナデ・崩オサエ	基部。	2-6

No.	登録番号	出土遺物	規 格	種 別	器 形	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備 考	写真図版
8	E-1	陶器	-	埴輪器	壺	-	ロクロナデ・回転ハラケズリ	ロクロナデ		2-8

No.	登録番号	出土遺物	規 格	種 別	器 形	正面幅×側面幅×厚(cm)	外面調整	内面調整	備 考	写真図版
9	G-1	陶器	-	瓦	平瓦	-×-×1.6	赤切り、勾口前、側面部ヘラ調整	横タキ、側面部ヘラ調整		2-9

第5図 王ノ塙古墳出土遺物

3. まとめ

王ノ塙古墳は仙台市南部の太白区大野田に所在する。大野田古墳群で、墳丘まで遺存していた古墳は春日社古墳と本古墳のみである。王ノ塙古墳の墳丘上には中・近世の石碑5基が置かれており、詳細は「仙台市板碑」「仙台市史」(仙台市史編さん委員 1998)を参照していただきたい。

(1) 遺構について

- 1) 王ノ塙古墳は、平成元年度に調査された周溝と合わせて計測すると、高さ約150m、周溝内縁径は約19.00m、外縁径は26.80~28.50mの円墳である。
- 2) 古墳周辺部からは古代以降の遺構と考えられる土坑7基、小溝状遺構群4群、ピット85基を検出した。また、小溝状遺構群は調査区全域に広がりを見せており、大半が王ノ塙古墳周溝半ば付近で途切れている。このことより小溝状遺構群が作られた時期には周溝は埋没しており、墳丘封土が周溝半ば付近まで崩落していた可能性が高い。

(2) 遺物について

- 1) 周溝検出面や周溝堆積土・底面から円筒埴輪・朝顔形埴輪破片が出土した。遺物から判断すると王ノ塙古墳は古墳時代中期後半~後期(5世紀後葉から6世紀前葉)の築造と考えられる。
- 2) 王ノ塙古墳関係以外の遺物として8世紀代の須恵器蓋や布目平瓦が出土している。

第1表 遺構一覧表

古墳

遺構番号	位置(グリッド)	周 溝	墳丘平面形・断面	時 期
上ノ塙古墳	E330~350・S100~120	周溝内縁径39m、周溝外縁径26.8~28.5m、周溝幅5m、深さ8.0m前後	円錐形 墳丘に5基の石碑あり	5世紀後~6世紀末

坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	面 様	平面形・断面形	時 期
SK1	E330~S100~110	N~E~W	長軸108×短軸60×深さ不明	楕円形、不明	
SK2	E340~S110	N~W~E	長軸60×短軸50×深さ不明	楕円形、不明	
SK3	E340~S110	N~W~E	長軸115×短軸60×深さ不明	楕円形、不明	
SK4	E330~S110	N~W~E	長軸60×短軸55×深さ不明	楕円形、不明	
SK5	E340~S110	~	柱穴60×深さ不明	柱穴形、不明	
SK6	E340~S110	N~S~W	長軸60×短軸70×深さ不明	楕円形、不明	
SK7	E340~S110	N~S~W	長軸130×短軸80×深さ不明	楕円形、不明	

小溝状遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	面 様	平面形・断面形	時 期
1-1	E330~350・S100~110	N~71°~W	長 9 (122.5) × 幅 0.35~0.5 × 深 0.05	やや傾曲、U字形	
1-2	E330~340・S100~110	N~88°~W	長 9 (87.7) × 幅 0.2~0.3 × 深 0.05	やや傾曲、U字形	
1-3	E330~340・S100~110	N~82°~E	長 9 (114.8) × 幅 0.25~1.05 × 深 0.05	わざかに傾曲、不明	
1-4	E340~S110	N~79°~W	長 9 (109.4) × 幅 0.2~0.3 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
1-5	E330~340・S110	N~86°~E~N~71°~W	長 9 (128.4) × 幅 0.2~0.4 × 深 0.05	やや傾曲、U字形	
1-6	E330~340・S110	N~85°~E	長 9 (101.4) × 幅 0.25~0.7 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
1-7	E330~340・S110	N~83°~E~N~73°~W	長 9 (122.5) × 幅 0.38~0.5 × 深 0.05	やや傾曲、U字形	
1-8	E330~340・S110	N~85°~E	長 9 (99.9) × 幅 0.3~0.5 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
1-9	E330~340・S110	N~85°~W	長 7.9 (79.0) × 幅 0.25~1.05 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
1-10	E330~340・S110	N~85°~W	長 9 (81.1) × 幅 0.35~0.5 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
1-11	E330~340・S110	N~85°~W	長 9 (7.0) × 幅 0.25~0.45 × 深 0.05	はざれ曲、U字形	
1-12	E330~340・S110	N~85°~W	長 9 (7.0) × 幅 0.2~0.6 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
1-13	E330~340・S110	N~85°~W	長 9 (7.7) × 幅 0.3~0.5 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
1-14	E330~340・S110~120	N~86°~E	長 5.6 (5.5) × 幅 0.25~0.65 × 深 0.05	はざれ曲、U字形	
1-15	E330~340・S120	N~89°~E	長 7.7 (7.0) × 幅 0.3~0.5 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
1-16	E330~340・S120	N~88°~E	長 5 (6.1) × 幅 0.25~0.45 × 深 0.05	はざれ曲、U字形	
1-17	E330~340・S120	N~88°~E	長 5 (6.8) × 幅 0.25~0.45 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
1-18	E330~340・S120	N~89°~E	長 5 (5.8) × 幅 0.3~0.5 × 深 0.05	はざれ曲、U字形	
1-19	E330~340・S120	N~85°~E~N~73°~W	長 9 (9.9) × 幅 0.4~0.8 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
1-20	E330~340・S120	N~83°~E	長 9 (7.2) × 幅 0.3~0.65 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
1-21	E330~340・S120	N~87°~W	長 9 (9.8) × 幅 0.25~0.5 × 深 0.05~0.32	やや傾曲、U字形	
B-1	E340~350・S110	N~85°~E	長 9 (9.1) × 幅 0.3~0.5 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
B-2	E340~350・S110	N~85°~E	長 9 (9.1) × 幅 0.25~0.8 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
B-3	E350~S110	N~77°~W	長 9 (4.2) × 幅 0.4~0.45 × 深 0.05~0.25	わざかに傾曲、U字形	
B-4	E350~S110	N~75°~W	長 9 (2.4) × 幅 0.3~0.4 × 深 0.05~0.27	わざかに傾曲、U字形	
B-5	E340~350・S100~110	N~8°~W	長 9 (5.7) × 幅 0.3~0.6 × 深 0.05	直線、不明	
B-6	E350~S100~110	N~20°~E	長 9 (2.4) × 幅 0.4~0.8 × 深 0.05	はざれ曲、U字形	
B-7	E330~S120	N~31°~W	長 9 (3.1) × 幅 0.3~0.5 × 深 0.05	はざれ曲、U字形	
B-8	E330~S120	N~31°~W	長 9 (3.8) × 幅 0.25~0.3 × 深 0.05	はざれ曲、U字形	
B-9	E330~S120	N~35°~W	長 9 (4.7) × 幅 0.3~0.4 × 深 0.05	はざれ曲、U字形	
B-10	E330~340~S120	N~31°~W	長 9 (5.35) × 幅 0.3~0.5 × 深 0.05	わざかに傾曲、U字形	
B-11	E340~S120	N~5°~W	長 9 (4.0) × 幅 0.4~0.6 × 深 0.05	はざれ曲、U字形	

王ノ壇古墳写真図版



V層遺構横棲出状況（西より）



北東区周溝完掘（北西より）

写真図版 1 王ノ塙古墳（1）



周溝断面A-A'（東より）



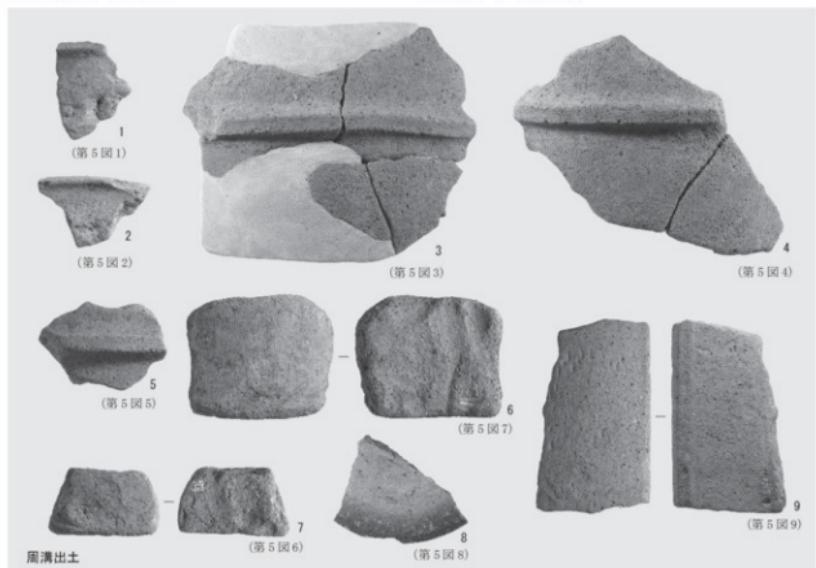
周溝断面B-B'（西より）



周溝断面C-C'（北西より）



周溝断面D-D'（南東より）



写真団版2 王ノ塙古墳（2）及び出土遺物

第7節 春日社古墳

1. 調査要項

- (1) 遺跡名：春日社古墳（宮城県遺跡登録番号01320）
- (2) 所在地：仙台市太白区大野田字宮
- (3) 調査面積：約2,400m²（大野田古墳群12D区）のうち、約1,735m²（周溝含む古墳域）
- (4) 調査主体：仙台市教育委員会
- (5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員：荒井 格・米川暢敬・佐々木 匠（派遣調査員：小林義典・蝦名 純／玉川文化財研究所）
- (7) 調査期間
 - （野外調査）・平成19年度：平成19年5月10日～平成20年3月11日
 - （整理作業）平成19年度末から20年度にかけて基礎整理を行い、以下の期間で一括最終整理を実施した。
 - ・平成22年6月18日～平成23年3月31日

2. 調査概要

春日社古墳は円墳として周知されていたが、「大野田ちびっこ広場」として改変を受けていたため、その詳細は不明であった。これまで昭和51年度と平成6年度の2度にわたりて調査が行われている。市道拡幅工事に伴う昭和51年度の調査では、墳丘北側の周溝部で馬形埴輪をはじめとする形象埴輪や円筒埴輪の破片が出土した（仙台市教育委員会 1987）。区画整理事業に伴う確認調査として行われた平成6年度の調査では、墳丘中央部に設定されたトレンチから長軸約2.00m×短軸約1.00mの範囲で板石及び円礫が出土し、第1主体部が確認された（仙台市教育委員会 2000）。

今回の調査は、区画整理事業に伴う大野田古墳群12D区の本発掘調査として行われた。その結果、第1主体部を再検出するとともに、革盾・鉄矛・鉄鏃が副葬された第2主体部を新たに発見した。

今回の報告では、春日社古墳及び古墳に伴う出土遺物を報告する。古墳以外の遺構・遺物は次刊以降掲載予定である。なお、墳丘に関しては昭和51年度・平成21年度及び22年度の調査成果が一部反映されている。

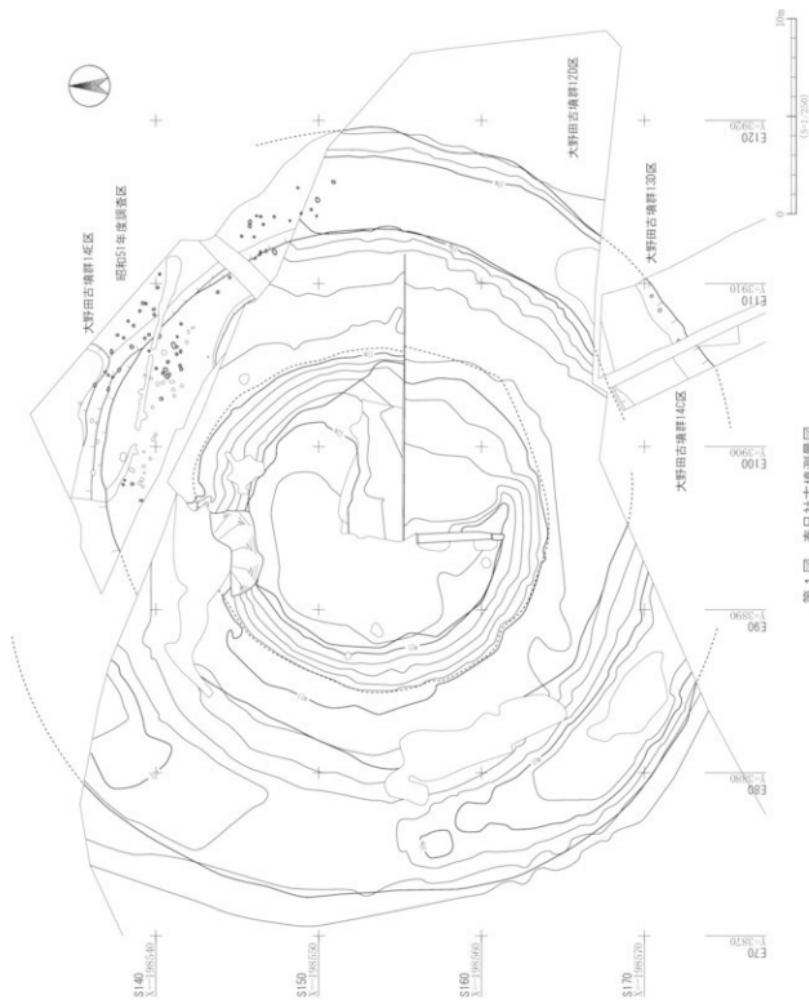
1) 墳形・規模（第1図、図版1）

墳麓にテラスを有する円墳であり、周溝は小溝状造構と重複しており、本造構が古い。今回の調査で明らかとなった規模は以下のとおりである。なお、計測幅は平均値をとっている。周溝外線上端径46.63m、周溝内線上端径31.98m、周溝上端幅6.80m、周溝下端幅3.94m、墳丘裾部径21.48m、テラス幅4.83m（西平均5.63m、東平均4.03m）、墳頂平坦面径16.60m、墳丘現存高1.55m。

2) 墳丘の構築過程（第3図）

東西-南北のメインベルトで墳丘の盛土過程を観察すると、墳丘の盛土は東西メインベルト（以下、東西ベルト）1～21層、南北メインベルト（以下、南北ベルト）1～18層である。このうち、墳丘基底面は、東西21層上面（南北18層）である。これは、21層の下層にブロックをほとんど含まない基本層V層相当の土が水平堆積している状況が墳丘盛土とは明らかに異なっていることを根拠としている。21層上面でのレベル差は、東西-南北間でわずかに16cmであり、春日社古墳は平坦地に構築されたことが考えられる。

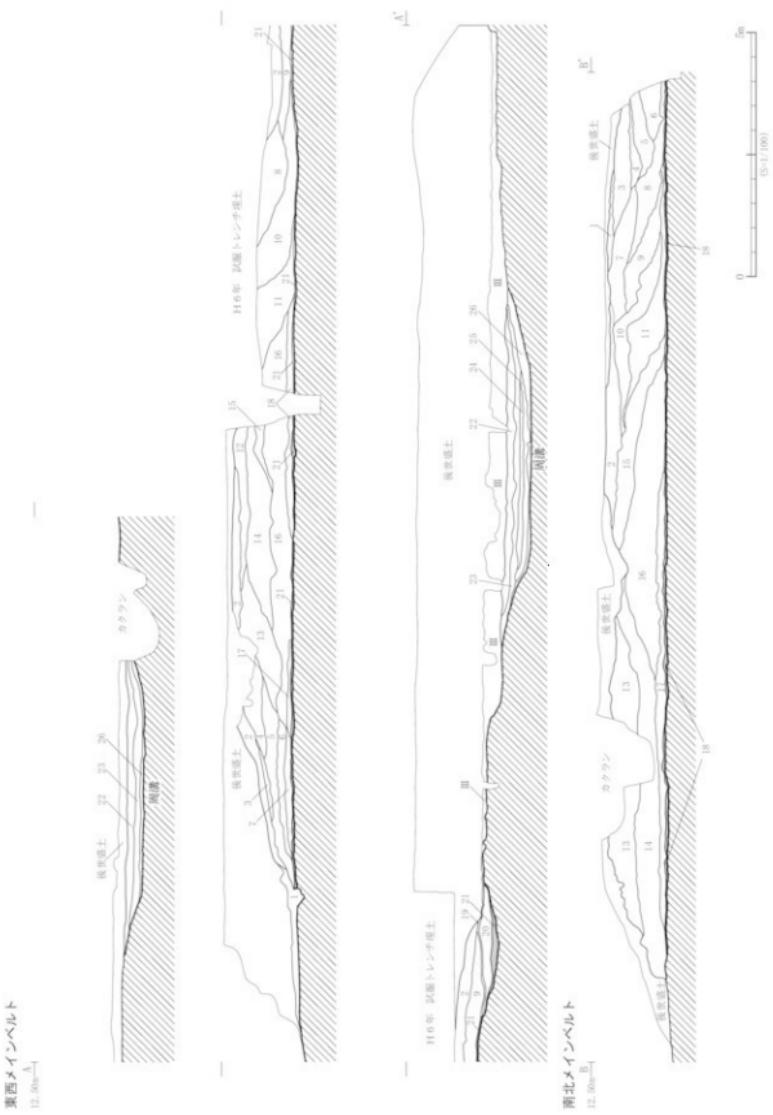
盛土の過程は、東西・南北ベルト16層の状況から、中央部に東西長約9.00m、南北長7.00～9.00m、基底面からの高さ0.90～1.20mの円丘が盛土される。これを核として東西ベルト8～11層や南北ベルト13～14層等に盛土範囲を拡大する。ただし、盛土は水平に積まれた東西ベルト2～7層や円丘の傾斜に沿って盛られた南北ベルト7～11層



第1図 春日社古墳測量図



第2圖 春日社古墳遺構配置圖



第3圖 春日社古墳土層斷面圖

東西メインベルト土層記

層位	土 色	土 性	備 考	層位	土 色	土 性	備 考
最高土 1	10YR3-6黄褐色	砂質シルト	φ5~15mm粒土質ブロックが多く含む。	14	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1・3・5の水準な互層で構成される植土。層厚約13~16cm程度。全土としては5~30cm、50cmのブロック構成)。
最高土 2	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(1・2の水準な互層で構成される植土。φ1~3cmのブロック構成)。	15	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(10YR3-6黄褐色の上に約5~20cmの水準な互層で構成される植土。層厚は(1)が約2~8cm、(2)が1~5cm)。
最高土 3	10YR3-3褐褐色	粘土質シルト	(1・2の互層で構成される植土。層厚は(1)が5~10cm、(2)が5~10cm)。	16	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。層厚は各々3~5cm)。
最高土 4	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1・2の水準な互層で構成される植土。層厚は(1)が5~10cm、(2)が5~10cm)。	17	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1・3・5の水準な互層で構成される植土。層厚は(1)が5~20cm、(2)が5~10cmのブロックの合計)。
最高土 5	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(1・2の互層で構成される植土。土は層厚5~10cmで構成される)。	18	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。①は層厚5~10cm、②は層厚2~5cm)。
最高土 6	10YR4-4褐色	粘土質シルト	(1・2の互層で構成される植土。層厚はともに5~10cm)。				
最高土 7	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1・2の互層で構成される植土。(3は層厚2~20cmで構成される)。				
最高土 8	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(10YR5-6黄褐色の上に約5~20cmの水準な互層で構成される)。				
最高土 9	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。土は層厚5~10cmで構成される)。				
最高土 10	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。土は層厚5~10cmで構成される)。				
最高土 11	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。土は層厚5~10cmで構成される)。				
最高土 12	10YR4-4褐色	粘土質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。土は層厚5~10cmで構成される)。				
最高土 13	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。(3は層厚2~5cmで構成される)。				
最高土 14	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。土は層厚5~10cmで構成される)。				
最高土 15	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。土は層厚5~10cmで構成される)。				
最高土 16	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。土は層厚5~10cmで構成される)。				
最高土 17	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。土は層厚5~10cmで構成される)。				
最高土 18	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。土は層厚5~10cmで構成される)。				

南北メインベルト土層記

層位	土 色	土 性	備 考	層位	土 色	土 性	備 考
最高土 1	10YR5-6黄褐色	砂質シルト		11	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。①は層厚5~10cm、②は層厚2~5cm)。
最高土 2	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト		12	10YR4-4褐色	粘土質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。①は層厚5~10cm、②は層厚2~5cm)。
最高土 3	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。③は層厚10~20cm、②は層厚2~5cm)。	13	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。①は層厚5~10cmで構成される)。
最高土 4	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。③は層厚5~10cmで構成される)。	14	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。①は層厚5~10cmで構成される)。
最高土 5	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。③は層厚5~10cmで構成される)。	15	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。①は層厚5~10cmで構成される)。
最高土 6	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。③は層厚5~10cmで構成される)。	16	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。①は層厚5~10cmで構成される)。
最高土 7	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。③は層厚5~10cmで構成される)。	17	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。①は層厚5~10cmで構成される)。
最高土 8	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。③は層厚5~10cmで構成される)。	18	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。①は層厚5~10cmで構成される)。
最高土 9	10YR5-6黄褐色	砂質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。③は層厚5~10cmで構成される)。				
最高土 10	10YR5-6黄褐色	粘土質シルト	(1~3の水準な互層で構成される植土。③は層厚5~10cmで構成される)。				

等、一樣ではない。各盛土は互層状に積まれている。

盛土と主体部の先後関係を主体部直上の北サバベルト（第6図）でみると、9層を切り込んで主体部が構築されている。この9層は第2主体部南北ベルト30層（第6図）と同一の層であり、墳丘盛土である南北メインベルト13層に対応する。また、第2主体部は北サバベルト4・5層によって被覆されており、その高さはおよそ海拔1200mで、東西ベルト13・14層上面の平坦面とほぼ一致している。このことから墳丘が東西13・14層（南北13・15層）まで盛土されたのちに、これを削りこんで第2主体部が構築され、再び盛土が行われたと考えられる。最終的な盛土は東西ベルト2層等で観察でき、墳頂から墳裾へかけて広い範囲で土が盛られている。

3) 墳丘テラス部（第2・3図、図版1）

墳頂と周溝の間に幅3.40~6.40mの平坦面が検出された。墳丘基底面とほぼ同じ高さであること、墳頂の上に墳丘崩落土（東西ベルト1層）が堆積していたこと等を考慮すると、この平坦面は古墳築造時にすでに存在していたと考えられ、テラスと判断された。なお、上述のように幅は一定せず、東側テラスが西側に比べて狭い傾向にある。

4) 周溝（第1・3図、図版1）

基本層V層から掘り込まれており、古墳南北の調査区外に延びる部分以外の全域で検出された。昭和51年度及び平成20年度・21年度調査で確認された部分と合わせ、ほぼ全体が明らかになった。規模は墳丘西側では上端幅6.85~9.40m、下端幅3.85~3.90m、東側では上端幅7.45m、下端幅3.80mである。堆積土は5層に分層される。なお、周溝堆積土の直上に基本層Ⅲ層が被覆しており、層中の灰白色火山灰の自然科学分析を行った。

5) 舟石

平成6年度の調査で、墳丘北東部の墳頂から斜面上部にかけて砾群を検出しており、仙台市文化財調査報告書第243集では舟石と報告されている。しかし、今回の調査で砾群の下層から埴輪片の他に近世～現代の陶器類、瓦、寛永通宝等が混在して出土した。このことから、砾群はごく新しい時期に集積されたもので、舟石ではないことが確認され、舟石の無い古墳であることが判明した。

6) 炭化物層（第4図）

墳丘基底面の直上で炭化物層が検出された。厚さ約3～5cmの薄層で基底面全体に堆積しており、東西及び南北の断面でも観察された（東西21層、南北18層）。そこで、メインベルトを軸に墳丘を4分割して各地点でサンプルを採取し、自然科学分析を行った。詳細は次項に譲るが、結果として竹筒類を主体にイネ科植生が混じった構成であることが確認された。炭化物層の下層の分析結果でも同様の植生を示す状況が確認されており、炭化物層を構成する物質が他から運ばれてきた可能性は低いと考えられる。周辺まで炭化物層が広がらない状況を考慮すれば、整地あるいは祭祀といった何らかの理由で現地に繁茂していた植物を焼き払った可能性が考えられるが、詳細は不明である。

7) 第1主体部（第5図、図版2・3）

第1主体部は、平成6年度の確認調査で発見されたものである。トレーン調査によって板石と円礫が確認され、石棺の存在が想定されていた。今回の調査で第1主体部を再調査した結果、明確な石棺は検出されなかったものの、底面に東西約3.40m南北2.30mの楕円形の範囲で、板石及び円礫、白色粘土を確認した。このうち、板石及び円礫は、およそ3.60m×2.50mの範囲で不整な長方形に広がっており、白色粘土は上述の楕円形の範囲に散在していた。この状況から、棺材の目張り粘土が残っていた可能性が考えられる。円礫については砾床の素材の可能性もある。

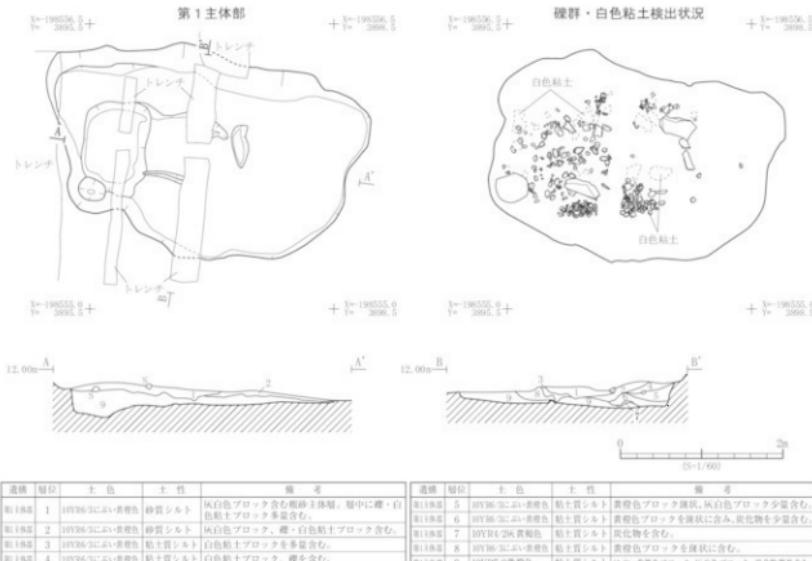
8) 第2主体部（第6図、図版2～4）

第2主体部は、墳頂中央から北東に寄った位置で新たに発見された。埋葬施設は2段の掘り込みをもつ墓壙で、東西3.16m、南北2.44m、深さ0.74mの隔丸長方形の土坑を掘り、底面のはば中央に、東西2.22m、南北0.72m、深さ0.40mの豊坑が掘られている。この2段目の掘り込みが棺埋納部と推定されるが、石材や白色粘土の類は検出されなかった。底面は平坦で、上記の状況も併せると木棺直葬であった可能性が考えられる。1段目の主軸方向はN-30°W、2段目はN-47°Wである。

第2主体部内部の埋土は、色調・含有物の多寡等で29層に分層された。これを整理すると、①木棺固定のための置き土（29層）、②棺材が土壤化した土（28層）、③墓壙埋め戻し土（16～27層）、④墳丘盛土が墓壙内に陥没した土（1～15層）に大別できる。以下、堆積した順に説明すると、29層は底面直上に部分的に存在する。層厚は4cm内外で、墓壙の壁面下部に沿う形で部分的に存在することから、木棺を埋納する際の棺材固定のために置かれたものと考えられる。28層は黒褐色に炭化した層である。他の堆積土が暗褐色・黄褐色を主体とした色調であること、最下層の堆積土であることを考慮すると、木棺が土壤化した層と考えられる。16～27層は暗褐色・黄褐色を主体とした土層である。各層の層理面が波立ち、かつ墓壙の壁面で急に立ち上ること、1段目の掘り込みに堆積してい



第4図 春日社古墳サンプル採取地点



第5図 春日社古墳第1主体部平面図・断面図・礫群及び白色粘土検出状況

る26・27層が墓壇内にも確認されたことから、本来墓壇上部の埋土が木棺の陥没によって、墓壇内に落ち込んだものと考えられる。1~15層は埋葬施設の最上層に堆積した土である。埴丘盛土を削ってプランを検出したことを考慮すれば、後世の搅乱の土ではなく、木棺の陥没に伴って盛土が落ち込んだものと考えられる。

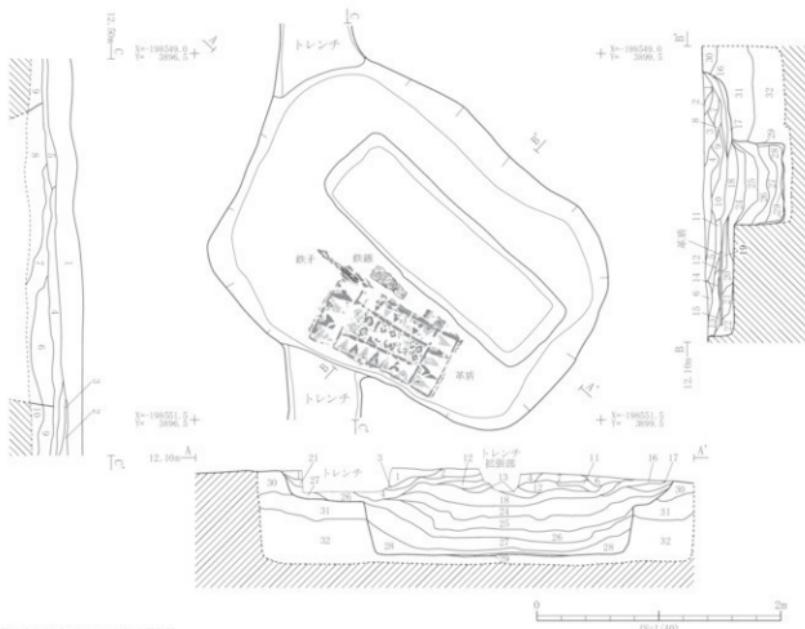
9) 第2主体部副葬品の出土状況及び被葬者の頭位方向（第8図）

テラス状になっている1段目の掘り込み中の19~22層の上面から、革盾・鉄矛・鉄鎌がまとまって出土した。革盾は墓壇の長軸に平行する方向で置かれており、表面を上に、上端を南東に向かう状態であった。鉄矛は革盾の上に置かれており、矛先を北西に向けていた。柄は袋部にわずかに残存する部分以外は確認できなかったが、柄に施されていたと考えられる漆膜が盾の表面に直線的に残存していた。鉄鎌は、30本を一纏めにして革盾の側縁に接する形で置かれていた。尖端部は北西を向いており、茎部付近には銹化によって遺存した矢柄の一部が確認された。その延長線上には、長方形状の黒漆膜・赤色顔料の痕跡が確認され、位置・形状から漆が塗布されたことで遺存した矢羽根の痕跡と思われる。

被葬者の頭位方向は墓壇の長軸方向である北西~南東のいずれかと考えられるが、これらの副葬品の配置状況を考慮すれば、革盾の正位である南東側であったと考えられる。

10) 第2主体部出土遺物（第7~10図、図版4・5）

第9図は革盾である。芯地の革は既に腐食していたが、地の黒漆に塗布された鮮やかな赤と赤紫に近い赤の2種類の赤色顔料が盾の原型を留める形で遺存している。表面には6本、腐食による横桟の落ち込みが確認された。形状は上端と下端を平行に配した台形で、規模は上端幅60cm、下端幅72cm、高さ120cmである。盾面は綾杉文帯でⅡ字形に区画し、内区を菱形文、外区を鋸歯文で飾っている。いずれも刺し縫いが施されているが、鋸歯文や菱形文の一部は彩色のみで描かれている。



第2 主体部(A-A'-B-B') 土層記述

層位	土色	性質	備考
表土層	1 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色土、表面微細なブロックを多量に含む。
表土層	2 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色小ブロックを含む。黃褐色小ブロック
表土層	3 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色小ブロックを含む。黃褐色、灰白色小ブロック
表土層	4 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色小ブロックを含む。1~3層に比してや かくい色調を示す。
表土層	5 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色小ブロックを少量含む。
表土層	6 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色小ブロックをわずかに含む。ブロック にはやや大きさみ。
表土層	7 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色のブロックを含む。灰白色小ブロック、 灰白色物に似る。
表土層	8 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色のブロックを含む。灰白色小ブロック を多く含む。
表土層	9 10YR5-4C-5 黄褐色	粘土質シルト	灰白色小ブロックを少額。炭化物微量含む。
表土層	10 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色小ブロックを含む。浅黄褐色小 ブロックを含む。
表土層	11 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色小ブロックを多く含む。
表土層	12 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色小ブロックを多く含む。灰白色中 ブロック微量含む。炭化物微量含む。
表土層	13 10YR5-4C-5 黄褐色	粘土質シルト	灰白色小ブロックをわずかに含む。
表土層	14 10YR5-4C-5 黄褐色	粘土質シルト	灰白色小ブロックを含む。浅黄褐色小 ブロックを多く含む。
表土層	15 10YR5-4C-5 黄褐色	粘土質シルト	灰白色小ブロックを含む。10cmよりやや色調濃化。
表土層	16 10YR5-4C-5 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色小ブロックを多く含む。
表土層	17 10YR5-4C-5 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色小ブロックを少量含む。3層に比して やかくい色調を示す。

層位	土色	性質	備考
表土層	18 10YR5-4C-5 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色のブロックを少額含み。灰白色小ブ ロックわずかに含む。
表土層	19 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色の小ブロックを含む。
表土層	20 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色の小ブロックを含む。灰白色小ブロック を少額含む。
表土層	21 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色のブロックを少量含み。灰白色小ブ ロック微量含む。
表土層	22 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色小ブロックを含む。
表土層	23 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色の小ブロックを少額含む。
表土層	24 10YR4-6 黄褐色	粘土質シルト	黄褐色ブロックを薄灰に含み。灰黃褐色ブロ ックに、灰白色小ブロックを含む。
表土層	25 10YR3-4 黄褐色	粘土質シルト	黄褐色ブロックを含む。
表土層	26 10YR3-4 黄褐色	粘土質シルト	黄褐色ブロックを薄灰に含み。灰黃褐色小ブ ロック微量含む。
表土層	27 10YR3-4 黄褐色	粘土質シルト	褐色ブロックを含む。灰黃褐色小ブロ ックに、灰白色小ブロックを含む。
表土層	28 10YR2-4 黄褐色	粘土質シルト	褐色小ブロックを少額含む。緑まりあり。
表土層	29 10YR2-4 黄褐色	粘土質シルト	褐色小ブロックを少額含む。
埋土層	30 10YR5-6 黄褐色	砂質シルト	①・②の本平と互層で成る。①は層厚1~2 cmで②は層厚2~3cmで、②は層厚2~3cmでブ ロック成る。東西13mに亘る。
埋土層	31 10YR2-3 黄褐色	砂質シルト	①・②の互層で成る積状。層厚は①約5 cm、②約3cm。東西13mに亘る。
埋土層	32 10YR5-6 黄褐色	砂質シルト	①・②の互層で成る。①は層厚1~2 cmで②は約5~10cmの褐色ブロックを含み、②は層 厚1~2cmで約5~10cmの黄褐色ブロックを含む。 全體として流紋を呈し、本平を意識して積まれ ている。東西13mに亘る。

第2 主体部上部(C-C') 北サベルト土層記述

層位	土色	性質	備考
埋土層	1 10YR5-5C-5 黄褐色	粘土質シルト	南北2層に対応。
埋土層	2 10YR5-4C-5 黄褐色	粘土質シルト	南北2層に対応。
埋土層	3 10YR5-6 黄褐色	砂質シルト	南北2層に対応。底部に充満する約30mmの白色 小ブロックが見ら。南北2層に對応。
埋土層	4 10YR3-3C-5 黄褐色	粘土質シルト	層上面、2層底部充満する約30~50mmの白 色粘土ブロックがある。南北2層に對応。
埋土層	5 10YR5-4C-5 黄褐色	粘土質シルト	南北2層に対応。

層位	土色	性質	備考
埋土層	6 10YR5-6 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色の約3~5mmブロック10%含み、灰白色 の約3~5mmブロック3%含む。
埋土層	7 10YR5-4C-5 黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色の約3~5mmブロック1~3%含む。
埋土層	8 10YR4-6 黄褐色	粘土質シルト	灰褐色を薄灰に含む。灰黃褐色ブロックに、灰 白色小ブロックを含む。
埋土層	9 10YR2-3 黄褐色	砂質シルト	①・②の互層で構成される。①は層厚1~2 cmで②は約5~10cmの褐色ブロックを含み、②は層 厚1~2cmで約5~10cmの黄褐色ブロックを含む。 全體として流紋を呈し、本平を意識して積まれ ている。東西13mに亘る。
埋土層	10 10YR3-4 黄褐色	砂質シルト	①・②の互層で構成される。①は層厚1~2 cmで②は約5~10cmの褐色ブロックを含み、②は層 厚1~2cmで約5~10cmの黄褐色ブロックを含む。 全體として流紋を呈し、本平を意識して積まれ ている。東西13mに亘る。

第6圖 春日社古墳第2主体部平面図・断面図・遺物出土状況

このうち、綾杉文は撚りのかかっていない織維質の糸で刺し縫いが施されている。3条を一縫にしたものと1単位としており、「N」もしくは「逆N」字を連ねた帶で盾面を区画している。残存幅は最大29cmで、側縁部は若干欠損している。各綾杉文は一辺を通じて同じ方向で刺し縫われており、まず外区を縦→横の順で縫取ったのち、盾面を横→縦の順でII字状に区画し、最後に内区を横方向の直線で3分割するという施文順序が観察される。革盾を正位で見たときの綾杉文の形状は、外区側縁が「逆N」「N」、端縁が「N」「逆N」で互い違いになり、II字状の区画では縦が「N」「N」、横が「逆N」「逆N」と対になっている。赤紫に近い赤色顔料が部分的に残存しており、また黒色部分の隙間にも確認できることから、綾杉文には本来は赤色顔料が塗布されていたと考えられる。

菱形文は、II字状に区画された内区の中に充填している。横方向の刺し縫いによって表現されており、2mm間隔で刺し縫われた直線が菱形を形作っている。三分割された中央部と下部の区画内は、中央に1箇と四方を取り囲む4箇の計5箇の菱形で構成されている。このうち四方の菱形は内・外の二重構造になっており、外郭の菱形にのみ2mm間隔の刺し縫いの痕跡を確認できる。これは外郭を刺し縫う過程で内郭も同時に形成されているためで、輪郭のみで成立した内郭には彩色が施されている。これは中央部分も同様で、四方の菱形によって表出した菱形に彩色が施されている。彩色は2種類の赤色顔料であるが、なかでも中央の菱形は鮮やかな赤色顔料が塗布されている。なお、三分割のうちの上部は、前述の菱形文の構図を縦方向に延長したもので、外側に6箇、中央に2箇の計8箇の菱形文で構成されている。刺し縫いの範囲・間隔も同様で、中央部の菱形は2箇とも鮮やかな赤色顔料が施されている。

鋸歯文は、II字状の区画の外に配されている。このうち上下段の鋸歯文は、頂点を上にむけて5箇ずつ配され、左右両脇の鋸歯文は頂点を内に向けて7箇ずつ配されている。三角形の底辺に接して小三角窓を持ち、その周囲を底辺に対して垂直方向の刺し縫いで充填している。2~25mm間隔で縦方向に刺し縫われた直線によって三角形が形作られ、底辺に刺し縫いの施されない三角窓を持っている。鋸歯文・小三角窓には鮮やかな赤と赤紫に近い赤の2種類の赤色顔料が交互に施されている。

他に痕跡等の観察から以下の4点が確認できた。

(1) 横桟の落ち込み 横方向に平行して入っている

6本の直線状の窪みで、この中に鋸歯文や綾杉文が落ち込んでいることから、盾の裏面に貼られた横桟が腐食して落ちたものと考えられる。横桟1本の幅と横桟間の距離を上から順にまとめると、1.3cm、21.5cm、1.3cm、23.5cm、1.3cm、24.5cm、1.3cm、23.0cm、1.3~1.7cm、20.0cm、1.3cmとなる。横桟の幅はほぼ1.3cmで、間隔は中央から端にむかって狭まっていくことが分かる。なお、横桟と綾杉文帯は、3段目では重なってい



内区

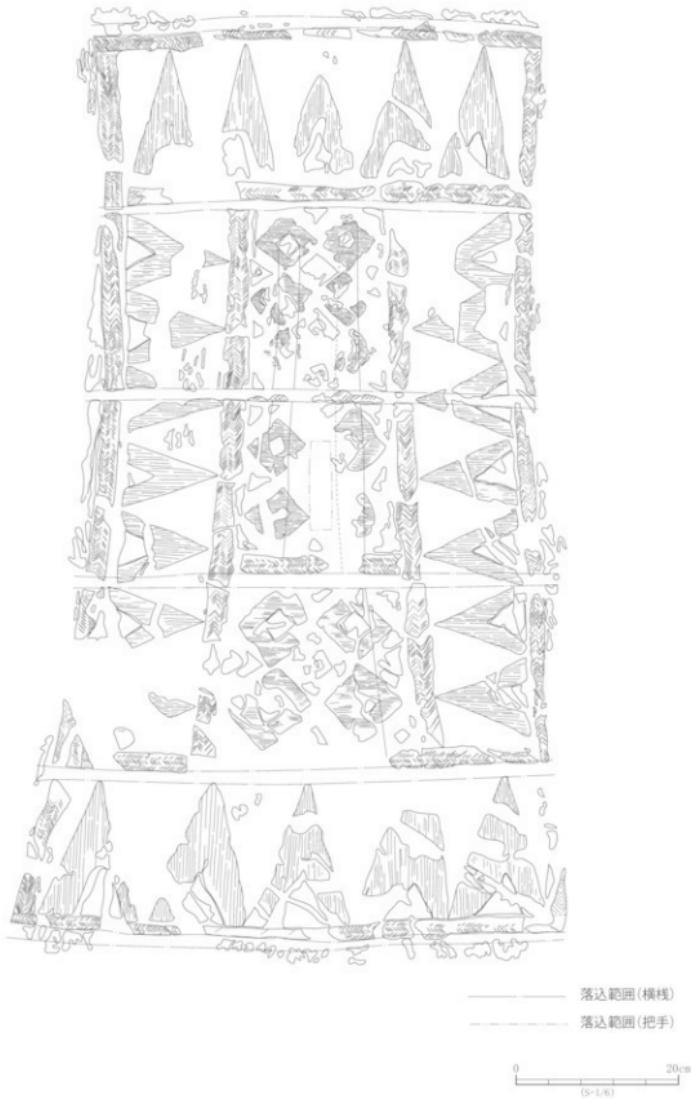
第7図 革盾復元図



写真1 横桟部分が落ち込んでいる状況



第8図 春日社古墳第2主体部遺物出土状況図



No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	記述	法量(m)	漆種	画面形狀	前面文	裏面文	絞糸文	備考	写真版
1	X-1	基盤上段目	-	箭	箭頭	上端660×下高幅72×高さ120	無	平	小三脚透打	横江刺繡	3条1組	赤は赤色顔料、3-1	

第9図 春日社古墳第2主体部出土遺物（1）

るものの、他は綾杉文帯の上部あるいは下部に位置しており、必ずしも一致していない。

- (2) 綾杉文帯の隙間 主に鋸歯文の底辺と綾杉文帯の間、Ⅱ字区画の内側等で確認されている3~5mmの隙間で、本来は黒漆が塗布されていたと考えられるが、刺繡あるいは赤色顔料の塗布が無い部分であったために、現状では単なる空間となっている。前述のように綾杉文が赤彩されていた状況を考えると、鋸歯文あるいは菱形文との配色の混同を防ぐための処置である可能性が考えられる。
- (3) 内区中央の長方形形状の窪み 横桟の3段目と4段目の間にある長さ16.5cm、幅6cm、深さ1cm程度の落ち込みで、位置から把手部分が落ち込んだ痕跡の可能性が考えられる。
- (4) Ⅱ字状の中に見える4条の筋線 四方の菱形の内郭と中央の菱形の外郭を通る4条の筋で、Ⅱ字状の区画内で完結し、上下に延びていない。盾の構造に関係する痕跡と推察されるが、詳細は不明である。

第10図1は鉄矛である。全長39.1cm（袋部に残存した柄の木質部を加えると42.7cm）で、刃部は断面菱形の鎬作りである。刃部長22.5cm刃部最大幅20cmの細鋒形で、袋部との境に間を持つ。間は反りがなく自然に袋部に接続し、鎬はここで収束する。袋部は直径2.6cmで、鍛造による角がついており、一見八角形を呈しているが、鍛造による角の傾斜が穢く、また袋端部の頂点と対応関係にないことから、円筒形の袋部と考えられる。袋端部は切り込みが入った山形抉りとなっている。この抉りの頂点は鎬の中心線と対応せず、やや右側に片寄った作りとなっている。鍛造の合わせ目及び目釘孔は確認できなかった。なお、X線写真から、関部の近くまで木質が入っている状況を確認し、樹種同定を行った。第10図2は長頭鎌である。鎌身間は全て腸抉長三角形で、頭部長はおよそ14cm前後である。関部は台形闊で、茎部には一部樹皮巻きが残存している。茎部の延長線上には長方形の黒漆・赤色顔料の痕跡が確認され、矢羽根の痕跡と推定される。矢柄1点の樹種同定では、タケ亜科という結果が出ている。鉄鎌の先端から漆膜の先端までの長さは、最大で75cm前後である。

11) そのほかの出土遺物（第11・12図、図版6）

墳丘及び周溝から埴輪片が平箱7箱分出土している。後世の改変のためか、みな小破片であったが、比較的の残存状況が良好な25点を図示した。第11図1は、突起状の形象埴輪片である。全面にナデが施されており、根元で剥落している。2~8は朝顔形埴輪の頭部付近の破片である。9~17は円筒埴輪片である。このうち第11図9~12は口縁部破片である。第11図13~第12図1は凸縁部破片である。第11図14は透し孔が一部遺存している。一部裏面の凸縁と対応する位置に横方向のナデが入っているものがある。凸縁は概ね端正なM字形で、大きく下方に垂れ下がるものはない。第12図2~8は基部破片である。

3. 自然科学分析

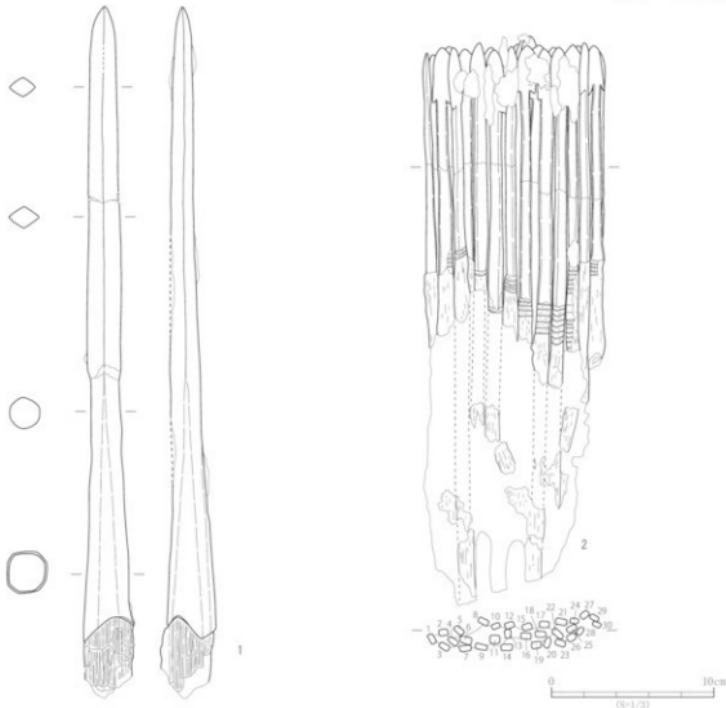
株式会社古環境研究所

(1) 春日社古墳のテフラ（火山灰）分析

1) はじめに

東北地方中部に位置する仙台市とその周辺には、藏王、安達、鳴子、鬼首、肘折など東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、御岳、三瓶、阿蘇、姶良など遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、テフラの可能性がある土層が検出された仙台市春日社古墳においても、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、火山ガラス比分析、テフラ組成分析、火山ガラスと鉱物の屈折率測定を実施して、含まれるテフラ粒子の起源について調べることになった。分析対象試料は、現地において915年に十和田火山から噴出した十和田aテフラ（To-a、大池 1972、町田 ほか1981、町田・新井 1992・2003）の可能性が考えられた試料1と、6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ヶ岳伊香保テフラ（Hr-FP、新井 1962、坂口 1986、早田 1989、



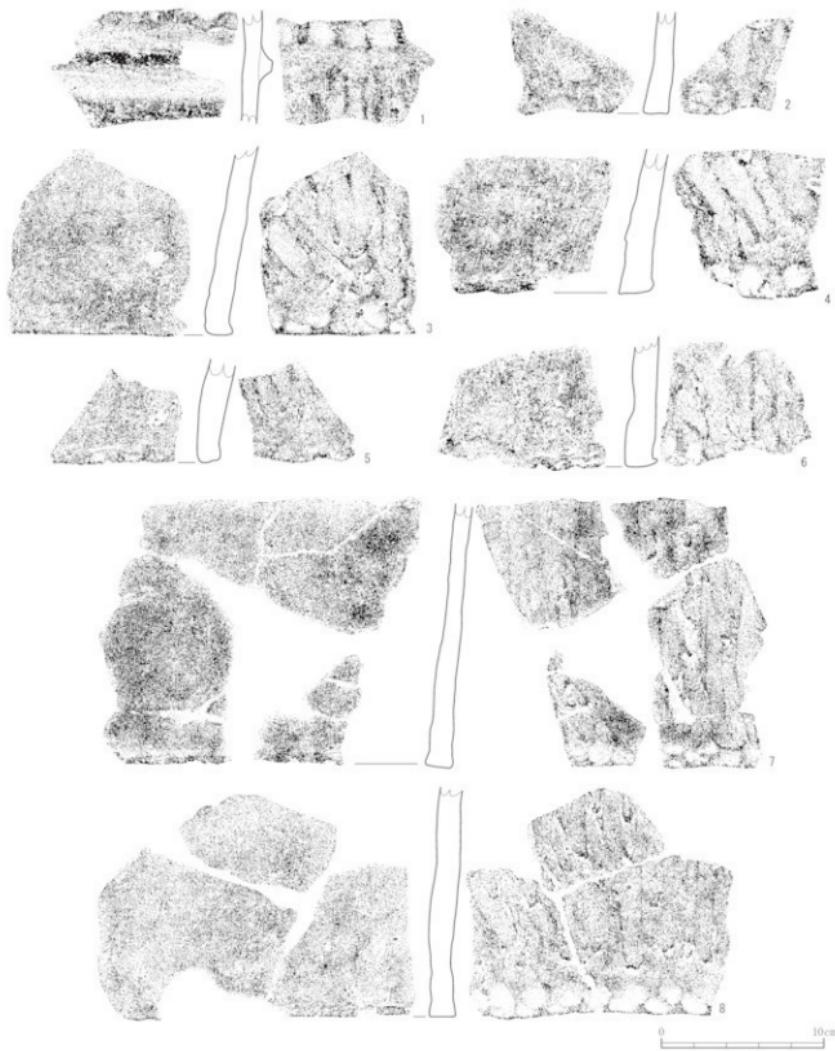
No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	刃部形状	鋒部	断面部	断面形状	備考	写真回数
1	N-1	基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規42.7×1.5×3.3×1.4~2.6	扁造り	細鋒	有刃	円柱形	山形鉗	5-2
No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	刃部形状	鋒部	断面部	断面形状	備考	写真回数
2-1		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規18.2×0.6×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-2		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規17.8×0.6×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-3		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規17.8×0.6×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-4		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規17.8×0.6×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-5		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規16.9×0.5×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-6		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規15.0×0.6×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-7		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規15.0×0.6×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-8		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規15.7×0.7×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-9		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規15.7×0.7×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-10		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規16.2×0.7×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-11		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規16.2×0.7×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-12		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規18.2×0.6×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-13		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規18.2×0.6×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-14		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規18.2×0.6×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-15		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規18.3×0.7×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-16		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規18.3×0.7×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-17		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規20.7×0.6×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-18		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規20.7×0.7×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-19		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規20.7×0.6×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-20		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規20.7×0.6×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-21		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規20.9×0.6×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-22		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規20.9×0.6×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-23		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規20.9×0.6×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-24		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規18.9×0.6×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-25		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規18.9×0.6×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				
2-26		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規18.9×0.6×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-27		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規22.2×0.6×0.6	扁抜長二角形	台形鋒				
2-28		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規18.6×0.6×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-29		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規19.8×0.7×0.5	扁抜長二角形	台形鋒				
2-30		基壇上段目	-	鉄製品	鉗子	規19.8×0.7×0.4	扁抜長二角形	台形鋒				

第10図 春日社古墳第2主体部遺物出土遺物（2）



No.	登録番号	出土遺構	層・位	種別	器種	法量(cm)	外側調整	内側調整	備考	写真図版
1	S-1	埴丘東側(北)盛土	-	埴輪	筒瓦	凸面幅15.8×現19×現16	ナダ	ナダ	馬形の尾か。	6-1
2	S-2	埴丘東側(北)盛土	-	埴輪	筒瓦	-	ヨコナメ・ハラナダ	ハラナダ・凸ナダ	対称?	6-2
3	S-3	埴丘東側(北)盛土	-	埴輪	筒瓦	凸面幅10.8×現21、高さ12	ヨコナメ・ヨコナダ	ナダ		6-3
4	S-4	埴丘西北	-	埴輪	筒瓦	凸面幅10.7×25、高さ12	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-4
5	S-5	埴丘東側(北)盛土	-	埴輪	筒瓦	凸面幅10.6×24、高さ12	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-5
6	S-6	周溝	-	埴輪	筒瓦	凸面幅10.7×30、高さ6.7	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-6
7	S-7	周溝	-	埴輪	筒瓦	凸面幅10.7×24、高さ10	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-7
8	S-8	埴丘東側(北)盛土	-	埴輪	筒瓦	凸面幅10.7×32、高さ12	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-8
9	S-9	埴丘南西	-	埴輪	筒瓦	-	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-9
10	S-10	周溝	-	埴輪	筒瓦	-	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-10
11	S-11	周溝	-	埴輪	筒瓦	-	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ・指ナダ		6-11
12	S-12	周溝	-	埴輪	筒瓦	-	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-12
13	S-13	埴丘南西	-	埴輪	筒瓦	凸面幅10.7×25、高さ6.8	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-13
14	S-14	埴丘南西	-	埴輪	筒瓦	凸面幅10.7×29、高さ6.8	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ・指ナダ	円形通し。	6-14
15	S-15	周溝	-	埴輪	筒瓦	凸面幅10.7×21、高さ6.7	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-15
16	S-16	埴丘東側(北)盛土	-	埴輪	筒瓦	凸面幅10.6×19、高さ6.9	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-16
17	S-17	埴丘東側(北)盛土	-	埴輪	筒瓦	凸面幅10.9×23、高さ6.8	タラハナメ・ヨコナダ	ナダ		6-17

第11図 春日社古墳埴丘及び周溝出土遺物（1）



No.	登録番号	出土遺物	種 類	種 别	器 形	法 量 (cm)	外因調整	内因調整	備 考	写真図版
1	S-18	猪丘東西ベルト	-	埴輪	円筒	凸面幅107.724、高さ9	タテハケメ・ヨコナギ	ナゲ	6-18	
2	S-19	周溝	-	埴輪	円筒	-	タテハケメ・ヨコナギ	ナゲ・拍ナゲ・拍オサエ	6-19	
3	S-20	周溝	-	埴輪	円筒	-	タテハケメ・ヨコナギ	ナゲ・拍ナゲ・拍オサエ	6-20	
4	S-21	周溝	-	埴輪	円筒	-	タテハケメ・ヨコナギ	ナゲ・拍ナゲ・拍オサエ	6-22	
5	S-22	周溝	-	埴輪	円筒	-	タテハケメ・ヨコナギ	ナゲ・拍ナゲ・拍オサエ	6-21	
6	S-23	周溝	-	埴輪	円筒	-	タテハケメ・ヨコナギ	ナゲ・拍ナゲ・拍オサエ	6-23	
7	S-24	周溝	-	埴輪	円筒	-	タテハケメ・ヨコナギ	ナゲ・拍ナゲ・拍オサエ	6-21	
8	S-25	周溝	-	埴輪	円筒	-	タテハケメ・ヨコナギ	ナゲ・拍ナゲ・拍オサエ	6-25	

第12図 春日社古墳埴丘及び周溝出土遺物（2）

町田・新井 1992・2003) が含まれる可能性が考えられた試料2の2点である。

2) 火山ガラス比分析

(1) 分析方法

試料1に含まれる火山ガラス比の比率と特徴を定量的に知るために、火山ガラス比分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

- ①試料12gを秤量。
- ②超音波洗浄により泥分を除去。
- ③80°Cで恒温乾燥。
- ④分析篩により1/4~1/8mmと1/8~1/16mmの粒子を篩別。
- ⑤1/4~1/8mmの粒子について、偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別比率を求める。

(2) 分析結果

火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして第13図に、その内訳を第1表に示す。試料1には、火山ガラスが少量含まれている(6%)。火山ガラスは、比率が高い順に纖維束状に発泡した軽石型(2.4%)、透明のバブル型(2.0%)、分厚い中間型(1.2%)、スponジ状に発泡した軽石型(0.4%)である。

3) テフラ組成分析

(1) 分析方法

試料2に含まれる火山ガラスの色調形態別比率と、重鉱物の組み合わせを把握するために、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- ①試料15gを秤量。
- ②超音波洗浄により泥分を除去。
- ③80°Cで恒温乾燥。
- ④分析篩により1/4~1/8mmと1/8~1/16mmの粒子を篩別。
- ⑤1/4~1/8mmの粒子について、偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別比率を求める(火山ガラス比分析)。
- ⑥1/4~1/8mmの粒子に含まれる重鉱物について、偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、重鉱物の組み合わせを調べる(重鉱物組成分析)。

(2) 分析結果

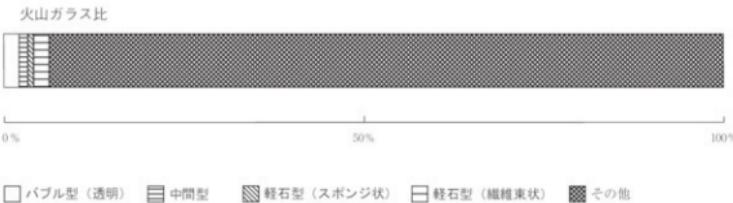
テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして第14・15図に、火山ガラス比と重鉱物組成の内訳を第1表及び第2表に示す。試料2には、火山ガラスがごく少量含まれている(3.2%)。火山ガラスは、比率が高い順に纖維束状に発泡した軽石型(1.2%)、透明のバブル型及び中間型(各0.8%)、淡褐色のバブル型(0.4%)である。

一方、重鉱物としては、比率が高い順に斜方輝石(38.8%)、磁鉄鉱*1(34.0%)、角閃石(13.6%)、單斜輝石(7.6%)などが含まれている。

4) 屈折率測定

(1) 測定方法

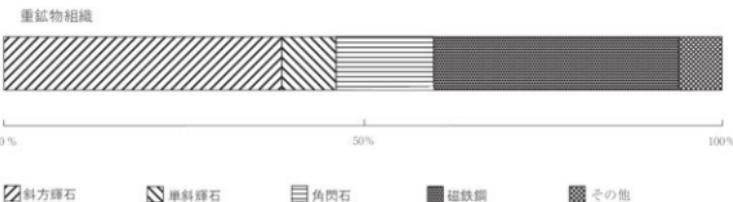
一般的に、土壤や堆積物などに含まれる細粒の火山ガラスの起源を求めるためには、よほど特徴的な粒子が検出されない限り、テフラ検出分析や火山ガラス比分析を含むテフラ組成分析などに合わせ、さらに高度なレベルの分析測定を実施する必要がある。そこで、2試料に含まれる火山ガラス(1/8~1/16mm)について、温度変化型屈折率測定装置(古澤地質社製MAIOT)により、屈折率(n)の測定を実施した。また、試料2については、含まれる斜方輝石を対象に、温度変化型屈折率測定装置(京都フィッシュン・トラック社製RIM S2000)により屈折



第13図 春日社古墳試料1の火山ガラス比ダイヤグラム



第14図 春日社古墳試料2の火山ガラス比ダイヤグラム



第15図 春日社古墳試料2の重鉱物組織組成ダイヤグラム

率 (γ) の測定を行った。測定には、実体顕微鏡下でハンド・ピッキングされた斜方輝石を用いた。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を第3表に示す。試料1に含まれる火山ガラス(30粒子)の屈折率(n)は、1.497-1.504である。一方、試料2に含まれる火山ガラス(32粒子)の屈折率(n)は、1.497-1.508である。試料2に含まれる斜方輝石の屈折率(γ)はbimodalで、1.714-1.721(31粒子)のほかに1.707-1.711(10粒子)の値が得られた。

5) 考察

火山ガラスの形態や屈折率などから、試料1(To-a?)にTo-aに由来する火山ガラスが含まれている可能性は考えられる。ただし、その比率は高くないことから、同定には総合的な検討が必要である。

一方、試料2(FP?)については、Hr-FPに特徴的なスponジ状に発泡した白色の軽石型ガラスや、本質物質であることを示唆するガラスが付着した斜方輝石や角閃石は認められなかった。また、Hr-FPでは一般には認められることのない、淡褐色のバブル型ガラスも検出された。さらに、火山ガラスの屈折率や斜方輝石の屈折率を

第1表 春日社古墳における火山ガラス比分析結果

試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	その他	合計
試料 1 (To-a?)	5	0	0	3	1	6	235	250
試料 2 (Hr-FP?)	2	1	0	2	0	3	242	250

数字は粒子数。 bw : バブル型, md : 中間型, pm : 軽石型, cl : 無色透明, pb : 淡褐色, br : 褐色, sp : スポンジ状, fb : 横維束状。

第2表 春日社古墳における重鉱物組成分析結果

試料	ol	opx	cpx	am	bi	mt	その他	合計
試料 2 (Hr-FP?)	0	97	19	34	0	85	15	250

数字は粒子数。 ol : カンラン石, opx : 斜方輝石, cpx : 単斜輝石, am : 各閃石, bi : 黒雲母, mt : 磁鉄鉱 (磁鉄鉱は光沢をもつ黒色の不透明鉱物)。

第3表 春日社古墳における屈折率測定結果

遺跡／試料／指標テフラ（年代）	火山ガラスの屈折率（n）	斜方輝石の屈折率（y）
春日社古墳 試料 1 (To-a?) ¹⁾	1.497-1.504 (30)	-
十和田 a (To-a, AD915)	1.496-1.508 ²⁾ 1.500-1.508 ³⁾ 1.503-1.507 ⁴⁾	1.706-1.708 1.706-1.708 -
春日社古墳 試料 2 (Hr-FP?) ¹⁾	1.497-1.508 (32)	1.707-1.711 (10) 1.714-1.721 (31)
権名二ツ岳伊香保テフラ (Hr-FP, AD6c)	1.501-1.504	1.707-1.711

*1: 屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定装置 (MAIOT) による。() : 測定粒子数。指標テフラのデータは、町田・新井 (1992, 2003) による。*2: 青森地域。*3: 岩手・秋田地域。*4: 会津・福島・仙台地域。

みても、Hr-FPとは異なるテフラ粒子が多く含まれている可能性が高い。

ただ、それにしても、火山ガラスの屈折率のrange、斜方輝石や角閃石が比較的多く含まれていることや、斜方輝石の一部の屈折率は、本試料中にHr-FPが含まれていることを示唆しているようにも見えることも否定できない。

火山灰編年学においては、テフラの一次堆積層の利用が基本であり、その認定には現地での火山灰編年学研究者による層相観察が不可欠である。今後、分析者による現地での土層観察や試料採取を期待したい。また、今回の同定精度は決して高いとは言えないことから、信頼度の高いEPM Aを利用した火山ガラスの主成分化学組成分析を併用して、同定精度の向上が図られると良い。

6) まとめ

仙台市春日社古墳の発掘調査の際に採取された2試料について、火山ガラス比分析、テフラ組成分析、火山ガラスと斜方輝石の屈折率測定が実施された。その結果、試料に権名二ツ岳伊香保テフラ (Hr-FP, 6世紀中葉) と十和田 a 火山灰 (To-a, A.D.915年) に由来するテフラ粒子が含まれている可能性のあることが明らかになった。